

日本教育心理学会 第59回総会 プログラム

Program of the 59th Annual Meeting of
the Japanese Association of Educational Psychology

2017年10月7日(土)～9日(月・祝)

名古屋国際会議場

総会準備委員長挨拶

第59回総会は、名古屋大学が担当校となり開催いたします。

総会のテーマは、「実践を豊かにする確かな理論」です。このテーマとしたのは、私たち準備委員会委員の、教育心理学に対する次のような考えがあるからです。教育心理学は、実践的性格を持っています。私たちは、実践に資する教育心理学研究を目指す必要があると考えます。しかし、本来、実践と理論、実践と研究は対立するものではありません。教育心理学を研究するものとして私たちは、実践に役立つ教育心理学であるために、確かな理論と堅実なデータが必須だと考えています。私たちは、教育心理学の一層の活性化のために、実践と理論の緊張感のある対話を積極的に図ることが効果的だと考えているのです。第59回総会において、研究発表やシンポジウム、自由な討論の中で、実践と理論の緊張感のある対話があちこちで繰り広げられることを期待しています。

今回の総会では、準備委員会企画として、基調講演と小講演と4つのシンポジウムを行います。基調講演は、ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジのHefer Benbenutty先生をお招きして、「学業での成功、自己効力感と家庭学習—なぜ自己調整学習と学業的満足遅延が必要なのか?—」というタイトルで、また小講演はBritt-Marie Drottz-Sjöberg先生による「チェルノブイリ事故からの心理学的教訓」を行います。準備委員会企画シンポジウムとしては、「心理危機研究をどのように現場実践に生かすか—研究の場と臨床現場の往還—」「学習動機づけ研究の未来—教育心理学研究における動向とこれから—」「福島第一原子力発電所事故がもたらした心理的被害について」「思春期における発達と問題行動」の4つを予定しています。一つひとつのタイトルの間に明確な関連性はありませんが、いずれも実践的で現代的な問題を取り上げ、理論と研究、そして実践の緊張感のある対話を試みようと考えています。

会場は、名古屋国際会議場です。名古屋駅から電車や地下鉄で20分程度、中部国際空港からでも1時間以内の場所にあります。学会開催のための設備も整っております。準備委員会一同、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

第59回総会準備委員会（名古屋大学）

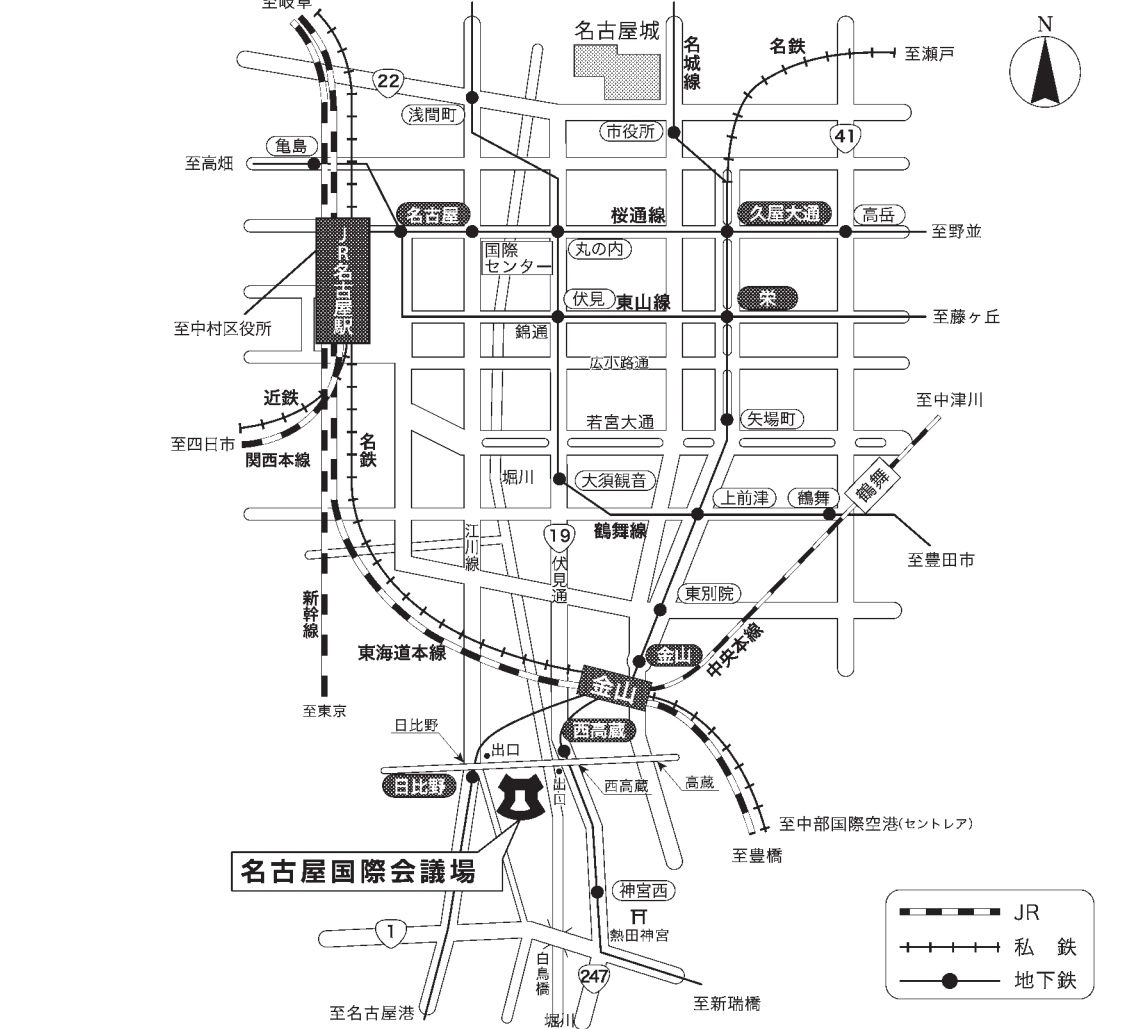
委員長 氏 家 達 夫

目 次

| | |
|--------------------------|-----|
| 会場のご案内・周辺図 | 7 |
| 会場へのアクセス | 8 |
| 会場フロア案内 | 9 |
| 会場フロアマップ | 10 |
| 参加者へのご案内 | 15 |
| 研究発表のご案内 | 18 |
| 総会日程 | 20 |
| 授賞式・会務報告会 | 23 |
| 準備委員会企画基調講演 | 24 |
| 準備委員会企画小講演 | 26 |
| 準備委員会企画シンポジウム | 30 |
| 研究委員会企画シンポジウム | 34 |
| 研究委員会企画チュートリアルセミナー | 37 |
| ハラスメント防止委員会企画講演 | 38 |
| 自主企画シンポジウム | 40 |
| ポスター発表 | 55 |
| 発表者索引 | 103 |

会場のご案内

至峠山 至犬山 至砂田橋



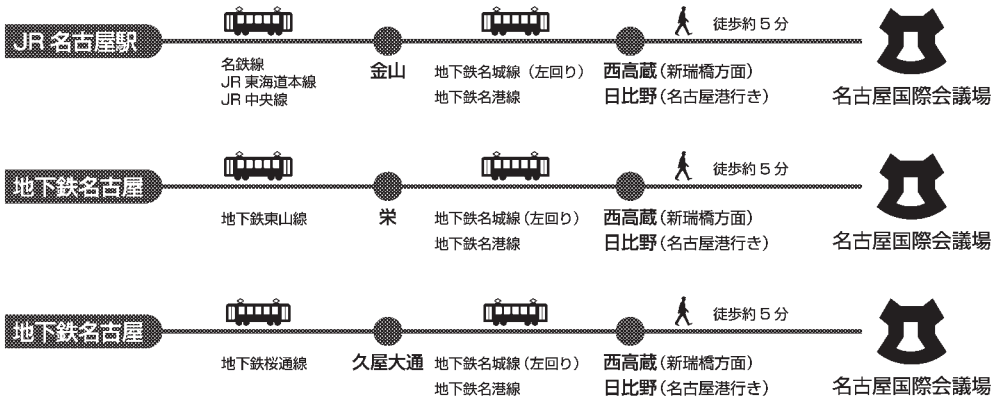
日比野.....



● **西高蔵**

会場へのアクセス

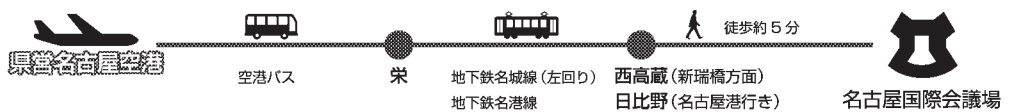
名古屋駅から



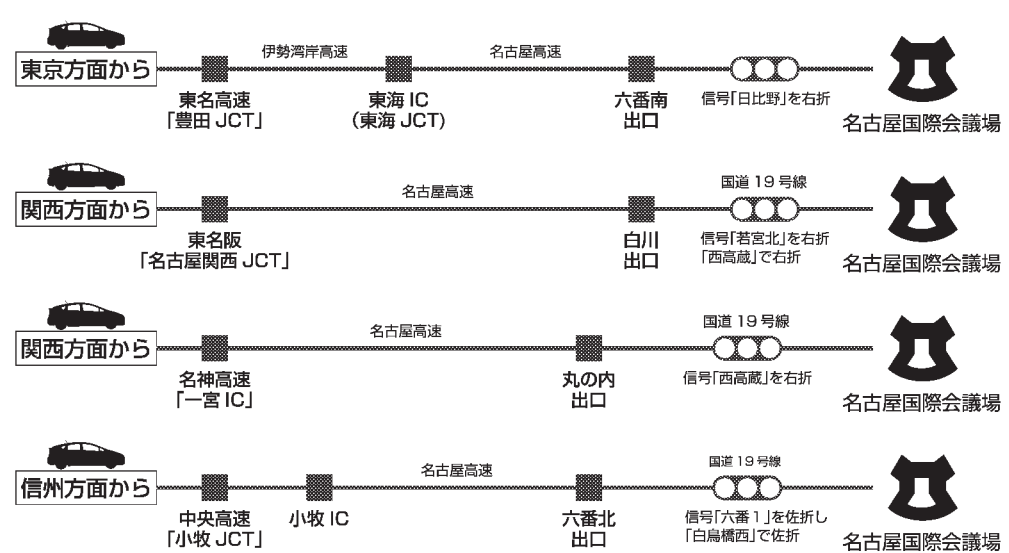
中部国際空港（セントレア）から



名古屋空港から



高速道路から



会場フロア案内

1階 2号館

| | |
|--------|---|
| ラウンジ | 総合受付 当日参加申込み受付 非会員シンポジスト受付 名誉会員・終身会員受付 参加章再発行受付 発表等変更受付 各種問合せ |
| 展示室211 | 休憩・打合せ室（電源あり） |
| 展示室212 | クローク |

1階 4号館

| | |
|--------|--|
| 白鳥ホールA | 授賞式・会務報告会 研究委員会企画シンポジウム1・2・3 研究委員会企画チュートリアルセミナー ハラスメント防止委員会企画講演 |
| 白鳥ホールB | ポスター発表 書籍販売・機器展示 |

2階 2号館

| | |
|--------|-------------|
| 会議室221 | 自主企画シンポジウム1 |
| 会議室222 | 自主企画シンポジウム2 |
| 会議室223 | 自主企画シンポジウム3 |

3階 2号館

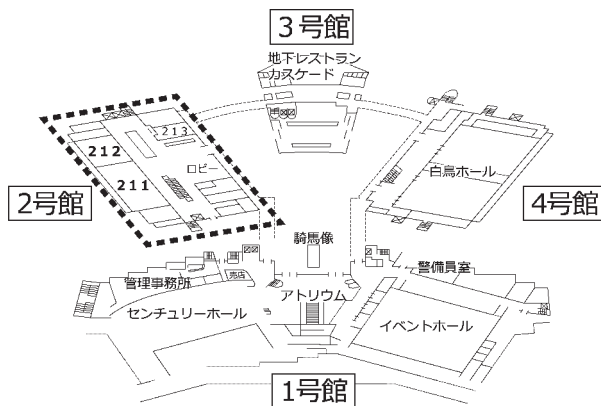
| | |
|--------|-------------|
| 会議室231 | 自主企画シンポジウム4 |
| 会議室232 | 自主企画シンポジウム5 |
| 会議室233 | 自主企画シンポジウム6 |

3階 2号館

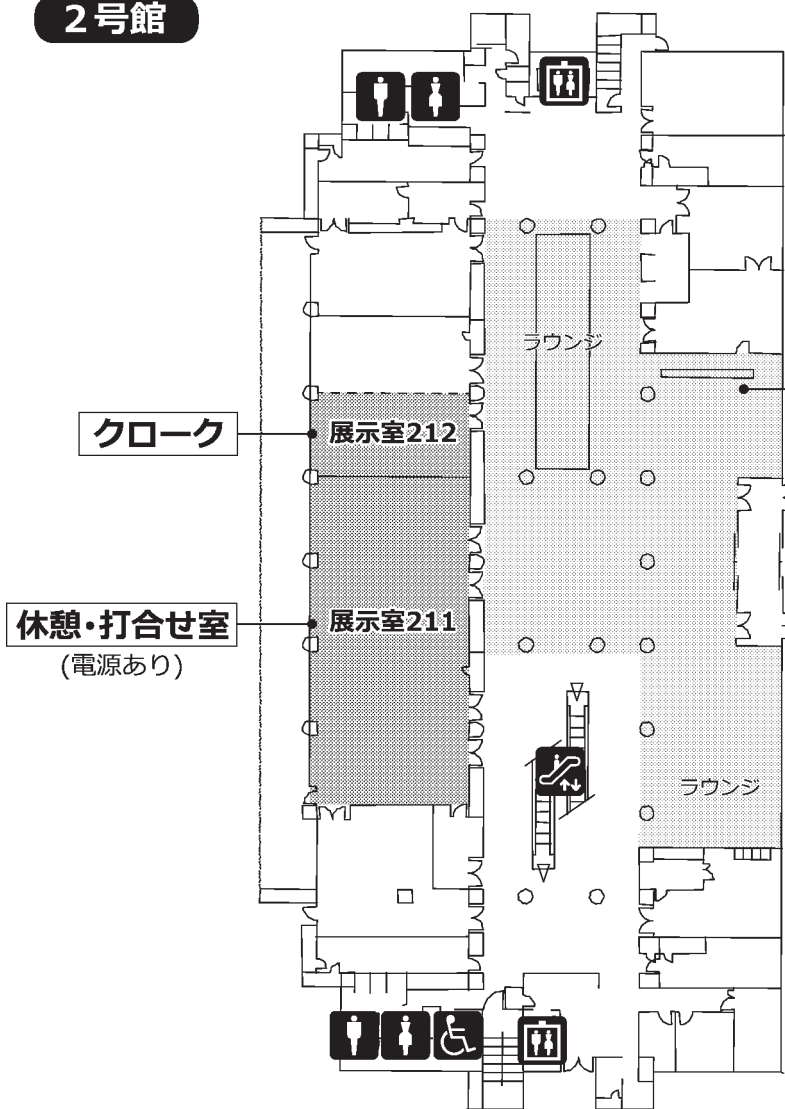
| | |
|-------|---|
| 国際会議室 | 準備委員会企画基調講演 準備委員会企画小講演 準備委員会企画シンポジウム1・2・3・4 |
|-------|---|

会場フロアマップ

1階



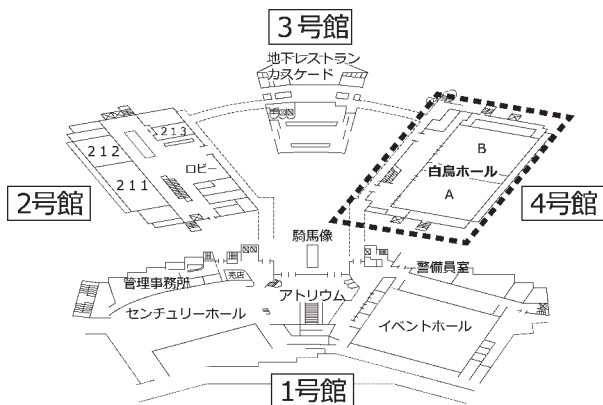
2号館



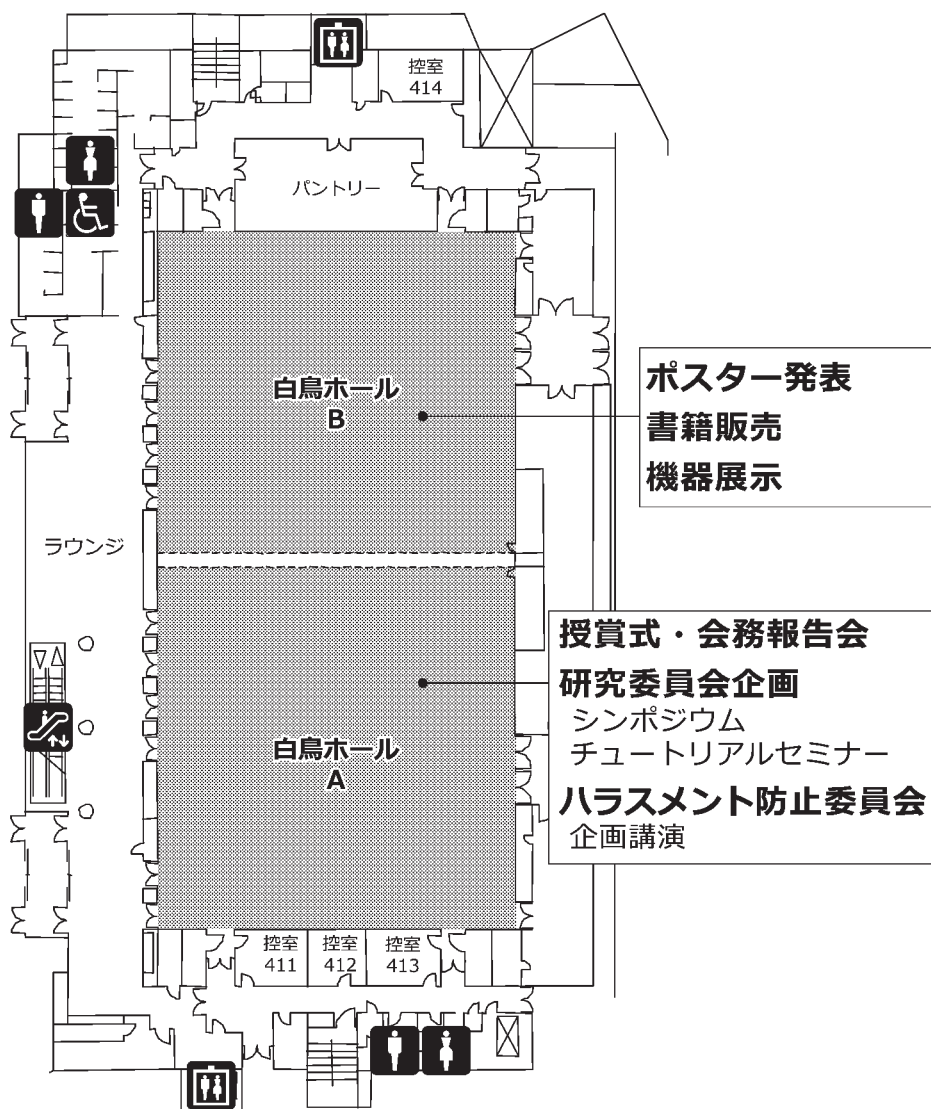
総合受付

当日参加申込み受付
非会員シンポジスト受付
名誉会員・終身会員受付
参加章再発行受付
各種問合せ

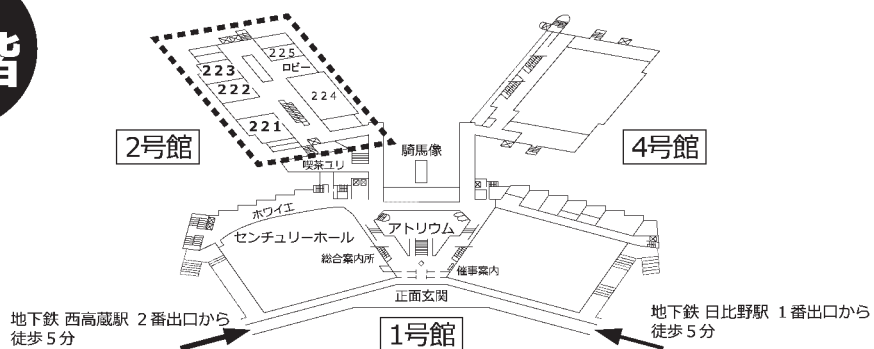
1階



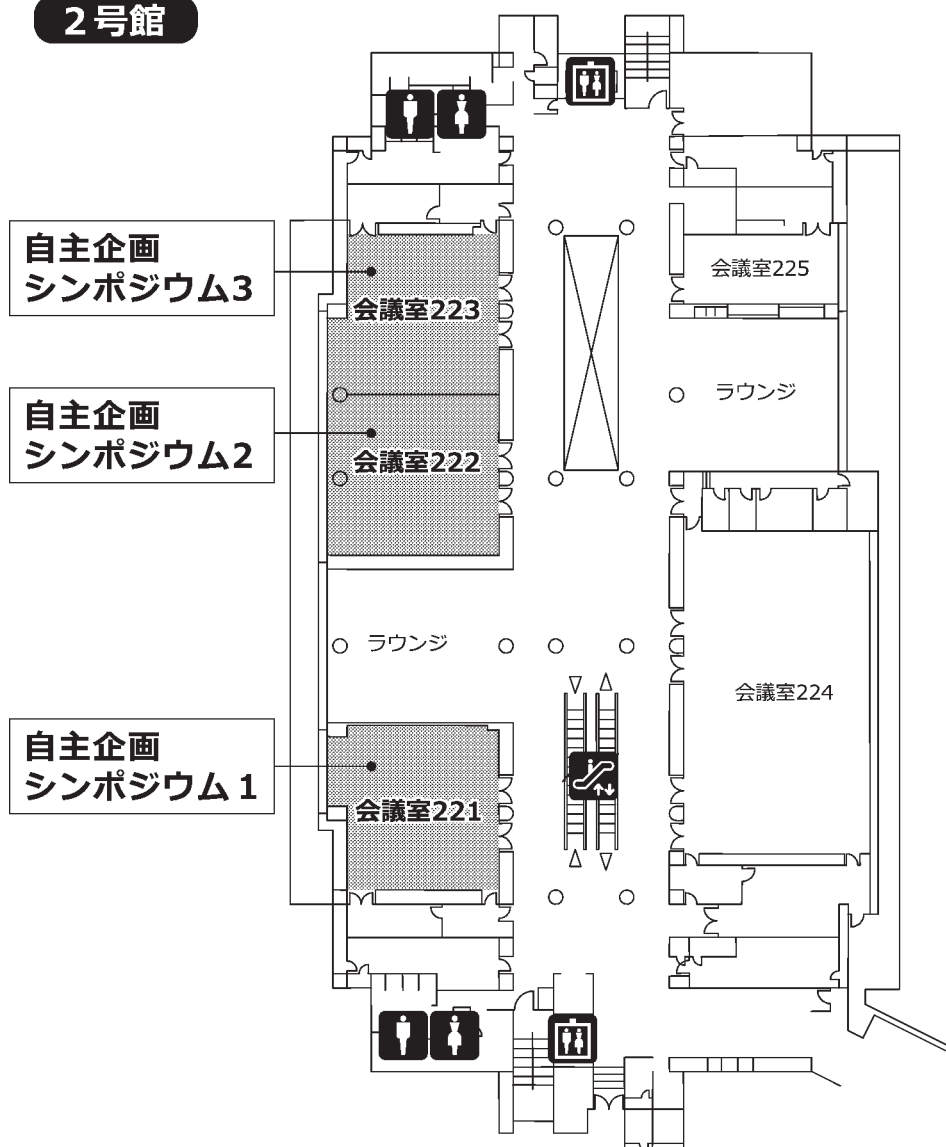
4号館



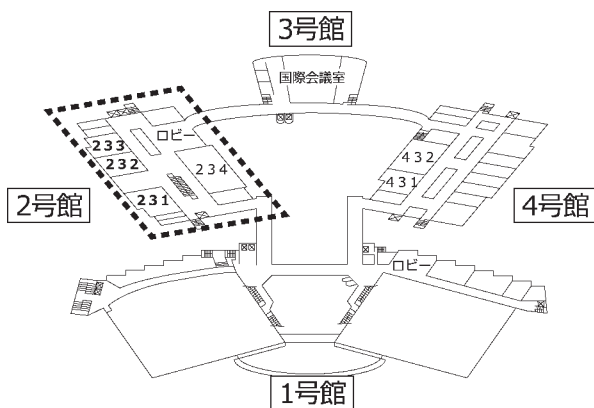
2階



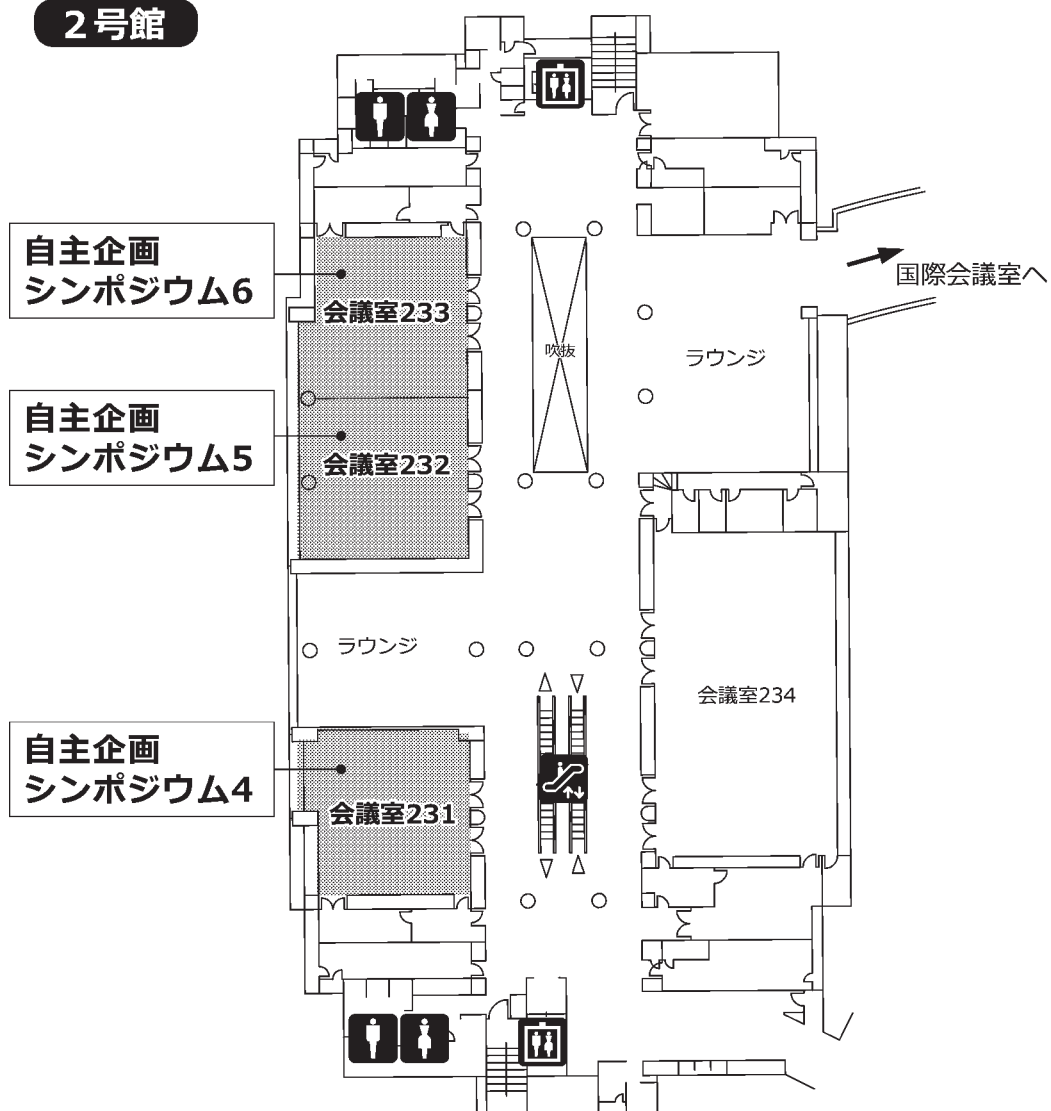
2号館



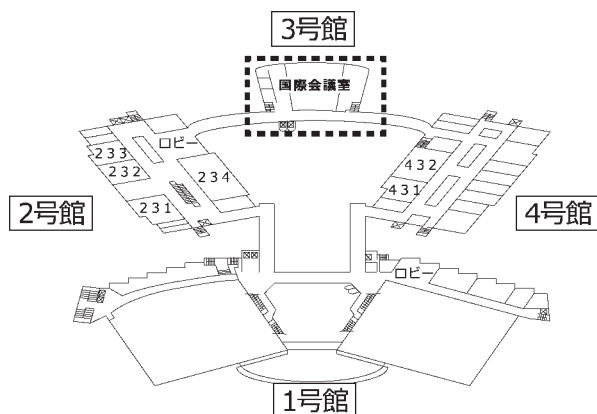
3階



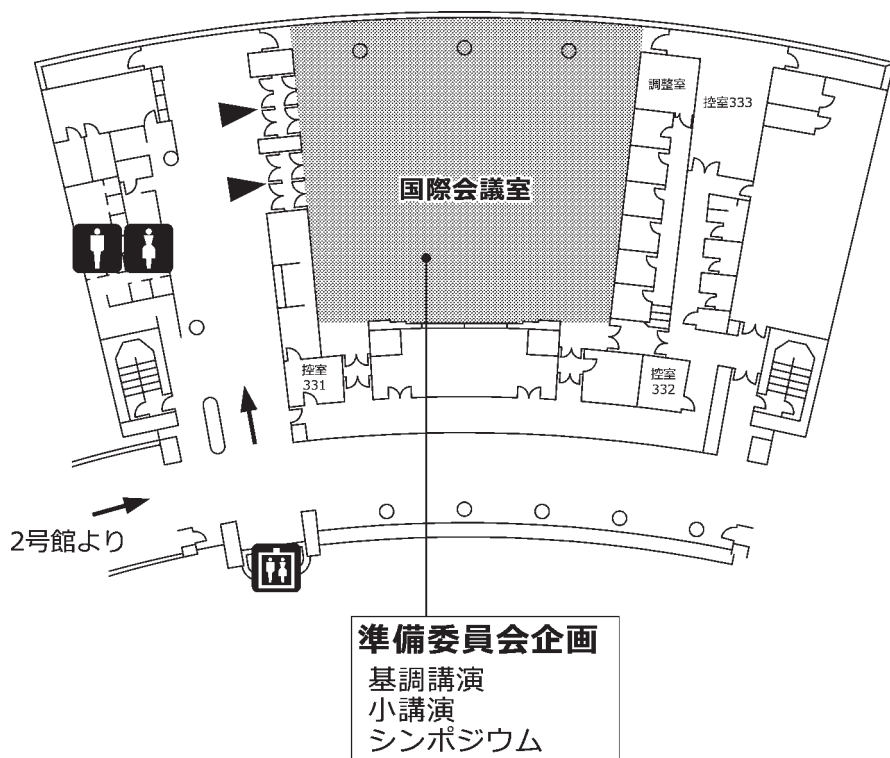
2号館



3階



3号館



1. 参加章

総会期間中は必ず参加章をお付けください。

2. 事前参加申込みをされている方の受付

事前にお送りした参加章を持っている方は受付の手続きは要りません。参加章を付けて、各会場へそのままお越しください。

参加章を忘れた方は、2号館1階の総合受付にて、再発行申込み用紙に必要事項を記入して、手続きをしてください。

3. 当日参加申込みの方の受付

当日参加申込みの方は、2号館1階の総合受付にて、参加申込み用紙に必要事項を記入して、総会参加費を添えてお申込みください。

＜受付時間＞

第1日 8:30～17:00

第2日 8:30～17:00

第3日 9:00～13:30

＜総会当日参加費＞

| | 3日間参加 | 1日のみ参加 |
|--------------|---------|--------|
| 会員の方（大学院生以外） | 12,000円 | — |
| 会員の方（大学院生） | 10,000円 | — |
| 会員でない方 | 13,000円 | 5,000円 |
| 学部学生の方 | 5,000円 | 2,000円 |

＜懇親会当日参加費＞

| | |
|-------------|--------|
| 一般の方 | 6,000円 |
| 大学院生・学部学生の方 | 4,000円 |

※ ポスター連名発表者が総会に参加される場合は、別途、参加費が必要です。

※ 会員でない自主企画シンポジウム登壇者が会期を通して参加する場合は、お振込み済みの登壇者参加費と当日参加費との差額8,000円で参加できます。

※ 会務報告会資料や手提げ袋を、2号館1階および、4号館1階のラウンジに用意してありますので、適宜お取りください。

4．招待シンポジスト・名誉会員・終身会員等の方の受付

2号館1階の総合受付までお越しください。参加章をお渡しします。

5．クローク

2号館1階の展示室212にて、荷物をお預かりいたします。預ける荷物には、貴重品を含めないようにお願いします。利用時間は以下の通りです。

第1日 8:30～19:00

第2日 8:30～19:00

(懇親会に参加される方は、その前に荷物をお受取りください)

第3日 9:00～16:30

6．昼食

ご持参いただいた昼食等は、2号館1階の展示室211でお召し上がりいただけます。どうぞご利用ください。

第2日の授賞式・会務報告会の会場（4号館 白鳥ホールA）には、軽食を用意します。お気軽にご参加ください。

7．休憩・打合せ室

2号館1階の展示室211をご利用ください。電源も用意しています。

8．懇親会

第2日の19:00から、名古屋国際会議場 7階 展望レストラン パステルにて行います。名古屋の夜景と料理を楽しみながら、会員同士の交流を深めていただければと思います。参加者数に余裕がある場合には当日の受付もいたします。

9．インターネットの利用

インターネットは会場のラウンジにて使えます。パソコンは各自ご用意ください。無線LANのパスワードは当日掲示します。

10. 託児サービス

会期中，託児室を設けますので，どうぞご利用ください。

＜利用時間＞

第1日 8:30～18:50

第2日 8:30～18:50

第3日 9:00～16:20

ご利用希望の方は，学会事務局（office@edupsysh.jp）へご連絡ください。折り返し，申込み書等をお送りします。

11. シンポジウム等の録音・録画

シンポジウム等の録音・録画については，著作権および肖像権の保護のため，企画者（司会者）より録音・録画を許可する旨のアナウンスがある場合を除き，お控えください。

12. コピー機・プリンタの利用

名古屋国際会議場1号館1階の管理事務所手前のパソコンコーナーにて，有料で利用できます。

13. 連絡先

日本教育心理学会事務局

＜会期前＞

E-mail：office@edupsysh.jp

TEL：03-3818-1534

＜会期中＞

TEL：090-5201-0234（総会期間中のみ使用できます）

ポスター発表

1. ポスター発表は、4号館1階白鳥ホールBで行います。
2. 「発達」、「教授・学習・認知」、「社会」、「人格」、「臨床」、「特別支援」、「学校心理学」、「測定・評価・研究法」の8部門で行います。
3. 割り当てられたセッション中（2時間）ポスターを掲示し、かつ、プログラムで指定された在席責任時間（ポスター番号が奇数の方は前半1時間、偶数の方は後半1時間）の間、質疑に応じることにより正式発表とみなします。在席責任時間以外の時間でもできるだけ在席してください。なお、それぞれの在席責任時間中に、責任発表者の在・不在の確認をします。
4. 責任発表者は、セッション開始10分前までに、4号館1階白鳥ホールB入口前のポスター発表受付にお越しください。責任発表者を示すりボンをお渡しします。リボンはセッション終了後にポスター発表受付にご返却ください。
5. セッション開始5分前までに発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼ってください。ポスター番号は、プログラムに記載してあります。
6. パネルの大きさは、横90cm、縦210cmです。ポスター最上部には発表題目、発表者の氏名、所属を大きく記載してください。
7. 文字の大きさに特に指定はありませんが、ポスターから離れた位置（約2m）からでも読める大きさにしてください。
8. 責任発表者が欠席した場合、および在席責任時間中に在席の確認ができなかった場合は原則「発表取消」となります。ただし、連名発表者の会員がいる場合は、申請のうえ、連名発表者の会員1人を責任発表者に変更することができます。なお、責任発表者になるのは1人1回に限りますので、他の発表の責任発表者になっている方に変更することはできません。責任発表者の欠席、変更などについては、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該発表の30分前までに2号館1階の発表変更受付に発表変更・取消申請用紙を添えてお申し出ください。申請用紙は、第59回総会ホームページからダウンロードできます。
9. 配付資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意ください。また、配付も各自でお願いします。
10. 掲示したポスターは、セッション終了後10分以内に外してください。次の発表予定者の準備時間を確保するために、終了後10分を経過しても掲示したままのポスターは取り外し、処分しますのでご了承ください。

自主企画シンポジウム

1. 各会場にプロジェクターを用意しています。パソコンは各自でご用意いただき、備え付けのプロジェクターに接続してください。
2. 配付資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意ください。当日、資料が不足した場合には、企画者にてコピー等をお願いします。また、配付も各自でお願いします。
3. 登壇者の欠席等については、会期前はメールで学会事務局に、会期中は当該シンポジウムの開始30分前までに発表変更・取消申請用紙を添えて2号館1階の発表変更受付にお申し出ください。申請用紙は、第59回総会ホームページからダウンロードできます。

準備委員会ならびに研究委員会企画シンポジウム等

会場に、係員を配置します。配付資料がある場合は、開始10分前までに会場係員にお渡しください。

総会日程 第1日 10月7日 (土)

| | | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | |
|-------------|---------------------|-------|--|-------|-------|---|-------|---|-------------------------------|-------|-------|-------|
| 部屋名 (人数) | | 9:30 | | | | | | | | | 18:30 | |
| 3号館3階 | 国際会議室 (336) | | (準)シンポジウム1 心理危機研究をどのように に現場実践に生かすか | | | | | | (準)シンポジウム2 学習動機づけ研究の未 来 | | | |
| | | 15:30 | | | | | | | | | | 17:30 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 2号館3階 | 231 (72) | | JA04 地域の教育センターとの連 携を通じた認知カウンセリ ングの新たな展開 | | | JB04 わが国における自 己調整学習の展開 と未来 | | JC04 学びのユニバーサルデ ザイン (UDL) に基づ く教育実践の再考 | | | | |
| | 232 (72) | | JA05 ポジティブ生徒指 導の動向 (3) | | | JB05 「動機づけを支え る」ことを考える | | JC05 発達障害理解教育 の授業内容の検討 | | | | |
| | 233 (72) | | | | | | | | | | | |
| 2号館2階 | 221 (72) | | JA01 協同的な学習にお けるグループ差を 考える | | | JB01 学習者のパフォー マンス | | JC01 学力の評価と測定 をめぐって | | | | |
| | 222 (72) | | JA02 学校からの虐待通 告 | | | JB02 合理的配慮におけ るICT活用の可能 性 | | JC02 探究的なPBLの 学習過程デザイン 原則 | | | | |
| | 223 (72) | | JA03 学校適応はどのよ うにとらえられる のか (9) | | | JB03 沖縄の「子育て・教育へ の共同的営み」を形作 る歴史・文化・人々 | | JC03 他律から自律を促 す学習支援とは | | | | |
| 4号館1階 | 白鳥ホール A (312) | | | | | (研)シンポジウム1 若者はいかにして社 会・政治問題と向き合 うようになるのか | | | | | | |
| 4号館1階 | 白鳥ホール B | | ポスター発表 PA01～82 | | | ポスター発表 PB01～83 | | ポスター発表 PC01～82 | | | | |

※紙面の都合上、副題は省略しています。

総会日程 第2日 10月8日 (日)

| | | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | |
|-------------|-----------------|-------|---|--------------|-------|------------------------------------|-------|---|------------------------------|-------|-------|--|
| 部屋名 (人数) | | 9:30 | | | | | | | | | | |
| 3号館3階 | 国際会議室 (336) | | (準)シンポジウム3 福島第一原子力発電所事故がもたらした心理的被害について | | | | | | (準)基調講演 学業での成功，自己効力感と家庭学習 | | | |
| | | 13:30 | | | | | 15:30 | | | | | |
| 2号館3階 | 231 (72) | | JD04 UDL (学びのユニバーサルデザイン)で「授業が変わる」・「子どもが変わる」・「教師が変わる」 | | | JE04 チームとしての学校現場からの報告 | | JF04 児童生徒のインターネット上でのいじめやトラブルをどう理解し，どう介入するか | | | | |
| | 232 (72) | | JD05 児童・青年の発達とメンタルヘルスに関する大規模縦断研究 | | | JE05 これからの教育を問う | | JF05 発達の行動遺伝学の現在 | | | | |
| | 233 (72) | | JD06 学校教育を通して育む社会情動的スキル | | | | | JF06 大学におけるネットいじめの様相と対策 | | | | |
| 2号館2階 | 221 (72) | | JD01 学習支援としての説明は本当に有効なのか (2) | | | JE01 教科教育の心理学 | | JF01 リーディングスキルテスト (RST) | | | | |
| | 222 (72) | | JD02 社会化の担い手たちはいかにして子どもの社会性を育むのか | | | JE02 学びをうながす諸要因について | | JF02 「セルフ・エスティーム」研究の抜本的再考 (3) | | | | |
| | 223 (72) | | JD03 教員の自律性支援による児童生徒のコンピテンシーの育成 | | | JE03 縦断的研究の難しさ | | JF03 教員養成と教育心理学 | | | | |
| | | 12:15 | | | | 13:15 | | | | 18:30 | | |
| 4号館1階 | 白鳥ホールA (312) | | (研)シンポジウム2〔公開〕 教育心理学から考える“チーム学校” | 授賞式 会務報告会 | | ハラスメント防止委員会企画講演 ハラスメント被害者の心理的回復 | | (研)シンポジウム3 今，教育現場でLGBTの子どもたちは | | | | |
| 4号館1階 | 白鳥ホールB | | ポスター発表 PD01～83 | | | ポスター発表 PE01～80 | | ポスター発表 PF01～81 | | | | |

※紙面の都合上、副題は省略しています。

授賞式・会務報告会

第2日 10月8日（日）12:15～13:15

4号館1階 白鳥ホールA

城戸奨励賞・優秀論文賞の授賞式ならびに受賞者のスピーチ，そして学会の活動報告と意見交換の会を開催します。

お昼の時間ですので，会場に軽食をご用意します。どうぞ気軽にご参加ください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1．総会準備委員長のあいさつ | 氏家達夫 総会準備委員長 |
| 2．城戸奨励賞選考経過と講評 | 柴山 直 選考委員長 |
| 3．城戸奨励賞授与と受賞者のことば | 各受賞者 |
| 4．優秀論文賞選考経過と講評 | 氏家達夫 選考委員長 |
| 5．優秀論文賞授与と受賞者のことば | 各受賞者 |
| 6．学会の活動報告と意見交換 | 小野瀬雅人 理事長 |
| 7．第60回（2018年）総会の案内 | 安藤寿康 次期総会準備委員長 |

総会日程 第3日 10月9日（月・祝）

| | | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 |
|-------------|---------------------|------|-------|---|-------|-------|-------|---|-------|-------|-------|
| 部屋名 (人数) | | | | 11:30 | | | | 15:30 | | | |
| 3号館3階 | 国際会議室 (336) | | | (準)小講演 チェルノブイ リ事故からの 心理学的教訓 | | | | (準)シンポジウム4 思春期における発達と 問題行動 | | | |
| 2号館3階 | 231 (72) | | | JG04 心理教育を子ども たちにいかに届けるか？ | | | | JH04 「気になる子ども」 も一緒に育つ | | | |
| | 232 (72) | | | JG05 学校と地域とのより よい協働を目指して | | | | JH05 保育者のスイッチ 離職とスタンバイ 離職 | | | |
| | 233 (72) | | | | | | | | | | |
| 2号館2階 | 221 (72) | | | JG01 高等学校における不 登校への支援と“社 会で生きていく力” | | | | JH01 英語教育における 深い学びとコミュ ニケーション | | | |
| | 222 (72) | | | JG02 役割取得能力（社会的 視点取得能力）と 適応の関係を考える | | | | JH02 文系学生に対する 心理統計教育 | | | |
| | 223 (72) | | | JG03 認知心理学からの カリキュラム構成 に向けて | | | | JH03 なぜ子どもが立ち直ろう とするとときに「問題」は顕 在化するのだろうか | | | |
| 4号館1階 | 白鳥ホール A (312) | | | (研)チュートリアルセミナー 統計モデルの違いを理解する | | | | | | | |
| 4号館1階 | 白鳥ホール B | | | ポスター発表 PG01～81 | | | | ポスター発表 PH01～78 | | | |

※紙面の都合上、副題は省略しています。

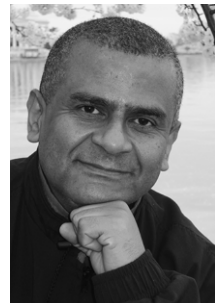
第2日 10月8日（日）16:00～18:00

3号館3階 国際会議室

学業での成功，自己効力感と家庭学習 —なぜ自己調整学習と学業的満足遅延が必要なのか？—

講師：Hefer Bembenutty #（ニューヨーク市立大学クイーンズ校）

企画・司会：中谷素之（名古屋大学大学院）



本講演の目的

本講演の目的は，自己調整学習と学業的満足遅延が，先導的な研究領域として，学業での成功，自己効力感，家庭学習，そして教育心理学における現在の動向をいかに切り開いてきたかについて，最先端の理論的背景，近年の研究知見，そして実践上，教育上の示唆を示すことにある。自己調整学習と学業的満足遅延によって，さまざまな困難や障壁，そして難題を克服することを支持する，国際的な研究知見やクラスでの効果的な実践例について議論する。

理論的背景

学業での成功や学業達成には自己調整が求められる。自己調整学習とは，学習者が個人の重要で価値ある目標を成し遂げるために，自らの活動や行動，そして信念を，組織的，循環的かつ能動的にコントロールするプロセスのことである。自己調整学習者とは，自らの学業に関する目標に向け，活動や思考，感情そして行動の潜在的能力を活性化する存在である。

しかし，自己調整学習を成功させるには，学業文脈において満足を遅延する個人の意志とコミットメントが必要である。学業的満足遅延とは，時間的には遠くにある重要な学業に関する目標を追求するために，目前の利用可能な報酬を先延ばしする学習者の能力のことである。われわれの社会では，長期的な学業に関する目標を達成するために，目前にある利用可能でより価値の低い報酬をあきらめない限り，学習の経験はうまくいかないのである。そのため，自己調整について包括的に理解するためには，どんな要因が満足遅延の成立を規定しているのかについて知る必要がある。

最近まで，自己調整と学業的満足遅延を含むプロセスについて理解する試みは，別々の研究として行われてきた。本講演では，教育心理学研究における現在の動向のなかで，この両者の接点を明らかにしたい。

本講演の最重要点

本講演のなかで，演者は，自己調整学習の理論的視点に基づいて，学業的満足遅延と自

己効力感、そして家庭学習がどのように関連するかについて議論する。

学業文脈における満足遅延が、学習課題達成の可能性を高め、自己効力信念を向上させることを明らかにした実証的知見を取り上げたい。

特に、以下の点について議論を行うものとする。

- (a) 古典的なものから現在に至るまでの満足遅延研究の理論的視点について
- (b) 自己効力感と家庭学習、そしてそれらが満足遅延および自己調整にどのように関連するかについて
- (c) 自己調整学習アプローチから、学業での成功について理解を深める学業的満足遅延と自己調整との関連に関する研究知見について
- (d) 教育心理学的な指導への示唆、そして全ての学習者にとって最善となるような学習指導の実践に向けた考察

また、今後の研究への示唆についても議論する。本講演では、自己効力信念や、宿題をやり遂げることで、そして満足遅延の意志を持続して学業で成功することなど、これらの研究の諸領域を含め、生徒の自己調整の促進を支援しうる理論やツール、そして技術について論じたい。

参加者への期待される貢献

参加者は、教育学研究者、心理学研究者による最新の研究知見に基づいた、学校教育や大学における教育改善のための包括的なアイデアや原理、技術を得ることができるであろう。本講演では、生徒を能動的で自主的な学習者にするよう力づけようとする教師、大学院生、そして大学教員のために有益な情報源を提供する。あらゆる教育の段階において、自己調整学習と学業的満足遅延は、学業達成を確かなものにしていくうえで不可欠で重要な要素であるという考えを伝えてゆく。

本講演の重要な貢献は、価値ある学習上の目的を達成するために、目標、動機づけ、そして満足遅延に焦点を当てる、能動的な主体としての学習者を強調することにある。すなわち本講演は、生徒、教師、そして大学教員は、生徒の自己調整学習方略や適切な動機づけ信念、そして学業的な満足遅延の獲得を力づけることができる、という強い信念に基づいているのである。

講演者略歴

講演者のヘファ・ベンベヌティ氏は、アメリカ教育学会（AERA）における学業と自己調整学習研究部会（SIG）のシニア部会長である。ニューヨーク市立大学クイーンズ・カレッジ 中等教育と青年支援学部のエデュケーションの准教授であり、教育心理学コース、研究シンポジウム、そして教育心理学講演シリーズの学部コーディネーターである。また同氏は、ニューヨーク市立大学大学院センターのエデュケーションの専攻において博士号を取得している。現在進行中の研究課題には、生徒および教師の自己調整学習、学習におけるテスト不安の効果、家庭学習の自己調整、自己効力信念、多文化教育、そして学業的満足遅延に関するものなどがある。さらに、大学生における学業での満足遅延への意志が、学業成果をいかに予測するかに関する研究が進行している。教師の自己効力信念と自己調整に関する出版物があり、学術誌の特別編集号のエディターを務めている。『自己調整学習の多様な展開：バリー・ジーママンへの賛辞』の共編者、『教職課程学生のための自己調整学習の発達と教授技術』の共著者である。また『現代の教授と学習のパイオニア』を著している。

第3日 10月9日（月・祝）10:00～11:30

3号館3階 国際会議室

チェルノブイリ事故からの心理学的教訓

Lessons from the Chernobyl accident

講師：Britt-Marie Drottz-Sjöberg # （ノルウェー技術工科大学）

企画・司会：氏家達夫 （名古屋大学）



Worry and concern are main public reactions to a nuclear accident. The Joint Study Project 2 (JSP2) was a collaboration in the 1990s between the European Union and the former Soviet Union states of Russia, Ukraine and Belarus that included one research subgroup focused on social and psychological effects of the Chernobyl accident. This presentation will build on the lessons learnt from that situation and suggest areas worthy of consideration when citizens face real or perceived risk in the aftermath of radioactive fallout. At the time of the Chernobyl accident the overall framework of national and international regulatory documents guiding the response to the post-accidental situation were not fully developed and consistent resulting in uncertainty and inconsistency. In addition, the political and economic situations for the mentioned countries were, from mid 1980s well into 1990s, turbulent including the transition from a regime of secrecy to information openness, the breaking up of the Soviet Union and economic decline markedly affecting citizens' wellbeing. On an individual level people experienced initial silence from authorities, subsequently affecting trust and wellbeing and inviting the spread of rumors, later followed by massive countermeasures, including relocation in areas of the most affected, restrictions in other parts to use local produce and massive health checks; countermeasures that were not always accompanied with information or individual feedback on results. Worries included health effects for children as well as adults and not the least for pregnant women and future generations. Furthermore, there were concerns about effects on daily life including contamination of food products and the surrounding landscape, the prospect of becoming relocated or resettled without much individual

choice, possible health effects due to living for years in areas that were to be relocated, and the sharp decline of monetary value. Nevertheless, the overall psychological sentiment of people participating in the JSP2 project in more and less affected areas was stoicism leaning towards depression and at times apathy. Major lessons learnt from the project include the crucial importance of immediate, reliable and consistent information from authorities to affected people to enhance trust and counteract disinformation and rumors, and the central role of enhancing personal control in situations of risk. Personal control is associated with having reliable information, choice options, freedom to take decisions and behave within available frameworks. Since the Chernobyl accident national and international regulatory frameworks have been reviewed, decision support tools have been developed, and a market for personalized measurement tools has emerged. In spite of the high level of knowledge sophistication and expertise in the fields of medicine, dosimetry, radiation protection and overall societal post-accident response it is my belief that the implementation of countermeasures is not entirely a matter for specialists. It is possible and necessary to strengthen individuals' abilities to appraise situations and react in an appropriate manner to radiation risks. This objective to enhance personal control in radiation risk situations can be achieved through experts' skillful communication and guidance, and strategically organized social facilitation of individuals' self-help behavior.

不安と懸念は、原子力事故に対する市民のおもな反応である。ジョイント・スタディ・プロジェクト 2 (JSP2) は、1990年代に行われたEUとロシア、ウクライナ、ベラルーシの旧ソ連諸国の間の共同研究で、チェルノブイリ事故の社会的および心理的影響に焦点を当てた研究グループを含んでいた。この講演では、その状況から学んだ教訓を基にして、放射能降下の後に市民が現実の、または感知されるリスクに直面したときに考慮すべき分野を示唆したい。チェルノブイリ事故当時、事故後の状況への対応を導く国内および国際規制文書の全体的な枠組みは完全には開発されておらず、不確実性と不一致が生じていた。さらに、1980年代半ばから1990年代にかけての政治経済情勢は、秘密の政権から情報公開への移行、ソビエト連邦の崩壊、市民のウェルビーイングに顕著な影響を及ぼす経済的衰退を含む激しいものであった。個人レベルでは、人々は当局から当初何も知らされず、続いて信頼と幸福が害われ、噂の広がり招き、その後、最も影響を受けた地域からの避難、地元産品を他の地域で使うことの制限、大規模な健康診断—それは対策の1つであったが、必ずしも情報は提供されず、個人々人への結果のフィードバックも行われなかった—が行われた。心配は、妊娠中の女性や未来の世代にとどまることなく、大人の健康への影響を含んでいた。さらに、食品や環境の汚染の中で生活することの影響や、十分な個人的選択なしに避難、移住することへの見通し、避難すべき地域に長年生活することによる健康への

影響、金銭的価値の急激な低下への懸念があった。多少なりとも影響を受けた地域のJSP2プロジェクトの対象となった人々の全体的な心理的感情は、抑うつに傾いたストイシズムと時には無関心であった。このプロジェクトから得られた主な教訓には、信頼や、虚偽情報や噂への対処、リスクの状況で中心的な役割を果たす個人的コントロールを強化するために、影響を受けた人々に対する当局からの速やかで、信頼できる一貫性のある情報提供の重要性が含まれている。個人的コントロールは、信頼性の高い情報や可能な選択肢、意思決定の自由を持つことや、利用可能なフレームワーク内で行動することに関連している。チェルノブイリ事故の国内および国際的な規制の枠組みが見直されて以来、意思決定支援ツールが開発され、パーソナライズされた計測ツールの市場が登場した。医学、線量測定、放射線防護、社会的事故後の全般的な知識の高度化と専門知識の高レベルにもかかわらず、対策の実施は専門家にとっての問題ではないと私は信じている。状況を評価し、放射線リスクに対して適切な方法で反応する個人の能力を強化することは可能であり、必要である。専門家の巧みなコミュニケーションとガイダンス、戦略的に組織された個人の自助行動の社会的円滑化を通じて、放射線リスク状況の個人的コントロールを強化するという目的を達成することができる。

講師略歴

1980年 University of Gothenburg, Department of Psychology, Sweden 卒業, 1986年 University of Gothenburg, Department of Psychology, Sweden 修了, 1991年 Stockholm School of Economics, Sweden 学位取得, 1994年からUniversity of Gothenburg 講師, 1997年から現在までProfessor of Social Psychology, Department of Psychology, Norwegian University of Science and Technology, NTNU。

彼女は、チェルノブイリ事故 (JSP-2) の社会的および心理的影響に関する1990年代初頭のEU-CIS共同プロジェクトに参加し、健康、環境の状況におけるリスク経験、知覚およびコミュニケーションの問題を研究してきた。ノルウェーの原子力安全研究(NKS/SOS-1)、スウェーデン国家核廃棄物審議会(KASAM)、リスク分析学会欧州連合、ノルウェー研究協議会グローバル変化委員会、ノルウェー研究協議会の医学と健康委員会、社会科学研究委員を歴任。現在、国際リスク・アセスメント・マネジメント学術誌編集委員会、スウェーデン王立工学アカデミー、スウェーデン王立科学アカデミーの放射線防護研究のスウェーデン国内委員会、スウェーデンのリスクアカデミーの科学諮問委員会のメンバーである。

最近のおもな論文

- Drottz-Sjöberg, B.-M. (2016). Risk as a condition of our society. In C. Y. Robertson-von Trotha (Hrsg.) *Die Zwischengesellschaft. Aufbrüche zwischen Tradition und Moderne?* (pp. 83-90). Baden-Baden: Nomos Verlagsgesellschaft.
- Drottz-Sjöberg, B.-M. (2012). Tools for risk communication. In Sabine Roeser, Rafaela

- Hillerbrand, Per Sandin and Martin Peterson (Eds.), *Handbook of Risk Theory. Epistemology, Decision Theory, Ethics, and Social Implications of Risk*. Chapter 29 (pp. 761–787). Heidelberg: Springer.
- Drottz-Sjöberg, B.-M. (2010). Perceptions of nuclear wastes across extreme time perspectives. *Risk, Hazards & Crisis in Public Policy*, 1, 231–253.
- Drottz-Sjöberg, B.-M., & Aven, T. (2009). ESREL 2007 – the 18th European Safety and Reliability Conference. *Journal of Risk Research*, 12, 279.
- Sjöberg, L., & Drottz-Sjöberg, B.-M. (2009). Public risk perception of nuclear waste. *International Journal of Risk Assessment and Management*, 11, No.3/4, 264–296.
- Sjöberg, L., & Drottz Sjöberg, B.-M. (2008). Risk perception by politicians and the public. *Energy & Environment*, 19, No 3+4, 455–485.
- Andersson, K., Drottz-Sjöberg, B.-M., Espejo, R., Fleming, P. A., & Wene, C.-O. (2006). Models of transparency and accountability in the biotech age. *Bulletin of Science, Technology & Society*, 26, 46–56.

準備委員会企画シンポジウム1

第1日 10月7日（土）9:30～12:00

3号館3階 国際会議室

心理危機研究をどのように現場実践に生かすか —研究の場と臨床現場の往還—

企画・司会：金子一史（名古屋大学）
企画・司会：窪田由紀（名古屋大学）
話題提供：柴田一匡（名古屋大学・プティ ヴィラージュ）
話題提供：樋渡孝徳（九州産業大学）
話題提供：小倉正義（鳴門教育大学）
指定討論：渡辺弥生（法政大学）

いじめやハラスメント、事件および事故、自然災害や犯罪被害、もしくは自死による喪失体験などの心理的危機は、周囲を含めた家族や職場の関係者までを含めれば、全ての人が否応なしに巻き込まれていることは、疑いが無い。自身の関係者に大きな心理危機が発生した場合には、同時に自身にも大きな衝撃をもたらし、危機的な状態に陥ることもある。これらの点で、全ての現代人は心理的危機から無関係ではいられない。

臨床現場と研究との間で望まれる関係のあり方とはどのようなものなのかについては、これまでも科学者実践者モデル（scientist practitioner model）などによって、古くから盛んに議論されてきた。一方、今日におけるグローバル化の急速な進展や日本社会が急激に複雑多様化していく中で、国民全体に漠然とした不安が、以前にも増して広まりつつある。このような情勢の中で、心理学という学問が、現場の社会的問題に対して具体的にどのような貢献ができるのかを、現在ほど問われている時代はないと言えよう。

本シンポジウムでは、若手の研究者が取り組んでいる臨床現場での心理的危機について、具体的な研究成果を提示してもらった上で、それらをどのようにして実践へつなげていくかという点に焦点を当てて議論を行う。その上で、心理学における研究と臨床現場との望ましい関連のあり方とは何か、改めて検討を加えることを試みる。研究の成果を、臨床の現場にどう活かしていくのか、また、現場の問題をどのように研究の土台に乗せていくのかという問題について、ここで今一度検討を加えておくことは、今後ますます複雑多様化する社会において、重要な意義を持つものと思われる。今こそ、心理学が社会に対してどのような貢献できるのか、自らの足元を見つめ直しておくことが求められている。

学習動機づけ研究の未来

—教育心理学研究における動向とこれから—

企画・司会：中谷素之（名古屋大学大学院）

話題提供：田中あゆみ（同志社大学）

話題提供：伊藤崇達（京都教育大学）

話題提供：外山美樹（筑波大学）

指定討論：大坊郁夫#（東京未来大学）

指定討論：鹿毛雅治（慶應義塾大学）

コンピュータ・サイエンスや神経科学の爆発的な発展によって、今日、社会科学を含む諸科学の枠組みが大きく変わろうとしている。例えば、ビッグ・データによって従来は測りえなかった大規模データでの学習の過程が示されたり、あるいは心理学のみならず、医学や生理学、あるいは遺伝子研究などの学際的な研究により学習などの動機づけの神経科学的な基盤が見出されるなど、顕著な動向がみられている。例えば、達成動機づけ研究のレビューに関する代表的シリーズであるAdvances in Motivation and Achievementの最新巻（Vol. 19）においても、神経科学的な測定や問題設定に基づく人間の動機づけ研究の特集“Recent Developments in Neuroscience Research on Human Motivation”（Kim, Reeve, & Bong, 2016）が組まれるなど、現在、学習動機づけ研究において、新しい動向がみられてきている。

教育心理学研究は、教育場面における教授や学習という極めて実証的な問題を扱いながら、行動科学的としての実証的視点を有しているが、このようなコンピュータ・サイエンスや神経科学の発展による変革のただ中では、教育事象をどうとらえ、測定、評価するのか、そしてどのような成果を社会にもたらすのかといった、科学的であるとともに、応用的、実用的な問題提起が想定され、学習動機づけ研究もその例外ではない。

本シンポジウムでは、教育心理学における学習動機づけ研究に関わる多面的な理論的視点から、（1）学習動機づけの主要な理論、そして研究の最新動向はどのようなものか、（2）各学習動機づけ研究の枠組みや強みに基づいて、未来の動機づけ研究はどのように展開していくと考えられるのか、について、各研究領域の知見を踏まえて議論する。学習動機づけ研究の各領域の研究のトレンドと、それを踏まえた近未来の学習動機づけ研究のすがたについて展望してゆく。学習動機づけ研究の主要な理論である、達成目標理論、自己調整学習理論、制御適合理論の3つの視点から、各領域の一線研究者による各研究の理論的基盤と最新の動向についてのレビューと学習動機づけ研究の未来を展望した議論を行う。これはパーソナリティや学習、そして社会という異なる心理学領域での動機づけ研究の架橋にもなるであろう。

福島第一原子力発電所事故がもたらした 心理的被害について

| | | |
|-------------|-----------------------------|---------------|
| 企画・司会・話題提供： | 氏家達夫 | （名古屋大学） |
| 話題提供 | ：筒井雄二 | （福島大学） |
| 話題提供 | ：大久保 諒 | （名古屋大学） |
| 話題提供 | ：Yuliya Lyamzina | （福島県立医科大学） |
| 指定討論 | ：Britt-Marie Drottz-Sjöberg | （ノルウェー技術工科大学） |

2011年3月に起こった東京電力福島第1原子力発電所の事故から6年以上が経過した。避難区域の多くで避難指示が解除され、住民の帰還がはじまっている。避難区域外でも、除染が進み、一見平常の生活が戻りつつある。しかし、チェルノブイリ事故後の調査結果によれば、subclinicalなものではあるが、心理学的影響が長期間継続することが知られている。また、幼い子どもを持つ母親に特に心理学的影響が現れやすいこともわかっている。このシンポジウムでは、福島第一原子力発電所事故が、福島の子にもたらした心理学的被害について検討することを目指し、4つの報告を行う。初めにその実態について、事故後継続的に福島県内の幼い子どもを持つ親を対象に、放射能に対する不安やストレスを調査してきた福島大学チームの調査結果にもとづいて報告する。2つ目に、親の不安やストレスが発達心理学的に持つであろう意味についての理論的考察と実証研究の結果を報告する。3つ目に、子どもの発達に及ぼす影響を防ぐための心理学的介入実践の試みを報告する。最後に、人々のリスク知覚に着目したりリスクコミュニケーションのあり方について報告する。指定討論として、心理学的観点からチェルノブイリ事故後の被害住民の調査を行うとともに心理学的影響のメカニズムについての研究と提言を行ってきたノルウェー技術工科大学のBritt-Marie Drottz-Sjöberg教授を迎え、心理学的影響の長期化や子どもの発達への影響を防ぐための方策について議論を深める。

思春期における発達と問題行動

| | | |
|---------|--------|---------|
| 企画・司会 | ：平石賢二 | （名古屋大学） |
| 企画・指定討論 | ：河野莊子 | （名古屋大学） |
| 話題提供 | ：笠井清登 | （東京大学） |
| 話題提供 | ：大久保智生 | （香川大学） |
| 話題提供 | ：吉澤寛之 | （岐阜大学） |
| 話題提供 | ：齊藤誠一 | （神戸大学） |

思春期に関しては古くから思春期危機や第2反抗期などの用語によってこの年代の心理的な不安定さや困難さが言い表されてきた。また、思春期は児童期に比べて心理的不適応や問題行動が生じやすい時期であり、保護者や教師にとっても対応が難しくなる時期であるとみなされている。

しかし、心理的不適応や問題行動は必ずしもこの年代の子どもたちに共通した特徴ではなく個人差も大きい。また、このような思春期的な問題の背景要因としては、個人の資質や家庭環境、友人関係などの影響が強調されてきたが、臨床実践の現場では、多くの事例において複数のリスク要因の累積がみられる。そして、それらが複雑に相互作用した結果、問題行動が現れており、個別の発達の文脈を考慮する必要があると感じることが多い。近年では思春期における多様な発達経路を想定し、発達の多様性を重視する動きが強まってはきているが、この年代の発達のあり方が十分に明らかにされ、家庭や学校現場での理解が浸透しているとは言い難いのが現状である。

そこで本シンポジウムでは、思春期における発達と問題行動の関連について、精神医学・脳科学、教育心理学、社会心理学、青年心理学といった多分野からの最新の研究知見を紹介していただき、それらを総合しながら思春期の発達の危機の問題に関する理解を深めることを目的としたい。

研究委員会企画シンポジウム1

第1日 10月7日（土）13:00～15:30

4号館1階 白鳥ホールA

若者はいかにして社会・政治問題と向き合うようになるのか

企画・司会・指定討論：池上知子（大阪市立大学）

話題提供：高 史明#（東京大学）

話題提供：吉川 徹#（大阪大学）

話題提供：杉浦淳吉（慶應義塾大学）

2015年6月に公職選挙法が改正され、選挙権が得られる年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられ、2016年夏の参議院選挙から適用された。選挙運動を行うことのできる年齢も同様に引き下げられている。これを機に若者に投票所に足を運んでもらうにはどのようなすればよいか各方面で議論されている。また、受験勉強や部活動に追われている高校生や大学生に政治参加を促す主権者教育が教育現場の大きな課題となっている。一方、半数近い若者が「政治のことはよくわからない」という理由から政治参加に対して不安や戸惑いを感じているという調査結果もある。わが国の将来を担う若者が社会や政治のあり方を変える大きな力となることは歓迎すべきことではあるが、そのためには、若者自身の問題意識の深化や判断能力の向上をはかることが必要である。問題に対する表面的理解、近視眼的判断が国や社会の指針を左右することがあってはならないからである。本シンポジウムでは、日本の若者が現代社会に内包されている問題（格差・貧困・差別等）をどのように認識しているかを探り、社会の深層構造の理解と変革への動機を促す手立てについて考えてみたい。

研究委員会企画シンポジウム2〔公開〕

第2日 10月8日（日）9:30～12:00

4号館1階 白鳥ホールA

教育心理学から考える“チーム学校”

| | | |
|---------|--------|----------------------|
| 企画・司会 | ：湯澤正通 | （広島大学） |
| 企画・話題提供 | ：植阪友理 | （東京大学） |
| 企画 | ：高橋美保 | （東京大学） |
| 話題提供 | ：藤澤信義＃ | （倉敷市立連島南小学校） |
| 話題提供 | ：水野治久 | （大阪教育大学） |
| 話題提供 | ：西 幸代＃ | （学習塾ばえちか・元浅口市立寄島中学校） |

平成27年12月、中央教育審議会では「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」を取りまとめた。学習指導要領の改訂に当たっては、「何を教えるか」という知識の質や量の改善だけでなく、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視されており、子どもたちが学校で習得した基礎的な知識・技能を実社会や実生活で活用することが求められている。そのためには、教員が、学校や子どもたちの実態を踏まえ、学習指導等に取り組むための指導体制の充実が求められている。加えて、生徒指導上の課題や特別支援教育など、学校が抱える課題は、複雑化・困難化する中、教職員が心理や福祉などの専門家や関係機関、地域と連携し、チームとして課題解決に取り組む体制の構築が必要である。

しかし、現場ではこのような「チーム学校」はうまく構築され、運営されているのだろうか。学校にチームが形成され、チームとして機能するためには何が必要なのだろうか。

本シンポジウムではチーム学校に求められる専門性に焦点を当て、チーム学校のモデルとなる実践や研究に関して話題提供を行う。その中で、チーム学校に教育心理学が貢献できることを議論する。

今，教育現場でLGBTの子どもたちは

- 企画・司会：伊藤裕子（文京学院大学）
話題提供：加藤悠二#（NPO法人 虹色ダイバーシティ）
話題提供：堀江有里#（日本キリスト教団なか伝道所）
話題提供：東 優子#（大阪府立大学）
指定討論：湯川隆子（三重大学）
指定討論：松並知子（武庫川女子大学）

昨今LGBTと盛んに言われ出し、脚光を集めるようになってきた。Lesbian, Gay, Bisexual, Transgenderの略で、性的少数者としてくられる。日本では同性婚は法律で認められていないが、一部地域で認知されている。

しかし、上記はいずれも大人の話であり、これらが顕著に現れてくるのは思春期で、すでに幼児期や学童期に「他の（同性の）友だちとは違う」ことが本人に認識されている場合も多い。その結果、学校現場でいじめにあったり不登校になったり、また、教師も理解しないことが多く、さらに、自殺念慮が異常に高く自尊感情も低いと言われる。

学校教育のなかで、保健体育、家庭科など、性教育や家族形成といったように、外見上の男女を前提に話が進められているが、性別二元性から来る問題と、実際に子どもたちが抱える問題を知り、何が問題で、どのような取り組みが可能かを考えていきたい。

第3日 10月9日（月・祝）9:30～12:00

4号館1階 白鳥ホールA

統計モデルの違いを理解する

——一般線形モデル・一般化線形モデル・階層的重回帰モデル・ 階層線形モデル——

- 企画・司会 : 荘島宏二郎 (独立行政法人大学入試センター)
話題提供 : 橋本貴充 (帝京大学)
話題提供 : 登藤直弥 (大学改革支援・学位授与機構)
話題提供 : 高野慶輔# (Ludwig-Maximilians-University)
企画・話題提供: 宇佐美 慧 (東京大学)

統計モデルには、名前は類似しているが形式的・数理的に異なる意味合いをもち、また異なる目的のために利用される分析手法が存在する。また、単一ではなく幅広い種類のモデルを包含する統計モデルも多くあるため、その内容とともに他の名前の統計モデルとの関係性を理解することは、統計学の理解としてはもちろんのこと、研究実践上においても重要であろう。例えば、一般線形モデル・一般化線形モデル・階層的重回帰モデル・階層線形モデルと呼ばれる統計モデルは、いずれも心理データ分析で実際によく用いられるが、名前の類似性から、分析の目的や意味内容が混同されやすい。本チュートリアルでは特に初学者の方、具体的には、普段統計分析を行う機会が少ない方や統計学の基礎を学び直したい方を念頭において上掲の4手法について、扱うデータの特徴や分析目的の違いに着目して整理しながら、実践例とともに個々のモデルについて平易に解説する。

第2日 10月8日（日）13:30～15:30

4号館1階 白鳥ホールA

ハラスメント被害者の心理的回復

講師 ：小西聖子# (武蔵野大学)
指定討論：金子雅臣# (職場のハラスメント研究所)
司会 ：大塚雄作 (大学入試センター)

ハラスメント防止委員会企画講演およびシンポジウムも7回目を迎え、ハラスメントの問題は、その発生から状況の深刻化の過程、調査・調停等の対処のあり方、さらに、被害者の回復に関わる対応に至るまで、実にさまざまな課題が背後に複雑に絡み合いつつ潜んでいることが、私どもの学会においても少しずつ共有されてきました。

そのなかで、ハラスメント被害を受けた人の回復に向けてどのように支援をしていくことが望まれるのかという課題は、ハラスメントに関わる調停等が決着しさえすれば往々にして見過ごされがちになりますが、むしろ調停の決着に増して難しさもあり、そこを避けてハラスメント問題の解決はあり得ない重要な課題の一つでもあります。ハラスメント被害を受けた人はすぐには元通りに戻ることは難しく、回復に関わる課題は想像以上に難題であるということを、まずは共有しておくことが肝要です。

そこで、ハラスメント防止委員会では、被害を受けた人が回復するためにどのようなことに留意する必要があるのか、また、その周囲にいる人たちがどのようなことができるのかといったことを考える機会を、本総会において企画することにいたしました。幸いにも、DV、性暴力被害者などを中心に、大学研究室や職員などの被害も含めて、ハラスメント被害者の臨床経験を豊富に持たれている、この領域の日本の代表者でもある小西聖子先生にお越しいただけることができました。小西先生には、ハラスメント被害を受けた人をどう支援するか、被害からの回復の道筋と支援のあり方等について、事例を交えてお話しくださう、お願いしております。それに続きまして、これまでのハラスメント防止委員会企画の講演会のすべてに関わって下さっており、また、専門委員として委員会にもご助言をいただいております金子雅臣先生より、今までの学会での議論の経緯も踏まえて、指定討論をいただき、フロアを交えて、質疑応答、意見交換の場としたいと思います。

講師プロフィール

小西聖子（こにし たかこ）

愛知県出身。武蔵野大学人間関係学部教授。精神科医，臨床心理士，医学博士（1992年筑波大学）。東京大学教育学部教育心理学科卒。筑波大学医学専門学群卒，筑波大学大学院博士課程修了。犯罪被害者等施策推進会議委員，犯罪被害者等基本計画検討会構成員，内閣府男女共同参画会議議員，専門部会委員などを歴任。主な著書として，「犯罪被害者の心の傷（白水社）」，「犯罪被害者のメンタルヘルス（編著・誠信書房）」「性暴力被害者への支援（編著・誠信書房）」など。日本トラウマティックストレス学会，日本犯罪学会，日本被害者学会，日本司法精神医学会各理事。第20回エイボン女性年度賞・教育賞，平成22年毎日書評賞，平成26年犯罪学会賞受賞。

自主企画シンポジウム

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館2階 会議室221

JA01 協同的な学習におけるグループ差を考える —大学教育実践からの検討—

| | | |
|---------|--------|--------|
| 企画・話題提供 | 三重大大学 | 中西良文 |
| 司会 | 九州女子大学 | 梅本貴豊 |
| 話題提供 | 駿河台大学 | 杉本英晴 |
| 話題提供 | 三重大大学 | 守山紗弥加# |
| 指定討論 | 久留米大学 | 安永悟 |

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館2階 会議室222

JA02 学校からの虐待通告 —迅速な通告と有機的な多機関連携に向けて—

| | | |
|---------|--------------|-------|
| 企画・司会 | 徳山大学 | 羽瀧由子 |
| 企画 | 立正大学 | 田中周子# |
| 話題提供 | NPO法人ぴーす | 渡邊元嗣# |
| 話題提供 | 立正大学心理臨床センター | 齋藤祐子# |
| 企画・話題提供 | 四天王寺大学 | 田中晶子# |
| 企画・指定討論 | 立命館大学 | 仲真紀子 |
| 指定討論 | 中村学園大学 | 笠原正洋 |

第1日 10月7日（土）10:00～12:00
2号館2階 会議室223

JA03 学校適応はどのようにとらえられるのか（9） —小学校における学級への適応と教師の影響—

| | | |
|---------|----------|-------|
| 企画・話題提供 | 香川大学 | 大久保智生 |
| 企画・司会 | 北海道教育大学 | 半澤礼之 |
| 企画 | 東北大学 | 岡田有司 |
| 話題提供 | 中部大学 | 三島浩路 |
| 話題提供 | 東京大学 | 利根川明子 |
| 指定討論 | お茶の水女子大学 | 伊藤亜矢子 |
| 指定討論 | 岡山大学 | 三島知剛 |

第1日 10月7日(土) 10:00～12:00
2号館3階 会議室231

JA04 地域の教育センターとの連携を通じた認知カウンセリングの新たな展開

| | | |
|------------|---------|---------|
| 企画・司会・話題提供 | 群馬大学大学院 | 深 谷 達 史 |
| 企画・話題提供 | 東京大学 | 植 阪 友 理 |
| 話題提供 | 東京大学大学院 | 福 田 麻 莉 |
| 話題提供 | 東京大学大学院 | 柴 里 実 |
| 話題提供 | 法政大学大学院 | 押 尾 恵 吾 |
| 指定討論 | 東京大学 | 市 川 伸 一 |

第1日 10月7日(土) 10:00～12:00
2号館3階 会議室232

JA05 ポジティブ生徒指導の動向(3)

—我が国におけるPBISの導入に向けて—

| | | |
|---------|---------------------|----------------------|
| 企画・話題提供 | 南山大学 | 宇 田 光 |
| 企画 | 大阪産業大学 | 西 口 利 文 |
| 司会・話題提供 | 茨城県立医療大学 | 福 井 龍 太 [#] |
| 話題提供 | 大阪産業大学 | 市 川 哲 |
| 話題提供 | 寝屋川市立啓明小学校 | 松 山 康 成 |
| 話題提供 | 寝屋川市立啓明小学校 | 沖 原 総 太 |
| 指定討論 | 一般財団法人 生徒指導士認定協会 | 有 門 秀 記 |

第1日 10月7日(土) 13:00～15:00
2号館2階 会議室221

JB01 学習者のパフォーマンス

—授業論から「コンピテンシー」を問う—

| | | |
|------------|----------|---------|
| 企画・司会・指定討論 | 跡見学園女子大学 | 藤 澤 伸 介 |
| 企画 | 慶應義塾大学 | 鹿 毛 雅 治 |
| 話題提供 | 東京学芸大学 | 犬 塚 美 輪 |
| 話題提供 | 同志社大学 | 及 川 昌 典 |
| 話題提供 | 福岡教育大学 | 松 尾 剛 |
| 指定討論 | 上智大学 | 奈 須 正 裕 |

第1日 10月7日(土) 13:00～15:00
2号館2階 会議室222

JB02 合理的配慮におけるICT活用の可能性
—ICT活用の動向と実践—

| | | |
|---------|---------------------|----------|
| 企画・司会 | 法政大学大学院 | 吉 森 丹衣子 |
| 企画・指定討論 | 淑徳大学 | 守 谷 賢 二 |
| 話題提供 | 北星学園大学 | 田 実 潔# |
| 話題提供 | 兵庫教育大学 | 小 川 修 史# |
| 話題提供 | つくば市立春日学園義務教育 学校 | 山 口 禎 恵# |
| 指定討論 | 千里金蘭大学 | 斎 藤 富由起 |
| 指定討論 | 千里金蘭大学 | 小 野 淳 |

第1日 10月7日(土) 13:00～15:00
2号館2階 会議室223

JB03 沖縄の「子育て・教育への共同的営み」を形作る歴史・文化・人々
—「子育て・教育の共同的営み」としてのアロマザリングとPTA—

| | | |
|------------|--------|----------|
| 企画・司会・話題提供 | 東京理科大学 | 竹 尾 和 子 |
| 話題提供 | 東京理科大学 | 神 野 潔# |
| 話題提供 | 早稲田大学 | 根ヶ山 光 一# |
| 指定討論 | 共立女子大学 | 津波古 澄 子# |
| 指定討論 | 立命館大学 | やまだ ようこ# |

第1日 10月7日(土) 13:00～15:00
2号館3階 会議室231

JB04 わが国における自己調整学習の展開と未来
—理論と実践の両面から—

| | | |
|---------|--|--------------------|
| 企画・話題提供 | 名古屋大学大学院 | 中 谷 素 之 |
| 司会 | 日本大学 | 篠ヶ谷 圭 太 |
| 話題提供 | 京都教育大学 | 伊 藤 崇 達 |
| 話題提供 | 日本女子大学 | 瀬 尾 美紀子 |
| 指定討論 | ニューヨーク市立大学クイーンズ カレッジ | Hefer Bembenutty # |
| 指定討論 | ニューヨーク市立大学クイーンズ カレッジ及び大学院センター The City University of New York | 秋 場 大 輔 |

第1日 10月7日(土) 13:00～15:00
2号館3階 会議室232

JB05 「動機づけを支える」ことを考える

| | | |
|---------|--------------|---------|
| 企画・話題提供 | 香川大学 | 岡 田 涼 |
| 企画・話題提供 | 北海道大学大学院 | 大 谷 和 大 |
| 司会 | 九州女子大学 | 梅 本 貴 豊 |
| 話題提供 | 藤女子大学 | 青 木 直 子 |
| 指定討論 | 筑波大学 | 外 山 美 樹 |
| 指定討論 | 大田区立東調布第一小学校 | 町 岳 |

第1日 10月7日(土) 15:30～17:30
2号館2階 会議室221

JC01 学力の評価と測定をめぐって

| | | |
|-------|--------------------|---------|
| 企画・司会 | 独立行政法人 大学入試センター | 大 塚 雄 作 |
| 話題提供 | 東北大学 | 柴 山 直 |
| 話題提供 | 東京大学 | 遠 藤 利 彦 |
| 話題提供 | 東京大学 | 植 阪 友 理 |
| 指定討論 | 名古屋大学 | 野 口 裕 之 |

第1日 10月7日(土) 15:30～17:30
2号館2階 会議室222

JC02 探究的なPBLの学習過程デザイン原則

—OECD日本イノベーション教育ネットワーク事例からの検討—

| | | |
|---------|-----------|----------|
| 企画・指定討論 | 東京大学 | 村 瀬 公 胤 |
| 企画・司会 | 東京大学 | 秋 田 喜代美 |
| 司会 | 岡山大学 | 小 村 俊 平# |
| 指定討論 | 東京大学 | 白 水 始 |
| 話題提供 | 聖心女子大学 | 益 川 弘 如 |
| 話題提供 | 福島大学 | 坂 本 篤 史 |
| 話題提供 | 関西学院大学 | 時 任 隼 平# |
| 話題提供 | 産業技術大学院大学 | 大 崎 理 乃# |

第1日 10月7日(土) 15:30～17:30
2号館2階 会議室223

JC03 他律から自律を促す学習支援とは
—分野越境から実践をふりかえり諸理論とのリンクを試みる—

| | | |
|------------|---------|----------|
| 企画・司会・話題提供 | 大手前大学 | 寺 田 未 来 |
| 企画・指定討論 | 大手前大学 | 石 上 浩 美 |
| 話題提供 | 大手前短期大学 | 福 嶋 ゆ い# |
| 話題提供 | 大手前大学 | 中 川 和 亮# |
| 話題提供 | 立命館大学 | 中 島 梓# |

第1日 10月7日(土) 15:30～17:30
2号館3階 会議室231

JC04 学びのユニバーサルデザイン(UDL)に基づく教育実践の再考

| | | |
|---------|------------|----------|
| 企画・話題提供 | 埼玉大学 | 名 越 斉 子 |
| 司会・話題提供 | 北海道教育大学 | 川 俣 智 路 |
| 話題提供 | 東京都立蒲田高等学校 | 松 戸 結 佳# |
| 指定討論 | 早稲田大学 | バーンズ亀山静子 |

第1日 10月7日(土) 15:30～17:30
2号館3階 会議室232

JC05 発達障害理解教育の授業内容の検討

| | | |
|---------|-----------|----------|
| 企画・話題提供 | 富山大学 | 西 館 有 沙 |
| 企画・話題提供 | 筑波大学 | 水 野 智 美 |
| 司会 | 筑波大学 | 徳 田 克 己 |
| 指定討論 | 北海道教育大学 | 細 谷 一 博 |
| 指定討論 | 東京学芸大学大学院 | 今 枝 史 雄# |

JD01 学習支援としての説明は本当に有効なのか(2)
—子どもの教え合いにおける説明の有効性—

| | | |
|---------|--------------|---------|
| 企画・司会 | 立命館大学 | 山 本 博 樹 |
| 企画・話題提供 | 明治大学 | 伊 藤 貴 昭 |
| 企画 | 立命館大学 | 吉 田 甫 |
| 話題提供 | 群馬大学大学院 | 深 谷 達 史 |
| 話題提供 | 福井大学大学院 | 岸 野 麻 衣 |
| 話題提供 | 大田区立東調布第一小学校 | 町 岳 |
| 指定討論 | 東京大学 | 市 川 伸 一 |

JD02 社会化の担い手たちはいかにして子どもの社会性を育むのか
—親・友人・教師・地域住民の多層的影響の実証的検討—

| | | |
|---------|-------------|---------|
| 企画・話題提供 | 岐阜大学 | 吉 澤 寛 之 |
| 企画・司会 | 岐阜聖徳学園大学 | 吉 田 俊 和 |
| 話題提供 | 岐阜聖徳学園大学 | 吉 田 琢 哉 |
| 話題提供 | 名城大学 | 原 田 知 佳 |
| 話題提供 | 久留米大学 | 浅 野 良 輔 |
| 指定討論 | お茶の水女子大学大学院 | 菅 原 ますみ |

JD03 教員の自律性支援による児童生徒のコンピテンシーの育成

| | | |
|-------|-------------|---------|
| 企画・司会 | 盛岡大学 | 武 蔵 由 佳 |
| 話題提供 | 早稲田大学大学院 | 森 永 秀 典 |
| 話題提供 | 杉並区立杉並第六小学校 | 齊 藤 勝 |
| 話題提供 | 葛飾区立金町中学校 | 伊 藤 康 嗣 |
| 話題提供 | 千葉科学大学 | 熊 谷 圭二郎 |
| 指定討論 | 早稲田大学 | 河 村 茂 雄 |

第2日 10月8日(日) 10:00～12:00

2号館3階 会議室231

JD04 UDL (学びのユニバーサルデザイン) で「授業が変わる」・「子どもが変わる」・「教師が変わる」

| | | |
|------------|------------------------------|-------|
| 企画・司会・話題提供 | 杉並区立桃井第三小学校 | 浦野裕司 |
| 話題提供 | 島根大学教育学部附属学校 学習生活支援研究センター | 三浦睦美# |
| 指定討論 | アンダンテ西荻教育研究所 | 金子晴恵# |

第2日 10月8日(日) 10:00～12:00

2号館3階 会議室232

JD05 児童・青年の発達とメンタルヘルスに関する大規模縦断研究

—いじめ, 性別違和感, 発達障害特性, インターネット依存の観点から—

| | | |
|---------|---------|-------|
| 企画・話題提供 | 浜松医科大学 | 伊藤大幸 |
| 司会・話題提供 | 神戸学院大学 | 村山恭朗 |
| 話題提供 | 名古屋学芸大学 | 浜田恵# |
| 話題提供 | 弘前大学 | 足立匡基# |
| 指定討論 | 中京大学 | 村上隆# |
| 指定討論 | 神戸大学大学院 | 山根隆宏 |

第2日 10月8日(日) 10:00～12:00

2号館3階 会議室233

JD06 学校教育を通して育む社会情動的スキル

| | | |
|---------|--------------|-------|
| 企画・司会 | 十文字学園女子大学 | 綿井雅康 |
| 企画・話題提供 | 早稲田大学 | 桂川泰典 |
| 話題提供 | 「心の基礎」教育を学ぶ会 | 原口和博# |
| 話題提供 | 桜美林大学 | 小関俊祐 |
| 話題提供 | 明星大学 | 藤井靖 |
| 指定討論 | 十文字学園女子大学 | 加藤陽子 |
| 指定討論 | 早稲田大学 | 菅野純 |

第2日 10月8日(日) 13:30～15:30
2号館2階 会議室221

JE01 教科教育の心理学

—(1) 授業実践を見通した実験・調査研究をどう進めるか—

| | | |
|-------|----------|--------|
| 企画・司会 | 東京大学 | 藤村 宣之 |
| 話題提供 | 名古屋大学 | 橘 春菜 |
| 話題提供 | 共立女子大学 | 石橋 優美 |
| 話題提供 | 横浜商科大学 | 鈴木 豪 |
| 指定討論 | 東北大学 | 工藤 与志文 |
| 指定討論 | 名古屋大学大学院 | 中谷 素之 |

第2日 10月8日(日) 13:30～15:30
2号館2階 会議室222

JE02 学びをうながす諸要因について

—能動的・主体的学びにつながる学習者の要因—

| | | |
|------------|-------|--------|
| 企画・司会・話題提供 | 玉川大学 | 高平 小百合 |
| 話題提供 | 名城大学 | 木村 美奈子 |
| 話題提供 | 明星大学 | 布施 光代 |
| 話題提供 | 玉川大学 | 魚崎 祐子 |
| 指定討論 | 立命館大学 | 竹内 謙彰 |

第2日 10月8日(日) 13:30～15:30
2号館2階 会議室223

JE03 縦断的研究の難しさ

—中学生の社会的行動の研究を通して得たこと—

| | | |
|---------|--------------|-------|
| 企画・司会 | 愛知学院大学 | 二宮 克美 |
| 企画・指定討論 | 名古屋大学 | 氏家 達夫 |
| 話題提供 | 福島大学 | 五十嵐 敦 |
| 話題提供 | 千葉県立保健医療大学 | 井上 裕光 |
| 話題提供 | 名古屋文理大学短期大学部 | 山本 ちか |

第2日 10月8日(日) 13:30～15:30
2号館3階 会議室231

JE04 チームとしての学校現場からの報告
—多様な専門家の連携の構築にむけて—

| | | |
|-------|-------------------|---------|
| 企画・司会 | 常葉大学大学院 | 石 川 美智子 |
| 企画・司会 | Christ University | 松 本 みゆき |
| 話題提供 | 名古屋大学大学院 | 長 谷 守 紘 |
| 話題提供 | 名古屋大谷高等学校 | 白 木 久美子 |
| 話題提供 | 川野辺小児科 | 川野辺 令 恵 |
| 指定討論 | 兵庫教育大学 | 藤 原 忠 雄 |

第2日 10月8日(日) 13:30～15:30
2号館3階 会議室232

JE05 これからの教育を問う
—道徳教育の在り方を考える—

| | | |
|---------|----------|----------|
| 企画・司会 | 和洋女子大学 | 田 口 久美子 |
| 企画・話題提供 | 立正大学 | 大 津 悦 夫 |
| 企画・話題提供 | 埼玉大学 | 馬 場 久 志 |
| 話題提供 | 京都市中学校教員 | 西 原 弘 明# |
| 指定討論 | 静岡大学 | 伊 田 勝 憲 |

第2日 10月8日(日) 16:00～18:00
2号館2階 会議室221

JF01 リーディングスキルテスト(RST)
—その教育測定学的性質と教育実践に対する示唆—

| | | |
|------------|---------------|----------|
| 話題提供 | 国立情報学研究所 | 新 井 紀 子# |
| 話題提供 | 法政大学 | 菅 原 真 悟# |
| 話題提供 | 筑波大学 | 尾 崎 幸 謙# |
| 話題提供 | 東京学芸大学 | 犬 塚 美 輪 |
| 話題提供 | 東京大学 | 新 井 庭 子# |
| 話題提供 | 東京大学 | 分 寺 杏 介# |
| 指定討論 | 名古屋大学 | 野 口 裕 之 |
| 企画・司会・話題提供 | 大学改革支援・学位授与機構 | 登 藤 直 弥 |

第2日 10月8日(日) 16:00～18:00
2号館2階 会議室222

JF02 「セルフ・エスティーム」研究の抜本的再考(3)
—本当のセルフ・エスティーム教育と評価方法とは?—

| | | |
|---------|---------|--------|
| 企画・話題提供 | 鳴門教育大学 | 山崎 勝之 |
| 司会 | 鳴門教育大学 | 内田 香奈子 |
| 話題提供 | 兵庫教育大学 | 横嶋 敬行 |
| 話題提供 | 兵庫教育大学 | 賀屋 育子 |
| 指定討論 | プール学院大学 | 村上 祐介 |
| 指定討論 | 四国大学 | 内山 有美 |
| 指定討論 | プール学院大学 | 永井 明子 |

第2日 10月8日(日) 16:00～18:00
2号館2階 会議室223

JF03 教員養成と教育心理学
—教育心理学は教員養成や学校現場のニーズにどう応えるべきなのか—

| | | |
|------------|--------|-------|
| 企画・司会・話題提供 | 大阪教育大学 | 水野 治久 |
| 企画・話題提供 | 立命館大学 | 山本 博樹 |
| 話題提供 | 愛知教育大学 | 中井 大介 |
| 指定討論 | 福岡教育大学 | 小泉 令三 |

第2日 10月8日(日) 16:00～18:00
2号館3階 会議室231

JF04 児童生徒のインターネット上でのいじめやトラブルをどう理解し、どう介入するか

| | | |
|------------|--------|--------|
| 企画・話題提供 | 広島修道大学 | 西野 泰代 |
| 企画・話題提供 | 佐賀大学 | 若本 純子 |
| 企画・司会・話題提供 | 東京情報大学 | 原田 恵理子 |
| 指定討論 | 法政大学 | 渡辺 弥生 |

JF05 発達の行動遺伝学の現在

—児童期・青年期・成人期の双生児コホート研究—

| | | |
|-------|----------|----------|
| 企画・司会 | 慶應義塾大学 | 安 藤 寿 康 |
| 話題提供 | 慶應義塾大学 | 藤 澤 啓 子 |
| 話題提供 | 慶應義塾大学 | 川 本 哲 也# |
| 話題提供 | 大阪人間科学大学 | 鈴 木 国 威# |
| 話題提供 | 大阪大学 | 本 多 智 佳# |
| 指定討論 | 東京大学 | 滝 沢 龍# |

JF06 大学におけるネットいじめの様相と対策

| | | |
|---------|----------|---------|
| 企画・話題提供 | 甲子園大学 | 金 綱 知 征 |
| 企画・指定討論 | 大阪大学 | 家 島 明 彦 |
| 企画・司会 | 大阪教育大学 | 戸 田 有 一 |
| 話題提供 | 筑波大学 | 藤 桂 |
| 話題提供 | 神戸親和女子大学 | 金 山 健 一 |
| 指定討論 | 静岡大学 | 青 山 郁 子 |

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館2階 会議室221

JG01 高等学校における不登校への支援と“社会で生きていく力”
—義務教育後の不登校支援のあり方—

| | | |
|---------|----------|----------|
| 企画・司会 | 奈良女子大学 | 伊 藤 美奈子 |
| 企画・話題提供 | 東京家政大学 | 相 馬 誠 一# |
| 話題提供 | 埼玉純真短期大学 | 金 子 恵美子 |
| 話題提供 | 福岡教育大学 | 西 山 久 子 |
| 話題提供 | 名古屋学院大学 | 小 林 由美子 |
| 指定討論 | 関西外国語大学 | 新 井 肇 |

自主
10/9

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館2階 会議室222

JG02 役割取得能力（社会的視点取得能力）と適応の関係を考える

| | | |
|---------|------------|---------|
| 企画・話題提供 | 新潟青陵大学 | 本 間 優 子 |
| 司会 | 同志社大学 | 内 山 伊知郎 |
| 話題提供 | 宇都宮大学 | 石 川 隆 行 |
| 話題提供 | 四国大学 | 内 山 有 美 |
| 指定討論 | 兵庫教育大学名誉教授 | 荒 木 紀 幸 |

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館2階 会議室223

JG03 認知心理学からのカリキュラム構成に向けて
—知識構築活動から考える—

| | | |
|-------|--------------|---------|
| 企画・司会 | 愛知教育大学 | 栗 山 和 広 |
| 話題提供 | 日本学術振興会特別研究員 | 小田切 歩 |
| 話題提供 | 共立女子大学 | 石 橋 優 美 |
| 話題提供 | 日本女子大学 | 瀬 尾 美紀子 |
| 話題提供 | 神戸大学 | 坂 本 美 紀 |
| 指定討論 | 立命館大学 | 吉 田 甫 |
| 指定討論 | 放送大学 | 進 藤 聡 彦 |

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館3階 会議室231

JG04 心理教育を子どもたちにいかに届けるか？
—プログラムのfeasibilityを考える—

| | | |
|---------|--------|---------|
| 企画・話題提供 | 鳥取大学 | 石 本 雄 真 |
| 企画・話題提供 | 徳島文理大学 | 松 本 有 貴 |
| 話題提供 | 大阪大学 | 山 本 利 枝 |
| 指定討論 | 山形大学 | 宮 崎 昭 # |
| 司会 | 静岡大学 | 青 山 郁 子 |

第3日 10月9日（月・祝）10:00～12:00
2号館3階 会議室232

JG05 学校と地域とのよりよい協働を目指して
—学校支援地域本部事業の成果と課題から—

| | | |
|---------|-----------|-----------|
| 企画・司会 | 香川大学 | 岡 田 涼 |
| 企画・話題提供 | 香川大学 | 大久保 智 生 |
| 話題提供 | 香川大学 | 時 岡 晴 美 # |
| 話題提供 | 赤磐市立高陽中学校 | 平 田 俊 治 # |
| 指定討論 | 山梨大学 | 東海林 麗 香 |
| 指定討論 | 神戸大学 | 赤 木 和 重 |

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館2階 会議室221

JH01 英語教育における深い学びとコミュニケーション

| | | |
|------------|-------|------------|
| 企画・司会・話題提供 | 京都大学 | マナロ エマニュエル |
| 話題提供 | 京都大学 | 李 沐 陽 |
| 話題提供 | 千葉大学 | 小 山 義 徳 |
| 話題提供 | 名古屋大学 | 田 中 瑛津子 |

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館2階 会議室222

JH02 文系学生に対する心理統計教育
—卒論指導・査読で気になる統計解析—

| | | |
|---------|--------|---------|
| 企画・指定討論 | 岡山大学 | 山 田 剛 史 |
| 企画・司会 | 文京学院大学 | 村 井 潤一郎 |
| 企画・話題提供 | 新潟大学 | 杉 澤 武 俊 |
| 企画 | 青山学院大学 | 寺 尾 敦 |
| 話題提供 | 神戸大学 | 林 創 |
| 話題提供 | 金沢学院大学 | 室 橋 弘 人 |

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館2階 会議室223

JH03 なぜ子どもが立ち直ろうとするときに「問題」は顕在化するのだろうか
—「導かれた参加(guided participation)」の視点から「問題」を「発達の契機」へ—

| | | |
|------------|---------|---------|
| 企画・司会・話題提供 | 北海道教育大学 | 川 俣 智 路 |
| 企画・話題提供 | 滋賀県立大学 | 松 嶋 秀 明 |
| 話題提供 | 立命館大学 | 神 崎 真 実 |
| 指定討論 | 成城大学 | 青 山 征 彦 |
| 指定討論 | 福岡教育大学 | 西 山 久 子 |

第3日 10月9日（月・祝）13:00～15:00
2号館3階 会議室231

JH04 「気になる子ども」も一緒に育つ
—「気になる子」の理解からすべての子どもが育ちあう保育実践に—

| | | |
|------------|------------|----------|
| 企画・司会・話題提供 | 大阪健康福祉短期大学 | 野 村 朋 |
| 話題提供 | 大阪健康福祉短期大学 | 永 谷 孝 代# |
| 話題提供 | 中部学院大学 | 別 府 悦 子 |
| 話題提供 | 神戸大学 | 木 下 孝 司 |
| 指定討論 | 立命館大学 | 荒 木 穂 積 |

JH05 保育者のスイッチ離職とスタンバイ離職
—TEMとPOSAによる分析と統合—

企画・話題提供
指定討論
司会・話題提供
指定討論
話題提供

宮城教育大学
立命館大学
大阪教育大学
東北大学
盛岡大学

香曾我部 琢
佐 藤 達 哉
戸 田 有 一
神 谷 哲 司
藤 田 清 澄#

ポスター発表

PA

〈○印は責任発表者、#印は会員以外の連名発表者を示します〉

ポスター発表 A

10月7日（土） ポスター掲示時間 10:00～12:00

在席責任時間 奇数番号10:00～11:00 偶数番号11:00～12:00

発達

| | | | |
|------|--|---|---|
| PA01 | 児童の家庭における生き物の飼育経験が共感性の発達に及ぼす影響 | 田園調布学園大学 | 本 多 潤 子 |
| PA02 | 幼児期の感情表出を促す文化的要因 —短期縦断的観察研究による検討— | 新見公立短期大学 東大阪大学 | ○芝 崎 美 和 芝 崎 良 典 |
| PA03 | 孤独感類型尺度 LSO の構成概念妥当性の検討 | 東大阪大学 新見公立短期大学 | ○芝 崎 良 典 芝 崎 美 和 |
| PA04 | 絵本の絵の違いが読み聞かせ時の幼児の表情に及ぼす影響 | 群馬大学 | ○大 島 みずき 伊 藤 ゆりの# |
| PA05 | 保育者の働きかけが幼児の自己制御行動に与える効果 —自然観察法を用いた事例研究から— | 奈良保育学院 京都市立芸術大学 | ○足 立 邦 子 山 村 麻 子 |
| PA06 | 母親の感情発話と幼児の感情語彙数及び社会的行動の関連 | 東京大学・日本学術振興会 椋山女学園大学 | ○浜 名 真 以 溝 川 藍 |
| PA07 | 自己意識と社会的スキルが自尊感情に及ぼす影響 —多母集団同時分析による性差の検討— | 名古屋女子大学短期大学部 南山大学 東海学園大学 名古屋大学 | ○大 嶽 さと子 吉 橋 由 香 谷 伊 織 永 田 雅 子 |
| PA08 | 中学生を対象とした攻撃性適正化教育の試み —社会的情報処理モデルに基づくアサーティブネスの形成— | 筑波大学 | 濱 口 佳 和 |
| PA09 | 子ども意思決定支援をふりかえるツールの検討 —食事場面の支援を記録するアプリの試作— | 川村学園女子大学 川村学園女子大学 東海学院大学 | ○北 原 靖 子 蓮 見 元 子 川 嶋 健太郎 |
| PA10 | 死別経験、死の不安と内的作業モデル | 金城学院大学 | 増 田 公 男 |
| PA11 | 精神的自立の進む過渡期におけるキャリアの歩み —進路を追求しつつも非行にはしり、非行を乗り越えて進路を追求していった私の場合— | | 宮 野 祥 雄 |
| PA12 | 仲間の違反の報告に対する児童の認識に親密性が与える影響の検討 | 名古屋経済大学 | 楯 誠 |
| PA13 | 保育者の協同的な遊びへの提案技術に関する一考察 —5歳児S児が仲間に入れてあげない場面事例から— | 植草学園大学 新潟中央短期大学 | ○栗 原 ひとみ 佐々木 宏 之 |
| PA14 | 攻撃行動を許容する認知の発達 —小中学生における関連の異同— | 山形大学 | 関 口 雄 一 |

| | | | |
|-----------------|---|----------------------|----------------|
| PA15 | 看護実習生の語りにあらわれる「ケアの倫理」と キャリア展望 ー縦断インタビューの事例的検討ー | 湘北短期大学 | 亀井美弥子 |
| PA16 | 店舗と顧客の越境による新たな顧客ウォンツの創 発過程 ー2店のレストラン実践の比較からー | 横浜国立大学大学院 | 會津律治 |
| 教授・学習・認知 | | | |
| PA17 | フィードバックが洋楽器非熟達者の弦名譜の読譜 習得過程に及ぼす効果 ー映像・音響および印教示の比較ー | 北星学園大学 | 後藤靖宏 |
| PA18 | 工科大学大学院生および進学予定者の大学院進 学についての意識 ー進学動機・進学後の理想・進学決定時期・影響 要因・心配要因についてー | 東京電機大学 目白大学 | ○石田拓矢 庄司正実# |
| PA19 | 小学校3年生のスピーチ活動における聞き方方略 の検討 | 富山市立大沢野小学校 東京学芸大学 | ○山崎加奈 梶井芳明 |
| PA20 | 教育脳の探求 ー教わって学ぶときの脳活動を個体学習と観察学 習の時と比較するー | 慶應義塾大学 慶應義塾大学 | ○安藤寿康 染谷芳明# |
| PA21 | 小学生の家庭学習に関する教師および保護者によ る支援 ー学びへの動機づけと学習方略の視点からー | 愛媛大学 広島市立宇品東小学校 | ○橋本巖 杉本奈月 |
| PA22 | 大学生にみるMIF概念再考 (1) ー投げ上げられた物体に作用する力の向きについ ての選択理由の分析ー | 佛教大学 | 橋本憲尚 |
| PA23 | 同一化的調整と内的調整の相違面 ーレジリエンスとソーシャルサポートに注目して ー | 中部大学 加古川北高等学校 | ○速水敏彦 久保勝利# |
| PA24 | 高校生の探究的学習スキルと批判的思考態度の育 成 (2) ースーパーグローバルハイスクールにおける生徒 の2年間の成長ー | 京都大学 | 楠見孝 |
| PA25 | 導入的概念地図法における概念想起について ー概念地図法との比較ー | 浦和大学 長岡技術科学大学大学院 | ○皆川順 伴浩美 |
| PA26 | 歩き遍路体験を主題とする俳句の創作と学びの質 との関係 | 鳴門教育大学大学院 | 皆川直凡 |
| PA27 | 先行オルグと閲読後の内容討議での役割による散 文理解の促進 (III). ー2次元での類推ー | 大阪教育福祉専門学校 | 光田基郎 |
| PA28 | 授業における「問い」の問題 ー対話主義授業論の立場からー | 早稲田大学 | 宮崎清孝 |
| PA29 | ピア・コーチングの会話分析 ーRIAS転用の可能性ー | 関西医科大学 立命館大学大学院 | ○西垣悦代 藤村あきほ |
| PA30 | 授業における座席の総合的研究 ー3区12方式の図絵を用いてー | 元九州女子短期大学 | 大庭茂美 |

| | | | |
|------|--|--|---|
| PA31 | 大学生の共食に対する態度の測定と共食教材の効果の検討 | 富山大学 | 小川 亮 |
| PA32 | メタ認知方略を組み込んだタブレット端末利用による算数問題解決 (2) | 神戸親和女子大学 関西福祉科学大学 | ○多 鹿 秀 継 堀 田 千 絵 |
| PA33 | 偶発記憶における自己選択効果と選択規準—生存欲求規準と自己準拠規準の比較— | 奈良教育大学 | 豊 田 弘 司 |
| PA34 | 3 年次学生調査における大学入学後の能力向上と主体的学びとの関連 | 大学入試センター | 山 地 弘 起 |
| PA35 | 黙読時における眼球運動への朗読予告による影響 その 2 —物語の結末部を中心に— | 法政大学 | 福 田 由 紀 |
| PA36 | 高校初年次生の教科理解におよぼす構造方略の影響 —理解不振につながる影響過程の存在— | 立命館大学 立命館大学 | ○山 本 博 樹 織 田 涼 |
| PA37 | ポストモダンにおける大学生の成長モデルと時間的展望獲得に関する探索的研究 (3) —心理学に対するイメージの計量テキスト分析— | 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 | ○川 上 正 浩 坂 田 浩 之 # 佐久田 祐 子 # 奥 田 亮 # |
| PA38 | 例を用いた負数の概念の説明 | 愛知教育大学 | 伊 藤 俊 一 |
| PA39 | 3 つの「わかる」で評価する授業分析法の提案 | 大分大学 | 藤 田 敦 |
| PA40 | 女子高校生における学業的自己概念の内的な準拠 —教科の成績の個人内評価に着目して— | 東北大学 聖徳大学 聖徳大学 | ○宮 本 友 弘 相 良 順 子 鈴 木 悦 子 |
| PA41 | 進路と部活に関する自伝的記憶を想起した時の感情状態変化に関する研究 —想起テーマの特定性を要因に加えて— | 中央大学 | 兵 藤 宗 吉 |
| PA42 | 児童期における多様性理解の様相 —相対主義と寛容性の観点から— | 東京大学大学院 東京大学大学院 東京大学大学院 | ○池 田 慎之介 福 田 麻 莉 太 田 絵梨子 |
| PA43 | 児童の相対主義的理解および寛容性を伸ばす道徳授業の実践 —意見の背後にある価値観の理解に着目して— | 東京大学大学院 東京大学大学院 東京大学大学院 | ○太 田 絵梨子 福 田 麻 莉 池 田 慎之介 |
| PA44 | 比例を活用した教授方略が内包量概念の理解に及ぼす影響 (1) —割合比較課題の分析を中心に— | 修紅短期大学 兵庫教育大学 | ○蛭 名 正 司 宮 田 佳緒里 |
| PA45 | 比例を活用した教授方略が内包量概念の理解に及ぼす影響 (2) —割合合成課題の分析を中心に— | 兵庫教育大学 修紅短期大学 | ○宮 田 佳緒里 蛭 名 正 司 |

社会

| | | | |
|------|---------------------------|------------------------------------|--|
| PA46 | 幼稚園連絡帳にみる家庭との関係構築のルールについて | 常葉大学 日本体育大学 甲南女子大学 首都大学東京 | ○高 向 山 若 尾 良 徳 # 梅 崎 高 行 山 際 勇 一郎 |
| PA47 | 大学新入生の社会的能力と友人関係特徴 | 香蘭女子短期大学 | 遠 矢 幸 子 |

| | | | |
|------|---|--|--|
| PA48 | 大学生の運動系部活動における動機づけに心理的欲求が及ぼす影響 | 島根大学 島根大学 | ○村 瀬 俊 樹 岩 崎 俊 俊# |
| PA49 | 保護者と保育者による子どもの発達評定の差異に関する文化比較 | 首都大学東京 法政大学 常葉大学 甲南女子大学 ソウル神学大学校 | ○山 際 勇一郎 小 湊 真 衣# 高 向 山 梅 崎 高 行 玄 正 煥# |
| PA50 | 教育に関する語の記述的意味と情緒的意味 —語の価値化傾向の文脈による変化— | 清泉女子大学 | 吉 岡 昌 紀 |
| PA51 | 教育学部生の教職志望意識と自己・他者・職業への信頼 | 滋賀大学 | 若 松 養 亮 |
| PA52 | デートDV被害経験と愛着スタイル及び感情価との関連 | 昭和学院短期大学 | 松 野 真 |
| PA53 | 保育士の専門性とキャリアコミットメント —保育士の属性と専門性認知について— | 梅花女子大学 梅花女子大学 | ○太 田 仁 阿 部 晋 吾 |
| PA54 | 中学校の総合的学習への介入とその継続についての研究 —カリキュラム変更のプロセスとその効果— | 東京都市大学 | 中 村 雅 子 |

人格

| | | | |
|------|--|-----------------------|--------------------|
| PA55 | なりたい親についての研究—共感性との関係 | 法政大学 | 櫻 井 登世子 |
| PA56 | ふれ合い恐怖的心性と自己愛の関連についての試論 | 金沢大学 | 岡 田 努 |
| PA57 | M.E.P.Seligman (2011) の well-being の理論的構造に関する実証的再考 —PERMAモデルにおける幸福感項目のふるまいについて— | 信州大学 株式会社フェスティナレンテ | ○田 中 敏 本 塩 彩 衣# |

臨床

| | | | |
|------|---|------------------------|---------------------|
| PA58 | 日本版SWPBIS (学校環境におけるポジティブな行動介入及び行動支援) の導入と効果に関する実践研究 —日本版「Good Behaviorチケット」の開発と活用を通して— | 立命館大学大学院 寝屋川市立啓明小学校 | ○枝 廣 和 憲 松 山 康 成 |
| PA59 | 児童養護施設退所者の支援の課題の検討 —自立とアフターケアに対する若年層の認識とその変化から— | 恵泉女学園大学 | 齋 藤 謁 |
| PA60 | 幻聴をとまなう統合失調症の青年を、医療とのコラボはもちろん、メール、電話、面談、そして社会活動も支援することで、寛解に導こうとするカウンセラーの2年間の試み | 青山学芸心理 | 高 山 智 |
| PA61 | 包括的支援アプローチ適用による断続欠席を呈する中学生への継続登校支援 —不安・体力・社会性評価及び主張反応法適用条件の検討— | 明治学院大学 筑波大学大学院 | ○小 野 昌 彦 江 角 周 子 |
| PA62 | ストレッサーに対する納得という教師の方略 | 岩手大学大学院 岩手大学大学院 | ○山 本 奨 大 谷 哲 弘 |

特別支援

- | | | | |
|------|--|----------------------|---------------------|
| PA63 | フィンランド公立学校におけるインクルーシブ教育の実践からの示唆 —日常的な支援のあり方に着目して— | 東京学芸大学大学院 | 中 田 明 香 |
| PA64 | 妨害刺激のある表情刺激に対する視線追跡の特徴 —自閉スペクトラム症大学生と健常大学生の比較— | 早稲田大学 埼玉福祉・保育専門学校 | ○佐々木 和 義 柳 忠 宏 |
| PA65 | 日本語の発達性書字障害のサブタイプ —認知障害の種類によるディスレクシア児の分類— | 明星大学 | 杉 本 明 子 |
| PA66 | 富山県の幼稚園における小学校との連携の実態 —特別支援教育の観点から— | 富山大学 | 小 林 真 |
| PA67 | 特別支援教育コーディネーターの実践における成果と課題の検討 —自由記述の頻出単語を手がかりとして— | 聖徳大学 帝京短期大学 | ○腰 川 一 恵 芳 賀 明 子 |

学校心理学

- | | | | |
|------|---|----------------------------|----------------------------------|
| PA68 | 幼児対象の社会性と情動の学習 (SEL-8N) プログラムの実践効果 —保護者評価を含めた検討— | 島根県立大学短期大学部 福岡教育大学 | ○山 田 洋 平 小 泉 令 三 |
| PA69 | 中学生のストレス反応と教師による支援との関連 —大学生との比較から— | 鹿児島市立皇徳寺中学校 鹿児島大学 | ○今 村 慎 吾 関 山 徹 |
| PA70 | 教師のダブルスタンダード化した指導が小学生に受容される要因に関する研究 (2) | 福山市立大学 高知市立一ツ橋小学校 | ○小 林 小夜子 下 村 綾 菜 # |
| PA71 | 中等教育における総合的な学習に関する学び方の質的検討 | 敬和学園大学 | 益 谷 真 |
| PA72 | 教員・保育者をめざす大学生の自己理解 (2) —エゴグラム実施半年後の事後調査— | 桜花学園大学 元桜花学園大学 | ○小 嶋 玲 子 河 内 晴 美 |
| PA73 | 職場体験と保育系短大生 —体験は進路選択に影響するが、現実は厳しかった— | 名古屋芸術大学 | 大久保 義 美 |
| PA74 | 高校における「いじめ認知」に関する実証的研究 | 岩手大学 | 藤 井 義 久 |
| PA75 | 保育実践力に及ばず保育実習後の保育に対する自信の影響 —子どもや保育者への関わりに関する自信に注目して— | 鳴門教育大学 鳴門教育大学 関西学院大学 | ○田 村 隆 宏 木 村 直 子 谷 村 宏 子 # |
| PA76 | 教職課程大学生の模擬授業経験による授業イメージの変化 —熟達化モデルから反省的実践家モデルへの移行— | 新潟医療福祉大学 | 遠 山 孝 司 |
| PA77 | 小学校6年生における中学校生活に対する期待と不安 | 岡山大学 | 三 宅 幹 子 |

PA78 ユニバーサル学校予防教育「自己信頼心（自信）の育成」プログラムの効果
—児童用紙筆版セルフ・エスティーム潜在連合テストを用いた自律的セルフ・エスティームへの教育効果の検討—

兵庫教育大学 ○横 嶋 敬 行
兵庫教育大学 賀 屋 育 子
鳴門教育大学 内 田 香 奈 子
鳴門教育大学 山 崎 勝 之

PA79 児童用の他律的（随伴性）セルフ・エスティーム尺度の開発
—尺度の信頼性と妥当性の検討，そして教育への適用の考察—

兵庫教育大学 ○賀 屋 育 子
鳴門教育大学 山 口 悟 史 #
兵庫教育大学 横 嶋 敬 行
鳴門教育大学 内 田 香 奈 子
鳴門教育大学 山 崎 勝 之

測定・評価・研究法

PA80 認知能力因子と習得能力因子の相関関係

法政大学 服 部 環

PA81 論理的思考に人称視点と不安および情動が及ぼす効果についての研究

金沢大学 ○大 岸 通 孝
金沢大学 中 田 順 平 #

PA82 新共通テスト（イメージ例）が測定する資質・能力の分析（2）
—第1回モニター調査結果からの示唆—

東北大学 ○倉 元 直 樹
東北大学 宮 本 友 弘

ポスター発表B

10月7日(土) ポスター掲示時間 13:00~15:00
 在席責任時間 奇数番号13:00~14:00 偶数番号14:00~15:00

発達

| | | | |
|------|---|---|---|
| PB01 | 幼児期における全体一部分知覚と自己制御・実行機能との関連性 —知覚発達から自己制御はわかるのか?— | 江戸川大学 江戸川大学 | ○野 田 満 落 合 洋 子# |
| PB02 | 母親の育児語使用と言語発達観 | 大阪総合保育大学 大阪総合保育大学大学院 京都市山科・深草保健福祉センター | ○小 椋 たみ子 増 田 珠 巳# 平 井 純 子 浜 辺 直 子# |
| PB03 | 保育者効力感と子どもへの関心に及ぼす保育園における体験的実習の影響 | 東海学園大学 尚綱大学短期大学部 | ○龍 祐 吉 小川内 哲 生 |
| PB04 | 4~6歳児のストーリーナラティブの評価指標の検討(2) —ナラティブ発達評価指標作成に向けての基礎研究— | 帝京平成大学 白百合女子大学 | ○瀬 戸 淳 子 泰 野 悦 子 |
| PB05 | 幼児の社会道徳的逸脱場面における親の領域調整と関わり方 | 埼玉大学 東北福祉大学 岡山県立大学 仙台白百合女子大学 | ○首 藤 敏 元 利根川 智 子 樟 本 千 里 上 岡 紀 美# |
| PB06 | 手指活動における操作性の高さと前頭前野の活動 —近赤外線分光法を用いた検討— | 愛知東邦大学 | 橘 廣 |
| PB07 | ATLAN音韻意識検査の作成と妥当性評価 | 大阪教育大学 | 高 橋 登 |
| PB08 | テレビ視聴に対する親のかかわりと子どもの言語発達との関連 —乳児期から児童期までの縦断調査から— | お茶の水女子大学大学院 お茶の水女子大学 金沢学院大学 首都大学東京 | ○菅 原 ますみ 松 本 聡 子# 室 橋 弘 人 酒 井 厚 |
| PB09 | 大学生のコミュニケーション能力に与える部活動経験の影響 | 大分県立芸術文化短期大学 | 藤 田 文 |
| PB10 | 思春期の問題行動に対する青年期のとらえ直し(2) —思春期の不登校に対する大学生の見方の変容— | 広島国際大学 | 鹿 嶋 達 哉 |
| PB11 | 子どもの言語表現の発達の検討 —実験場面についての報告のテキストマイニングによる分析— | 関西国際大学 | 吉 村 啓 子 |
| PB12 | 母子遊び場面で観察された母親による発達初期の子どもへの意思決定支援 | 川村学園女子大学 東海学院大学 川村学園女子大学 | ○蓮 見 元 子 川 嶋 健太郎 北 原 靖 子 |
| PB13 | 児童館での学生のボランティア活動が幼児の遊びや母子関係に与える影響について | 帝京大学 | 新 谷 和 代 |
| PB14 | 親になるための共感性におよぼす養育環境の影響 —女子学生の要因について— | 中京学院大学 愛知みずほ大学 | ○高 田 理 衣 安 念 保 昌 |
| PB15 | 親になるための共感性におよぼす性と愛着要因の影響 —養育環境とのかかわりにおいて— | 愛知みずほ大学 中京学院大学 | ○安 念 保 昌 高 田 理 衣 |

PB

PB16 小学校教員の自主・向上性と教師効力感・被援助志向性・教職のやりがい感との関連

早稲田大学大学院
早稲田大学 ○森 永 秀 典
河 村 茂 雄

教授・学習・認知

PB17 リバウンドしやすい知識とリバウンドしにくい知識

東北生活文化大学 植 松 公 威

PB18 小学校1年生における算数文章題の場面理解に関する研究

東京大学大学院 末 松 加 奈

PB19 自由度の高い学習状況の活用にかかわるスキル
—CPFOSTを用いた検討—

南山大学 ○浦 上 昌 則
駿河台大学 杉 本 英 晴
日本福祉大学 矢 崎 裕美子
愛知教育大学 高 綱 睦 美

PB20 大学生におけるADHD特性とコーピングが心理的適応に及ぼす影響に関する研究
—コーピング柔軟性に焦点を当てて—

駿河台大学大学院 ○松 川 奉 央
駿河台大学大学院 永 作 稔

PB21 保育系学部女子学生におけるピアノ学習に対する意識
—入学後1年間の変化から—

東京成徳大学 富 山 尚 子

PB22 ICT導入によるカリキュラムのアクティブラーニング化と教員の変化

宮城教育大学 ○平 真木夫
宮城教育大学 田 幡 憲 一#
宮城教育大学 安 藤 明 伸#

PB23 大学院生に対する研究に対する態度構造を探る
—学部新卒院生のPAC分析を通して—

NPO日本語教育研究所 石 橋 玲 子

PB24 映像資料のノートテイキングにおけるワーキングメモリの影響 (2)

熊本学園大学 中 村 光 伴

PB25 小論の作成・推論時に書き手は何を重要視するか
—継続した協同推敲活動が書き手の意識の変容に与える効果—

東北大学 ○深 谷 優 子
千葉工業大学 市 川 洋 子

PB26 参勤交代に関する児童の認識の様相について
—小学6年社会科の授業実践を通して—

兵庫教育大学大学院 ○吉 國 秀 人
和歌山市立新南小学校 前 田 浩 伸#

PB27 中学校での協同学習が自己効力感並びに友人との学習活動に及ぼす影響
—内的作業モデルから見た効果検証—

関西福祉科学大学 ○川 野 敬 子
関西福祉科学大学 鎌 田 次 郎
関西福祉科学大学 谷 向 みつえ

PB28 講義型授業における「問い」の提示とディスカッションおよび予習課題に対する評価

京都ノートルダム女子大学 ○尾 崎 仁 美
京都ノートルダム女子大学 松 島 る み

PB29 モンティ・ホール・ジレンマにおける規範的意思決定の阻害要因の検討
—現状維持バイアスと自己決定感の側面から—

弘前大学 ○吉 中 淳
株式会社ノバレーゼ 後 藤 玲 奈#

PB30 大学生は「学ぶ」と「研究する」をどう認識するのか (1)

大阪市立大学 西 垣 順 子

PB31 教科教育におけるプログラミング学習による思考力の育成
—小学校5年生電流の流れのシミュレーション—

東京工業大学 ○栗 山 直 子
大阪大学 齊 藤 貴 浩
東京工業大学 森 秀 樹#
東京工業大学 西 原 明 法#

| | | | | | | |
|------|--|--------------------------------------|--------|------|------------------------|-----------------------|
| PB32 | 中・高校生女子における学業的自己概念と自己価値 | 聖徳大学 東北大学 聖徳大学 | ○相宮鈴 | 良本木 | 順友悦 | 子弘子 |
| PB33 | 中学校「授業は英語で行うことを基本とする」後の生徒の学習方略の変容と学習動機 | 香川大学教職大学院 元香川大学教職大学院 | ○齋大 | 藤西 | 嘉範 | 則英 |
| PB34 | Kit-Build概念マップとScratch-Build概念マップからみた授業内容の能動的受容とレポート評価との関連 | 玉川大学 玉川大学 目白大学 広島大学 広島大学 | ○宇茅市林平 | 井島村雄 | 美代子 路子帆 美介 雄介 | 子 子 # # # |
| PB35 | 講義型授業開始時における「問い」の提示および予習に対する評価について | 京都ノートルダム女子大学 京都ノートルダム女子大学 | ○松尾 | 島崎 | る仁 | み美 |
| PB36 | JFL環境における日本語学習者の漢字学習への興味 ーメキシコの学習者を対象にー | 北海道大学 北海道大学 | ○小佐 | 林藤 | 由子梓 | |
| PB37 | 中学校ではどのような批判的思考教育が行われているか？ | 琉球大学 | 道田 | 泰司 | | |
| PB38 | アイデンティティに基づく学習動機づけ形成のエピソード ー大学生を対象とした回顧法による自由記述からー | 静岡大学 | 伊田 | 勝憲 | | |
| PB39 | 英語および英語学習に対する信念の構造と自己効力感との関係 | 信州大学 信州大学 信州大学 | ○島鈴田 | 田木中 | 英俊江 | 昭太郎 # 扶 |
| PB40 | 地域の伝統的工芸品を活用したキャリア教育における外部との連携 | 上越教育大学 | 城間 | 祥子 | | |
| PB41 | 講義資料への書き込みおよび資料参照による授業内容理解への影響 | 玉川大学 | 魚崎 | 祐子 | | |
| PB42 | 大学生を対象としたライティング反転授業におけるeラーニングの効果 | 公立はこだて未来大学 公立はこだて未来大学 | ○富椿 | 永本 | 敦弥 | 子生 |
| PB43 | ライティングの反転授業が文章産出困難感に与える影響 | 公立はこだて未来大学 公立はこだて未来大学 | ○椿富 | 本永 | 弥敦 | 生子 |
| PB44 | 不適切な読解表象はいかに形成されるか（1） ー説明的文章に関する大学生の「まとめ」の分析ー | 札幌学院大学 東北大学 | ○舛工 | 田藤 | 弘与志文 | 子 |
| PB45 | 不適切な読解表象はいかに形成されるか（2） ー説明的文章に関する大学生の「まとめ」の分析ー | 東北大学 札幌学院大学 | ○舛工 | 藤田 | 与志文 弘子 | 子 |

社会

| | | | | |
|------|--------------------------------------|----------|----|----|
| PB46 | 他児との人間関係に困難を抱える子どもの認知変容のプロセス | 東京純心大学 | 小沼 | 豊 |
| PB47 | 運動部員の部活動への適応感における部の連帯性と顧問教師の育成指導との関係 | 高知学園短期大学 | 吉村 | 斉 |
| PB48 | 大学からのサポートと大学の魅力の関連 ー学生の性格の調整効果ー | 愛知学院大学 | 高木 | 浩人 |

| | | | |
|------|--|----------------------|-----------------------|
| PB49 | 大学生の目標階層に関する探索的研究 —面接法による検討— | 学習院大学 | 伊 藤 忠 弘 |
| PB50 | 看護系大学生の休学や留年における有効な支援 | 長野県看護大学 | 松 本 淳 子 |
| PB51 | 社会的スキルとオンライン上のコミュニケーションスキルの関連性 | 上越教育大学 白鷺大学 | ○石 川 真 美 平 田 乃 |
| PB52 | 教師との関係形成における児童の主体性が学級適応感に及ぼす効果についての予備的調査 —道具性と情緒性の2機能を考慮して— | 愛知教育大学 名古屋市立常安小学校 | ○弓 削 洋 子 齋 田 裕 香 # |
| PB53 | 大学生における稼得意識の検討 (1) —稼得意識と経済への関心度の男女差— | 四天王寺大学 武庫川女子大学 | ○上 野 淳 子 松 並 知 子 |
| PB54 | 大学生における稼得意識の検討 (2) —職業観と平等主義的性役割態度との関連— | 武庫川女子大学 四天王寺大学 | ○松 並 知 子 上 野 淳 子 |

人格

| | | | |
|------|---|----------------------------------|--------------------------------|
| PB55 | 大学生の日常的な抑うつに関わるストレスと対処行動 | 北星学園大学 | 柴 田 利 男 |
| PB56 | 大学生のレジリエンス要因と原因帰属の関連 —原因帰属のスタイルと複雑性との関連から— | 安田女子大学 安田女子大学大学院 安田女子大学大学院 | ○池 田 智 子 山 下 純 子 小 澤 靖 枝 |
| PB57 | 芸術・創作活動の実施経験と特性的自己効力感との関連 | 関西福祉科学大学 | 宇 恵 弘 |

臨床

| | | | |
|------|--|-------------------------------|------------------------------------|
| PB58 | 青年期の機能的ヘルス・リテラシー尺度の開発 —functional health literacy scale for adolescents / young adults (funHLS-A/YA)— | 名古屋商科大学 名古屋商科大学 名古屋商科大学 | ○椿 田 貴 史 川 副 延 生 # 市 川 真帆子 # |
| PB59 | 心理教育プログラム実施者の実施前後での心理的適応および効力感の変化 —発達障害児を対象とするCBTプログラムPEACEの放課後等デイサービスでの実践に関して— | 鳥取大学 徳島文理大学 神戸大学大学院 | ○石 本 雄 真 松 本 有 貴 山 根 隆 宏 |
| PB60 | 保育者の共感性と共感疲労経験および精神的健康との関連 | 宮城学院女子大学 東洋大学 | ○木 野 和 代 内 田 千 春 |
| PB61 | アドベンチャー教育における体験学習サイクルのスパイラルアップと参加者の学びをより深化させる「学業支援ツール」の開発およびその活用事例 —リフレクションと自己対峙の充実を目指して— | 東京工業大学 帝塚山大学 | ○石 川 国 広 関 智 子 |
| PB62 | 大学生のグループ活動におけるコンセンサスの影響 | 聖徳大学 豊岡短期大学 | ○鈴 木 由 美 大 塚 貴 之 |

特別支援

| | | | |
|------|---|-------------|---------|
| PB63 | 保育現場における3・4・5歳児の「気になる子」を含む保育の課題と保育者のニーズ —3・4・5歳児クラス担任インタビュー調査より— | 大阪健康福祉短期大学 | 野 村 朋 |
| PB64 | 知的障害児の行動調整能力の向上に向けた教員への支援 | 和歌山信愛女子短期大学 | 村 上 凡 子 |

| | | | |
|------|--|--|---|
| PB65 | 特別支援学級における外国語活動：ルートマップ 的ルーブリックを活用したアウトプットの積極的 評価 | 愛媛大学 旭川市立豊岡小学校 旭川市立豊岡小学校 愛媛大学 関東学院大学 | ○中塚 山田 初文 晃美# 貴生# 生# 毅# |
| PB66 | 特別支援教育における教員の役割に関する研究 (6) —教員のタイプ別の特別支援教育における外部と の連携等の関係— | 池坊短期大学 帝京科学大学 鹿児島大学 | ○林幸 石橋 今林 範子 裕一 |
| PB67 | 特別支援教育における教員の役割に関する研究 (7) —小学校での特別支援教育における教員サポート の実践について— | 帝京科学大学 池坊短期大学 鹿児島大学 | ○石橋 林幸 今林 裕子 範一 |

学校心理学

| | | | |
|------|--|------------------------------|-----------------------------------|
| PB68 | 過去に出会った教師に対する大学生の見方 | 東日本国際大学 | 伊 尻 正 一 |
| PB69 | 学級集団の状態ごとの生徒の認知する教員のユー モア行動との関係 | 早稲田大学大学院 早稲田大学 | ○河村 河村 昭博 茂雄 |
| PB70 | 高校生対象のスクール・学級・個別ワイドによる SSTの効果 | 東京情報大学 法政大学 | ○原田 渡辺 恵理子 弥生 |
| PB71 | 学級経営尺度の作成 | Christ University 常葉大学大学院 | ○松本 石川 みゆき 美智子 |
| PB72 | 児童の積極的授業参加に関する研究 (30) —クラスの集団構造からの検討— | 岐阜聖徳学園大学 日本福祉大学 明星大学 | ○安藤 小平 布施 史高 英志 光代 |
| PB73 | 教師の学級指導行動が児童の心理的欲求の充足に 及ぼす影響 —教師の学級指導行動尺度の作成— | 愛知教育大学 岩津小学校 | ○石田 下岡 靖彦 奈央# |
| PB74 | 『人生すごろく』を介した学習とアイデンティ ティについての検討 —高校三年生の社会科授業実践の分析をもとに— | 兵庫県立大学 | 保 坂 裕 子 |
| PB75 | 専門的ヘルパーはどのような学習支援を行っている のか —教育現場における中学・高校生への支援の内容 — | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○児玉 外山 裕巳 美樹 |
| PB76 | いじめられる側にも問題があるって本当ですか？ その9 —被害・加害経験および自己関連づけが被害者へ の有責性認知に及ぼす影響— | 甲南大学 こいでクリニック | ○福井 小山 義聡 一子 |
| PB77 | 高校生における情動知能と学校適応 —EQSの下位概念間の関連から— | 近畿大学 名古屋大学大学院 | ○小泉 赤松 隆平 大輔 |
| PB78 | ロールレタリングを導入した教育実習支援に関す る研究 | 金沢星稷大学 | 岡 本 泰 弘 |
| PB79 | 大学における初年次合宿研修に参加した新入生の 研修効果について —2016年度帝京大学教育学部初等教育学科初等教 育コースの場合— | 立正大学大学院 多摩市立愛和小学校 帝京大学 | ○星田 藤井 山村 由真 哉紀 紀豊 |

PB80 大学における初年次合宿研修に従事した上級生の
態度構造について
—2015年度帝京大学教育学部初等教育学科初等教
育コースの場合—

多摩市立愛和小学校 ○藤井真紀
立正大学大学院 星田由哉
帝京大学 山村 豊

測定・評価・研究法

PB81 異質な他者とのコミュニケーション尺度作成の試
み
—アドラーの共同体感覚に着目して—

東京外国語大学大学院 加藤 慧

PB82 風変わりな相関係数
—楕円一様分布のおもしろい性質—

早稲田大学 椎名乾平

PB83 中学生の成人力
—PIAACとPISAの問題による調査の結果—

国立教育政策研究所 吉岡亮衛

ポスター発表C

10月7日(土) ポスター掲示時間 15:30~17:30
 在席責任時間 奇数番号15:30~16:30 偶数番号16:30~17:30

発達

| | | | |
|------|--|--|--|
| PC01 | 日々の母娘関係の一分析 —母の認知する母娘関係の因子比較— | 太成学院大学 関西大学 | ○小 高 恵 紺 田 広 明 # |
| PC02 | 現代の若者の価値観と生活満足度 | 三重大学 | 南 学 |
| PC03 | 10代群, 40代群, 高齢者群における生涯発達項目 に関する認知 | 金城大学 | 奥 田 裕 紀 |
| PC04 | 思春期の母子間葛藤と養育態度の変化 —3時点の縦断調査より— | 皇学館大学 名古屋大学 | ○渡 邊 賢 二 平 石 賢 二 |
| PC05 | 女子大学生用キャリア発達尺度の妥当性の検証 (1) —男子大学生との比較から— | 昭和女子大学大学院 | 木 川 智 美 |
| PC06 | 児童期の情動発達とその特異性に関する研究 1 —「気になる」児童の情動発達の特徴— | 東北大学 聖和学園短期大学 石巻専修大学 鳥取大学 京都教育大学 | ○本 郷 一 夫 飯 島 典 子 平 川 久美子 高 橋 千 枝 相 澤 雅 文 |
| PC07 | 児童期の情動発達とその特異性に関する研究 2 —「気になる」行動の特徴— | 聖和学園短期大学 石巻専修大学 鳥取大学 京都教育大学 東北大学 | ○飯 島 典 子 平 川 久美子 高 橋 千 枝 相 澤 雅 文 本 郷 一 夫 |
| PC08 | 児童期の情動発達とその特異性に関する研究 3 —「気になる」児童の行動特性と表情および言葉に よる情動表現との関連— | 石巻専修大学 鳥取大学 京都教育大学 東北大学 聖和学園短期大学 | ○平 川 久美子 高 橋 千 枝 相 澤 雅 文 本 郷 一 夫 飯 島 典 子 |
| PC09 | 児童期の情動発達とその特異性に関する研究 4 —「気になる」児童の行動特性と情動理解および共 感との関連— | 鳥取大学 京都教育大学 東北大学 聖和学園短期大学 石巻専修大学 | ○高 橋 千 枝 相 澤 雅 文 本 郷 一 夫 飯 島 典 子 平 川 久美子 |
| PC10 | 児童期の情動発達とその特異性に関する研究 5 —情動抑制と誇り・恥の特徴— | 京都教育大学 聖和学園短期大学 石巻専修大学 鳥取大学 東北大学 | ○相 澤 雅 文 飯 島 典 子 平 川 久美子 高 橋 千 枝 本 郷 一 夫 |
| PC11 | 成人を対象としたファイナンス効力感尺度の開発 | 東北大学 | 神 谷 哲 司 |
| PC12 | 保育者の退職に結びつく「資質」の検討 —管理職へのインタビュー調査から— | 常葉大学 和光大学 | ○山 本 睦 坂 井 敬 子 |
| PC13 | 高学年児童の学級活動での初期の話し合い進行に おける教師の介入 | 千葉大学 千葉大学教育学部附属小学校 | ○岩 田 美 保 佐 藤 翔 # |
| PC14 | 児童の防犯行動に関わる社会的情報処理メカニズ ム | 甲南女子大学 | 畠 山 美 穂 |

PC

| | | | |
|-----------------|---|---|---|
| PC15 | ミラーリングプログラムの効果検証 ーミラーリングの増加は母子交流を促すかー | 名古屋大学大学院 | 井 手 裕 子 |
| PC16 | 2歳児クラス集団における自己主張の発達 | 仁愛大学 | 鈴 木 智 子 |
| 教授・学習・認知 | | | |
| PC17 | 文章理解力の発達に及ぼす読書のジャンルの影響 ー図書貸出数を用いた縦断研究による検討ー | ルーテル学院大学 くらしき作陽大学 静浦小中一貫学校 関西大学 | ○上 田 紋 佳 猪 原 敬 介 小谷田 照 代# 塩 谷 京 子# |
| PC18 | 受験競争観が学習動機づけに与える影響 ー英語学習における仮想的有能感に着目してー | 東京外国語大学大学院 | 馬 場 正太郎 |
| PC19 | 留学体験等のふりかえりに大学の授業はいかに貢献しうるのか ー学問知と実践知を統合する「世界と越境するフォーラム」の試みー | 東京外国語大学 | 田 島 充 士 |
| PC20 | 児童養護施設における個別学習支援プログラムの効果検証 ー児童および大学生の変化の関連ー | 福山大学 関西学院大学 関西福祉科学大学 | ○赤 澤 淳 子 桂 田 恵美子 谷 向 みつえ |
| PC21 | 看護学生の死生観に関する調査 ー死別体験の有無による比較ー | 大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 | ○藤 田 和加子 石 井 あゆみ 徳 珍 温 子 |
| PC22 | 学級規模と児童の授業参加 ー身体運動周波数の偏差に着目してー | 国立教育政策研究所 北海道大学 文教大学 高松大学 国立教育政策研究所 城西国際大学 | ○山 森 光 陽 伊 藤 崇 子 中 本 敬 子 徳 岡 大 仁 萩 原 康 仁 大 内 善 広 |
| PC23 | 私たちは、どのように折り紙を折っているのか？ (21) ー幼児における円形折り紙の変形方略の分析ー | 至学館大学 | 丸 山 真名美 |
| PC24 | メタ認知能力を育成する試み(6) ー「頭の中の先生」の言葉の評価・賞賛を中心とした2016研究の遅延効果ー | 北海道教育大学 札幌市立明園小学校 | ○吉 野 巖 島 貫 静 |
| PC25 | 友人関係への動機づけの違いとグループ活動への動機づけの変化 ー大学初年次教育における検討ー | いわき明星大学 | 名 取 洋 典 |
| PC26 | 対話型授業における学習者の理解度と学習態度の変容の検討 | 公立はこだて未来大学 | 辻 義 人 |
| PC27 | 教育に関する信念と批判的思考態度 ー教職課程履修者における検討ー | 大阪音楽大学短期大学部 | 平 山 る み |
| PC28 | 授業内容に関する質問・解答作成の効果 ー大学の講義型授業における取り組みー | 東京未来大学 | 小 林 寛 子 |
| PC29 | 質の高い要約文章作成のためには何が重要か ー読み手及び書き手としての意識とメタ認知の影響ー | 北海道教育大学 札幌市立札幌緑小学校 | ○懸 田 孝 一 松 村 朋 美# |
| PC30 | 問い生成型授業において学習者が見出した問い生成の手順は深い問いの生成に有効か | 別府大学短期大学部 | 向 井 隆 久 |

| | | | |
|------|---|-------------------------------------|---|
| PC31 | 経済学理論を適用した学習理論の構築 ーミクロ経済学の視点からー | 春日井市立烏居松小学校 | 西 谷 寿 |
| PC32 | いじめ防止教育のアクティブ・ラーニングによる 取組み | 東京電機大学 東京電機大学 東京電機大学 | ○今 野 紀 子 土 肥 紳 一 宮 川 治 |
| PC33 | 文字の音声情報が読解行動に及ぼす影響 ー音読と読み聞かせの比較からー | 日本学術振興会／東京大学 | 高 橋 麻衣子 |
| PC34 | 日本における各教科等の学びで育成可能なコンピ テンシーの構造 | 東京学芸大学 | 関 口 貴 裕 |
| PC35 | 協調的問題解決授業において多様な考えの関連づ けを可能にする課題のデザイン | 静岡大学 静岡県伊東市立対島中学校 静岡県伊東市立東小学校 | ○河 崎 美 保 遠 藤 育 男 # 堀 野 良 介 # |
| PC36 | 教室の学びを支える児童のきく力尺度の作成 | 早稲田大学大学院 早稲田大学 | ○宮 内 健 向 後 千 春 |
| PC37 | 初年度大学生の学業生活に対する親和性 ークラスタリングによる学習スタイルの差異との 関係性ー | 金沢学院短期大学 | 鈴 木 賢 男 |
| PC38 | 保育職を目指す大学生における実習の意味づけと 学習意欲について ー質問紙調査からの検討ー | 愛知淑徳大学 | 小 野 美 和 |
| PC39 | 小学校におけるBLS教育の有効性に関する検討 ー道徳的アプローチによる実践ー | 名古屋経済大学大学院 鹿児島テレビ放送株式会社 | ○矢 野 正 吉 井 英 博 # |
| PC40 | お互いのテーマが大きく異なる場合のピア・レス ポンスにおける意見の述べ方 | 国際教養大学 | 石 毛 順 子 |
| PC41 | 英単語に対する難度感について (2) ー語の心理的長さー | 大同大学 大同大学 名古屋工業大学 京都大学大学院 | ○浅 井 淳 小 西 章 典 # 石 川 有 香 # 松 岡 真由子 |
| PC42 | 閲覧時の教示方法が後の検索行動に与える影響 (1) ー閲覧時間、閲覧ページ再認、サイト属性予測ー | 早稲田大学 株式会社ビースカイネット 早稲田大学 | ○大 津 嘉代子 植 木 祐 介 # 阪 脇 孝 子 |
| PC43 | 閲覧時の教示方法が後の検索行動に与える影響 (2) ーサイトの有用性評価に焦点を当ててー | 早稲田大学 株式会社ビースカイネット 早稲田大学 | ○阪 脇 孝 子 植 木 祐 介 # 大 津 嘉代子 |
| PC44 | 保育所実習において学生が抱く感情についての調 査研究III ー保育実習ⅠとⅡのヒアリング調査からー | 四天王寺大学 東海市教育委員会 | ○小 川 圭 子 鎌 田 陽 世 |
| PC45 | 保育所実習において学生が抱く感情についての調 査研究IV ー保育実習ⅠとⅡの質問紙調査からー | 東海市教育委員会 四天王寺大学 | ○鎌 田 陽 世 小 川 圭 子 |

社会

| | | | |
|------|-------------------------------------|--------|---------|
| PC46 | 規範逸脱行動に関する規範意識および行動基準に おける母子間の関連 | 奈良教育大学 | 出 口 拓 彦 |
|------|-------------------------------------|--------|---------|

| | | | |
|------|--|---------------------------------|-----------------------|
| PC47 | 子どもの家庭でのPC利用環境を規定する要因 —ケイパビリティ・アプローチの観点から— | 白百合女子大学生涯発達研究 教育センター 星槎大学 | ○黒 石 憲 洋 斎 藤 俊 則 # |
| PC48 | 視点取得・共感性・マキャベリアニズムがボラン ティア参加に及ぼす影響 | 東海大学短期大学部 | 小 池 はるか |
| PC49 | 幼稚園教諭による教育支援が子どもの学習機会や 意識に与える影響 | 名古屋経営短期大学 | 岡 本 弘 子 |
| PC50 | 女子大学生の教育実習にまつわる不安 (3) —不安軽減を図る心理的介入— | 津田塾大学 津田塾大学 | ○吉 村 麻奈美 高 垣 マユミ |
| PC51 | 中学校内で起きるネットいじめの予測 | 愛知教育大学 | 黒 川 雅 幸 |
| PC52 | 保育者の離職意思に影響する要因 —業務困難感, 昇進不希望, ならびに個人要因に よる検討— | 和光大学 常葉大学 | ○坂 井 敬 子 山 本 睦 |
| PC53 | 中学生のいじめ経験と認知のゆがみ | 甲南大学 | 大 西 彩 子 |

人格

| | | | |
|------|--|-------------------|---------------------|
| PC54 | 性格特性の5因子とツイッター利用動機・イン ターネット依存傾向の関連 | 名古屋市立大学 東海学園大学 | ○天 谷 祐 子 谷 伊 織 |
| PC55 | 新設四年制大学における学生生活とキャリア発達 およびメンタルヘルスとの関連 (6) | 福山市立大学 | 高 澤 健 司 |
| PC56 | 森田神経質と認知的コーピングが精神的健康に及 ぼす影響 | 信州大学 広島大学大学院 | ○清 水 健 司 清 水 寿 代 |

臨床

| | | | |
|------|---|---|---|
| PC57 | 児童生徒理解のための多次元尺度の開発 (1) —項目収集と入力システム— | 奈良女子大学 奈良女子大学 埼玉純真短期大学 奈良女子大学大学院 奈良女子大学 | ○伊 藤 美奈子 森 下 文 金 子 恵美子 向 出 章 子 古 賀 裕 美 |
| PC58 | 児童生徒理解のための多次元尺度の開発 (2) —教師の視点を加えた妥当性の検討— | 奈良女子大学 奈良女子大学 埼玉純真短期大学 奈良女子大学大学院 奈良女子大学 | ○森 下 文 伊 藤 美奈子 金 子 恵美子 向 出 章 子 古 賀 裕 美 |
| PC59 | 児童生徒理解のための多次元尺度の開発 (3) —発達の観点からの児童生徒理解— | 埼玉純真短期大学 奈良女子大学 奈良女子大学 奈良女子大学大学院 奈良女子大学 | ○金 子 恵美子 伊 藤 美奈子 森 下 文 向 出 章 子 古 賀 裕 美 |
| PC60 | いじめの深刻化要因の検討 —学級の荒れに注目して— | 北海道大学 常葉大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学 | ○加 藤 弘 通 太 田 正 義 水 野 君 平 濤 岡 優 # 木 下 弘 基 # 俣 珂 江 # |

| | | | |
|------|--|---|--------------------------------|
| PC61 | 中学生の相互独立性・相互協調性と学業ストレス ーサーへの認知的評価との関連 ー友人からのソーシャル・サポートを統制した検 討ー | 立正大学 筑波大学 東京女子体育大学・ 東京女子体育短期大学 東京学芸大学 | ○奥野誠一 濱口佳和 田島真沙美 霜村麦# |
|------|--|---|--------------------------------|

特別支援

| | | | |
|------|--|--------------------------------|-------------------------|
| PC62 | 障害のある幼児の記録から保育者は何を読み取る か ーSCATによる実践知解読の試みー | 名古屋市立大学 名古屋柳城短期大学 桜花学園大学 | ○上田敏丈 荻原はるみ 勝浦真仁 |
| PC63 | 健診時要フォロー児の適応状況に関する教師と保 護者の認識 ー就学前の健診から小学校高学年までの縦断調査 からー | 名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学 | ○若林紀乃 福元理英# 野邑健二# |
| PC64 | 自閉スペクトラム症の成人における心情理解と援 助動機 | 京都大学 福井大学 福井大学 | ○米田英嗣 小坂浩隆# 岡沢秀彦# |
| PC65 | 障害児保育における保育者の熟達化 ー保育困難感の分析を通してー | 白梅学園大学 | 廣澤満之 |
| PC66 | 保育学生に対するTeacher Trainingの実践(1) ースキル, 知識及び効力感における変化の検討ー | 弘前大学 比治山大学 | ○松田侑子 濱田祥子 |

学校心理学

| | | | |
|------|---|--------------------------------------|-----------------------|
| PC67 | 子ども同士で感謝と賞賛を伝え合うPPR(Posi- tive Peer Reporting)の有効性の検討 ーカードの記入枚数に着目した分析ー | 寝屋川市立啓明小学校 立命館大学大学院 | ○松山康成 枝廣和憲 |
| PC68 | 通常学級における集団随伴性の適用 ー授業開始時の適応行動の増加を目指した取り組 みー | 寝屋川市立啓明小学校 寝屋川市立啓明小学校 大阪樟蔭女子大学 | ○沖原総太 松山中康成 田善大 |
| PC69 | 教師の認知と生徒のいじめ経験との関連 ー教師の効力感と学級風土を指標とした検討ー | 広島修道大学 | 西野泰代 |
| PC70 | 小規模中学校における予防的心理教育プログラムの 効果 ー対人関係ゲームと構成的グループエンカウ ターを用いた実践ー | 日本文理大学 | 高橋淳一郎 |
| PC71 | 小学生における無気力感メカニズムの検討 ー学年別データによる検討ー | 大阪教育大学 | 牧郁子 |
| PC72 | 就職が決定したことにかかる自己の選択に対する 自己評価分類の試み ー就職内定後のインタビュー調査からー | 岩手大学大学院 岩手大学大学院 職業能力開発総合大学校 | ○大谷哲弘 山本奨 竹下浩 |
| PC73 | ネット会議システムを用いた学校連携プロジェク トにおける効果と課題の検討 | 福井大学 | 岸俊行 |
| PC74 | 模擬ケース会議短縮版の検討 ー多職種理解に焦点を当ててー | 就実短期大学 大阪教育大学 | ○荊木まき子 森田英嗣 |
| PC75 | 学校評価GTO™ツールを用いたエンパワーメン ト評価実践の評価 | 東京福祉大学短期大学部 南山大学 | ○池田琴恵 池田満 |

| | | | |
|------|--|------------------------|------------------------------|
| PC76 | 学校動物への愛着尺度，飼育前不安尺度，学校動物飼育尺度の信頼性・妥当性の検討 | 大手前大学 | 中 島 由 佳 |
| PC77 | 教員による自律的貢献を促す学校組織特性Ⅰ | 就実短期大学 | 鎌 田 雅 史 |
| PC78 | 大学生の抑うつ傾向に対する介入効果の検討（5） —性別によるLAC法の特徴— | 神戸親和女子大学 金城学院大学 | ○松 本 麻友子 中 島 奈保子 |
| PC79 | 学生相談における危機レベルと精神的健康度との 関連について —項目反応理論を用いて— | 秋田大学 名古屋大学 名古屋大学 | ○酒 井 涉 森 田 美弥子 野 口 裕 之 |

測定・評価・研究法

| | | | |
|------|---|----------------------------|---------------------|
| PC80 | 類似判断における先行知識の影響 | 科学警察研究所 | 関 陽 子 |
| PC81 | センター試験における特異的多数出願者の年次推移 —大学進学意思決定と社会的要因— | 独立行政法人 大学入試センター 帝京大学 | ○内 田 照 久 橋 本 貴 充 |
| PC82 | ボーイスカウトにおけるキャンプの教育効果について | 大妻女子大学 | 田 中 優 |

ポスター発表D

10月8日(日) ポスター掲示時間 10:00~12:00
在席責任時間 奇数番号10:00~11:00 偶数番号11:00~12:00

発達

| | | | |
|------|---|--|--|
| PD01 | 社会性の発達に問題有する対象児に対する教育実践 —課題の設定と複数の教授者が対象児を取り巻く構造の意義について— | 大妻女子大学 大妻女子大学大学院 大妻女子大学大学院 大妻女子大学大学院 大妻女子大学大学院 | ○向 井 敦 子 霞 麻紗子# 神 沢 美 波# 齋 藤 日向子# 竹 下 亜 美# 原 田 奏 江# |
| PD02 | 中学生のいじめ場面における援助不安と共感性の関連 | 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 宇都宮大学 | ○石 川 隆 行 中 村 真 真# 米 山 正 文# 清 水 奈 名子# 澤 田 匡 人 |
| PD03 | 幼児用Highly Sensitive Child Scale日本語版作成の試み | 広島修道大学 | 鈴 木 亜由美 |
| PD04 | 円の一筆描きにみられる描線動作の文化的特徴 —日・中・台・独の大学生を対象として— | 獨協大学 | 田 口 雅 徳 |
| PD05 | 保育士による担当クラス集団の認識と保育の困難さに関する研究2 —子ども同士の関係作りの困難さに着目して— | 東北福祉大学 | 平 川 昌 宏 |
| PD06 | 幼児の遊びにおける役割分担の生成過程 —砂場でのままごと遊びに焦点を当てて— | 武蔵野大学 | 箕 輪 潤 子 |
| PD07 | 保育所における園内会議と保育士の効力感・ストレスの関連 | 城西国際大学 立正大学 国立教育政策研究所 | ○大 内 善 広 野 澤 義 隆 萩 原 康 仁 |
| PD08 | 日本の子どもは外で自由に遊べなくなってしまうのか —安全管理意識の確認的因子分析による検討— | 愛知みずほ大学 | 永 井 靖 人 |
| PD09 | 女子大学生における親の期待内容の認知と親の期待に対する反応様式との関係 | 和洋女子大学 | 池 田 幸 恭 |
| PD10 | 発達障害児の生涯発達支援における、特別支援教育と放課後ディサービスとの協働 —異業種間の認識の違い、支援ニーズの役割にスポットを当てて— | 株式会社 クラ・ゼミ | 鈴 村 靖 |
| PD11 | 保育者志望者の親準備性 —保育への自信とアイデンティティステイタスからの検討— | 鈴鹿大学 | 杉 山 佳菜子 |
| PD12 | 感謝生起場面における認知と行動を左右する個人特性 (1) —青年期の共感性に注目して— | 高知工科大学 埼玉学園大学 | ○村 上 達 也 藤 原 健 志 |
| PD13 | 感謝生起場面における認知と行動を左右する個人特性 (2) —青年期の自己愛に注目して— | 埼玉学園大学 高知工科大学 | ○藤 原 健 志 村 上 達 也 |
| PD14 | 大学生の心理的成長や学修態度の向上を促すメンタリングについて (1) —ピア・メンターと自我同一性の検討— | 金城学院大学 四国大学 | ○中 島 奈保子 内 山 有 美 |

PD

| | | | |
|------|--|----------------|---------------------|
| PD15 | 大学生の心理的成長や学修態度の向上を促すメンタリングについて (2) —メンターがいることで大学生活はどう変わるか?— | 四国大学 金城学院大学 | ○内 山 有 美 中 島 奈保子 |
|------|--|----------------|---------------------|

| | | | |
|------|---------------------------|------|---------|
| PD16 | 大学生の未来の明るさの評価に影響を与える要因の検討 | 姫路大学 | 日 潟 淳 子 |
|------|---------------------------|------|---------|

教授・学習・認知

| | | | |
|------|--------------------|-------|---------|
| PD17 | 児童と教師の認識する教師がほめる理由 | 藤女子大学 | 青 木 直 子 |
|------|--------------------|-------|---------|

| | | | |
|------|--|----------|---------|
| PD18 | 高校生に残る葉状図形求積数0.57の指導影響 —受験用便法指導は本当に無害なのか— | 跡見学園女子大学 | 藤 澤 伸 介 |
|------|--|----------|---------|

| | | | |
|------|--------------------------|-------|-------|
| PD19 | 漢字の書字練習量とテスト得点の時系列分析 (4) | 早稲田大学 | 長 澤 誠 |
|------|--------------------------|-------|-------|

| | | | |
|------|--|-------|---------|
| PD20 | アクティブ・ラーニング形式による性教育指導に関する授業の学習効果 —教員志望学生を対象として— | 国士舘大学 | 郡 司 菜津美 |
|------|--|-------|---------|

| | | | |
|------|------------------------------------|------|---------|
| PD21 | 音楽教育の経験に基づく成人の読譜力と自発的な音楽活動についての一調査 | 心泉學舎 | 牛 久 香 織 |
|------|------------------------------------|------|---------|

| | | | |
|------|--|------|-------|
| PD22 | ピグマリオン効果は本当なのか? —教育現場での6年間の実験的研究結果からみる— | 中部大学 | 胡 琴 菊 |
|------|--|------|-------|

| | | | |
|------|---|------|-------|
| PD23 | 創造活動における生成したアイデアの評価の重要性と難しさ —大学生を対象としたワークショップ型授業の検討から— | 千葉大学 | 縣 拓 充 |
|------|---|------|-------|

| | | | |
|------|--------------------------|-----------------------|--------------------|
| PD24 | 中学校理科における学習動機と科学的探究活動の関連 | 岩手大学 岩手大学教育学部附属中学校 | ○久 坂 哲 也 平 澤 傑# |
|------|--------------------------|-----------------------|--------------------|

| | | | |
|------|---|--------|---------|
| PD25 | 転移課題における概念の精緻化とその個人差 —情報処理スタイル (合理性—直観性) との交互作用— | 高崎経済大学 | 木 下 まゆみ |
|------|---|--------|---------|

| | | | |
|------|--------------------------------|--------|---------|
| PD26 | 反復的な振り返りを可能にするプレゼンテーション教育のデザイン | 福岡工業大学 | 中 野 美 香 |
|------|--------------------------------|--------|---------|

| | | | |
|------|-------------------------------|------|---------|
| PD27 | 小グループ学習時における教師による学習者への働きかけの特徴 | 新潟大学 | 一 柳 智 紀 |
|------|-------------------------------|------|---------|

| | | | |
|------|-----------------|------|---------|
| PD28 | 小学生への英語指導のための理論 | 法政大学 | 柿 原 直 美 |
|------|-----------------|------|---------|

| | | | |
|------|---------------------------|---|---|
| PD29 | 親による子どもの動機づけの質の認知の正確さについて | 高知工科大学 University of Reading 同志社大学 同志社大学 高知工科大学 北海道大学大学院 University of Reading 高知工科大学 同志社大学 | ○福 住 紀 明 村 山 航 石 井 僚 石 川 信 一 村 上 達 也 大 谷 和 大 榎 美知子 鈴木 高 志 田 中 あゆみ |
|------|---------------------------|---|---|

| | | | |
|------|------------------------------|------|---------|
| PD30 | 大学生の時間管理に基づくタイプの類型化とタイプ別学習評定 | 高知大学 | 野 中 陽一朗 |
|------|------------------------------|------|---------|

| | | | |
|------|--|--------------------------------------|----------------------------------|
| PD31 | 能動的学修科目を選択する学生 —PBL科目を選ぶ動機とコンピテンシー— | 実践女子大学 実践女子大学 | ○栗 津 俊 二 松 下 慶 太# |
| PD32 | ルールの操作による予測活動が後続の課題解決に 及ぼす効果 | 石巻専修大学 | 佐 藤 誠 子 |
| PD33 | 看護学生の学習における困難要因へのコーチング 教育の効果の検討 | 防衛医科大学校 | 新 山 真奈美 |
| PD34 | 反復検索による学習が幼児の記憶保持に及ぼす効 果 —非言語課題による検討— | 関西福祉科学大学 神戸親和女子大学 | ○堀 田 千 絵 多 鹿 秀 継 |
| PD35 | ラーニング・コモンズの学習論の構築に向けた予 備的検討 —学習概念の更新を促す「照射」概念に着目して — | 大阪産業大学 | 山 田 嘉 徳 |
| PD36 | 他者との学習における動機づけ調整方略と行動的 エンゲージメントの関連 —Relative Weight Analysisによる検討— | 九州女子大学 山梨大学 大阪市立大学大学院 | ○梅 本 貴 豊 田 中 健史朗# 矢 田 尚 也# |
| PD37 | 食事場面における保育者と子どものかかわりに関 するテキスト分析 | 東京大学大学院 | 淀 川 裕 美 |
| PD38 | 創造性に関する心理学的研究の動向 —テーマ別の件数の推移を中心として— | 大阪大学大学院 大阪大学大学院 | ○山 口 洋 介 三 宮 真智子 |
| PD39 | バランスのとれた基本的心理欲求充足の検討 | 弘前大学 弘前大学 | ○吉 崎 聡 子 平 岡 恭 一 |
| PD40 | スポーツ場面における随伴経験尺度作成の試み | 大阪産業大学 | 山 本 晃 輔 |
| PD41 | 聴き手意識が情報検索と情報提示に与える影響 | 山梨大学大学院 | 小野田 亮 介 |
| PD42 | 教師の授業内コミュニケーションと授業改善の関 連 1 —教師の授業内コミュニケーション行動の分類と 検討— | 帝京短期大学 品川区立城南第二小学校 練馬区立富士見台小学校 | ○芳 賀 明 子 森 嶋 尚 子 渋 井 和 子# |
| PD43 | 教師の授業内コミュニケーションと授業改善の関 連 2 —教師の授業内コミュニケーションの実際— | 品川区立城南第二小学校 帝京短期大学 練馬区立富士見台小学校 | ○森 嶋 尚 子 芳 賀 明 子 渋 井 和 子# |
| PD44 | 幼稚園教諭養成課程における教育実践研究Ⅳ —個人ならびに集団における効力感と学習効果と の関連— | 文京学院大学 埼玉純真短期大学 植草学園大学 | ○金 子 智栄子 金 子 智 昭 金 子 功 一 |
| PD45 | 幼稚園教諭養成課程における教育実践研究Ⅴ —友人関係の特徴が効力感、学習効果に及ぼす影 響性— | 植草学園大学 埼玉純真短期大学 文京学院大学 | ○金 子 功 一 金 子 智 昭 金 子 智栄子 |

社会

| | | | |
|------|--|--|---|
| PD46 | 制御適合はパフォーマンスを高めるのか？ —日常場面の学業パフォーマンスに焦点を当てて — | 筑波大学 筑波大学大学院・ 日本学術振興会 筑波大学大学院 筑波大学大学院・ 日本学術振興会 筑波大学大学院 筑波大学 | ○外 山 美 樹 長 峯 聖 人 湯 立 三 和 秀 平 黒 住 嶺 相 川 充 |
|------|--|--|---|

| | | | |
|------|---|--------------------------------------|---|
| PD47 | 目的養成学部における学生の進路選択と大学環境への適応 | 香川大学 | 大久保 智 生 |
| PD48 | 当事者の語りの状況と児童生徒が感じる圧迫 | 筑波大学 筑波大学 富山大学 東京未来大学 | ○徳 田 克 己 水 野 智 美 西 館 有 沙 西 村 実 穂 |
| PD49 | 児童養護施設における直接処遇職員のストレスに関する研究 (3) ー労働条件・環境と組織体制および勤務年数に注目した比較ー | 聖徳大学 埼玉学園大学 | ○亀 田 秀 子 藤 枝 静 暁 |
| PD50 | 接近・回避コミットメントの特異項目機能および関係継続に対する予測力の検討 | 弘前大学 | 古 村 健太郎 |
| PD51 | 好きな人と嫌いな人に対する性格の評価の違いは何を意味するか | 日本女子大学 下野市立祇園小学校 | ○梶 原 直 樹 梶 原 和 子 # |
| PD52 | 貧困に対する意識調査 ー保育士を目指す学生は貧困をどのように認識しているかー | ほーぶ株式会社 ほーぶ株式会社 | ○亀 山 洋 光 亀 山 麻衣子 # |
| PD53 | 危険予測と対処行動を学ぶ防災教育の効果 ー小学校低学年にデジタル教材を活用した授業実践ー | 大阪教育大学 関西大学 関西福祉科学大学 金城学院大学 | ○豊 沢 純 子 元 吉 忠 寛 竹 橋 洋 毅 野 田 理 世 |
| PD54 | 体力の低下から生じるキャリア危機におけるキャリアレジリエンスの働き | 広島大学 | 児 玉 真樹子 |

人格

| | | | |
|------|---|--------------------------------|---|
| PD55 | 3 因子で捉えた大学生の協調性とビッグ 5，創造性との関係 | 文教大学 文教大学 埼玉大学 帝京科学大学 | ○登 張 真 稲 名 尾 典 子 首 藤 敏 元 大 山 智 子 |
| PD56 | 大学生の幸福感向上への介入課題 ー追試的研究ー | 愛知学院大学 | 松 岡 弥 玲 |
| PD57 | 他人が素手で作ったおにぎりへの抵抗感に影響を及ぼす要因 ー強迫傾向と親子の信頼関係の観点からの検討ー | 県立広島大学 | 向 居 暁 |

臨床

| | | | |
|------|---|--|---|
| PD58 | 神戸大学心理教育相談室における実習の意義について② ー実習内容と習得内容の影響からー | 神戸大学 神戸大学大学院 | ○相 澤 直 樹 山 根 隆 宏 |
| PD59 | 援助要請スタイルと愛着および適切な援助要請行動の関連の検討 | 立正大学 | 永 井 智 |
| PD60 | E-S理論からみた大学生のインターネット利用 | 順天堂大学 順天堂大学 順天堂大学大学院 順天堂大学大学院 | ○西 田 敬 志 川 田 裕次郎 柴 田 展 人 # 広 沢 正 孝 # |
| PD61 | 大学生の連続欠席者における不登校傾向得点の検討 | 金沢工業大学大学院 金沢工業大学 | ○坂 原 泰 子 石 川 健 介 |

| | | | |
|------|---|--------------|---------------------|
| PD62 | 青年期における過去のいじめ体験の長期的影響及びPTGの検討 —生成過程の自由記述に注目した質的検討— | 神戸大学 神戸大学 | ○長 田 真 人 相 澤 直 樹 |
|------|---|--------------|---------------------|

特別支援

| | | | |
|------|--|---|---|
| PD63 | 高等学校における通級による指導モデルの検討 —教育課程の特例を設けて実践した自立活動— | 神戸大学大学院 兵庫県立西宮香風高等学校 兵庫県立西宮香風高等学校 兵庫県立西宮香風高等学校 兵庫県立西宮香風高等学校 | ○鳥 居 深 雪 島 田 育 生# 桂 志 保# 白 井 俊 介# 古 川 堅 太郎# |
| PD64 | 学級状態の違いによる特別支援対象児の学級適応感 —学級状態6類型における学級満足度尺度4群の出現数の検討— | 南アルプス市立櫛形北小学校 早稲田大学 | ○深 沢 和 彦 河 村 茂 雄 |
| PD65 | 小中学生版臨床用セルフモニタリング尺度の検討 | 東海学園大学 南山大学 名古屋女子大学短期大学部 名古屋大学 | ○谷 伊 織 吉 橋 由 香 大 嶽 さと子 永 田 雅 子 |
| PD66 | チーム支援におけるクラス担任のリーダーシップ —教職経験および特別支援教育経験年数による差の検討— | 神戸大学大学院 | 谷 芳 恵 |

学校心理学

| | | | |
|------|--|--------------------|----------------------|
| PD67 | 予備校生のストレスに関する研究 —自由記述アンケートによる予備校生ストレスサーに関する探索的調査— | 河合塾 河合塾 | ○竹 内 利 光 近 藤 和 也 |
| PD68 | 高校生の学校不適応感と役割充足感に関する研究 —役割充足感が学校不適応感に与える影響— | 人間環境大学 金城学院大学 | ○鈴 木 美樹江 加 藤 大 樹 |
| PD69 | 中学生の学校適応感と進路目標との関連についての縦断的検討 | 愛知県臨床心理士会 | 尾 藤 ヨシ子 |
| PD70 | 教学IRと教育ビッグデータを統合した学生支援モデルの考案 —多次元パターンモデルのプロトタイプ開発— | 清泉女学院短期大学 | 片 瀬 拓 弥 |
| PD71 | メトニミーを利用した指示に関する探索的な教室談話分析 —教師による児童へ配慮と児童による指示理解— | 東京大学大学院 | 川 島 哲 |
| PD72 | 相互応答的な関係・環境を実現する仕組みづくり —ある学級における高学年2年間の観察記録を素材として— | 山梨大学 甲斐市立竜王南小学校 | ○東海林 麗 香 小 林 恵 子# |
| PD73 | 通常学級担任の発達障害特性のある子どもに対する困難感と対処方略 | 東京大学大学院 | 角 南 なおみ |
| PD74 | 保育者志望学生の幼稚園教育実習を通した心理的プロセス —実習形態及び学年差に着目したJD-Rモデルの検証— | 埼玉純真短期大学 | 金 子 智 昭 |
| PD75 | 小学校における協同学習が児童の学習観と学習意欲に及ぼす影響 | 広島大学大学院 広島大学 | ○真 田 穰 人 栗 原 慎 二 |

| | | | |
|------|---|--|---|
| PD76 | 大学生を対象としたレジリエンス教育の検討 —美術専攻学生対象のレジリエンス・プログラム 実践から— | 早稲田大学大学院 | 小 林 美佐子 |
| PD77 | 教師を志望する理由と教師の学習動機づけの関連 —FIT - Choice Scaleを用いた検討— | 筑波大学大学院・ 日本学術振興会 筑波大学 | ○三 和 秀 平 外 山 美 樹 |
| PD78 | 学校危機を経験した教師に関する研究 (1) —危機でもたらされた教師自身の変化の自由記述 分析— | 九州産業大学 名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学 福岡県臨床心理士会 広島国際大学 九州情報大学 | ○樋 渡 孝 徳 # 原 田 雅 由 紀 窪 田 陽 平 山 下 陽 代 子 山 向 田 幸 章 向 林 笠 幹 男 |
| PD79 | 学校危機を経験した教師に関する研究 (2) —混乱の収束に関する自由記述の分析— | 名古屋大学 名古屋大学 九州産業大学 福岡県臨床心理士会 広島国際大学 九州情報大学 | ○山 下 陽 平 窪 田 由 紀 樋 渡 孝 徳 山 向 幸 代 向 林 笠 章 子 林 笠 幹 男 |

測定・評価・研究法

| | | | |
|------|--|----------------------------|--------------------------------|
| PD80 | 対子ども効力感尺度の作成 | 関西学院大学 福山大学 関西福祉科学大学 | ○桂 田 恵美子 赤 澤 淳 子 谷 向 みつえ |
| PD81 | 多次元項目反応モデルに基づいたTIMSS2015の 質問紙調査における日本の中学生の回答バイアス の分析 | 国立教育政策研究所 | 萩 原 康 仁 |
| PD82 | ループリックに基づく自己採点がレポートの引用 文献の記載に与える影響 (2) —認知心理学修了レポートにおける検討— | 北海道教育大学函館校 | 林 美都子 |
| PD83 | 異なる学部プログラミング入門教育におけるモ チベーションのCS分析結果の比較 —モチベーションの向上を目指すために— | 東京電機大学 東京電機大学 東京電機大学 | ○土 肥 紳 一 宮 川 治 今 野 紀 子 |

ポスター発表E

10月8日（日） ポスター掲示時間 13:30～15:30
 在席責任時間 奇数番号13:30～14:30 偶数番号14:30～15:30

発達

| | | | |
|------|--|---|--|
| PE01 | 他者が人とロボットのときの心の理解は？ —感情に着目して— | 尚絅大学 | 小 沢 日美子 |
| PE02 | 実習前後における保育者効力感のシステムマティッ ク・レビュー —保育・幼稚園実習は学生の保育者効力感を高め たのか— | 宮城教育大学 | 香曾我部 琢 |
| PE03 | 乗除算の習得がゆるやかに進む小学生の事例 | 名城大学 名城大学 名城大学大学院 | ○大 西 美香子 伊 藤 康 児 加 藤 幸 久 |
| PE04 | 4歳児の保育に関する一考察 —担任の観察から— | 仙台青葉学院短期大学 | 鈴 木 純 子 |
| PE05 | 就職活動における成長を規定する要因の縦断的検 討 | 明星大学 | 高 橋 南海子 |
| PE06 | 幼児の誤信念理解と実行機能 —理由づけ質問と選択肢質問による検討— | 鹿児島大学 | 島 義 弘 |
| PE07 | 攻撃行動に対する中学生の道徳的判断 —文脈の違いによる判断の差と学年ごとの特徴— | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○金 綱 祐 香 濱 口 佳 和 |
| PE08 | 音楽的早期教育が幼児の歌唱能力と認知機能に及 ぼす影響について —AIRS歌唱能力テスト子ども用改訂版の評価に よる検討— | 北海道大学大学院 北海道大学大学院 | ○小 椋 佐奈衣 安 達 真由美# |
| PE09 | 就職活動における情報探索方略使用の縦断的検討 | 学習院大学大学院 | 小 菅 清 香 |
| PE10 | 友人関係における傷つき経験の影響尺度の構成 —信頼性と妥当性の検討— | 中央大学 | 永 井 暁 行 |
| PE11 | 親子の時間的展望はどの程度類似するのか —中学生とその親を対象とした横断的検討— | 同志社大学 University of Reading 高知工科大学 同志社大学 高知工科大学 北海道大学大学院 University of Reading 高知工科大学 同志社大学 | ○石 井 僚 村 山 航 福 住 紀 明 石 川 信 一 村 上 達 也 大 谷 和 大 榊 谷 美知子 鈴 木 高 志 田 中 あゆみ |
| PE12 | 大学生のキャリア発達を促す予備的プログラムの 実施と評価 —個々の変化プロセスに着目して— | 開智国際大学 | 寺 本 妙 子 |
| PE13 | 困り感を持つ生徒への発達支援（1） —非行傾向のある少年に対する中学校と連携した 支援— | 横浜国立大学 横浜国立大学 | ○大 内 里 紗 有 元 典 文 |
| PE14 | 困り感を持つ生徒への発達支援（2） —教師はいつ生徒を“個”で捉え“集団”で捉え るのか— | 横浜国立大学大学院 横浜国立大学 | ○堀 優 太 有 元 典 文 |

PE

| | | | |
|-----------------|---|--------------------------------|----------------------|
| PE15 | 困り感を持つ生徒への発達支援 (3) ー協働的な学習に対して学習者が抱える苦手意識ー | 横浜国立大学大学院 横浜国立大学 | ○志村拓弥 有元典文 |
| PE16 | 大学生の就職活動維持過程に関わる要因の検討 (1) ー自意識の機能に着目してー | 早稲田大学 茨城県立医療大学 筑波大学 | ○輕部雄輝 佐藤純征 杉江 |
| 教授・学習・認知 | | | |
| PE17 | 幼児期からのメタ認知の発達支援と自己評価モデル開発に関する研究 ー保育者と子ども・子ども同士のやりとりから見えてきたものー | 大手前大学 | 石上浩美 |
| PE18 | 子どもの思考を基にしたカリキュラム構成による教授介入 ー割合概念の保持についてー | 愛知教育大学 立命館大学 名古屋大学大学院 | ○栗山和広 吉田甫 中島淑子 |
| PE19 | 自然の事物現象を正確に捉えさせる効果的な指導法とは ー小学校理科 雲の形の観察においてー | 赤磐市立磐梨小学校 岡山大学 | ○藤原照浩 荒尾真一 |
| PE20 | 自立した学びを目指して 思春期年代の学習スタイル別コーチング方法 ー2000年からの試みー | 東京インターハイスクール 東京インターハイスクール | ○高橋有希子 木村聡美# |
| PE21 | ソーシャル・キャピタルの視点を取り入れた保育士養成カリキュラム ー保育士志望学生が「地域」で「子育て中の保護者」と関わる授業の構築ー | 東京立正短期大学 | 三國隆子 |
| PE22 | 漢字の読み方の学習におけるVAシャドーイング法の効果 ー非漢字圏日本語学習者を対象としてー | 実践女子大学 | 中山誠一 |
| PE23 | 臨床実技の録画を見る自己評価が行動の振り返りに与える効果の検討 ー自己評価が教員による評価より高い学生と低い学生の違いー | 多摩リハビリテーション学院 多摩リハビリテーション学院 | ○西片裕彦# 石田信 |
| PE24 | 大人の声かけが子どものやりとりに対する積極性や知識獲得に及ぼす影響 | 京都橘大学 | 奈田哲也 |
| PE25 | 学習モデルと課題の種類が学習成果に与える効果 | 宝塚市立御殿山中学校 | 植原俊晴 |
| PE26 | 習得回避目標が反応時間に及ぼす影響 | 高松大学 奈良教育大学 | ○徳岡大基 解良優 |
| PE27 | 児童のネガティブ情動の表出場面における教師の判断 ー仮想場面における問題認識と教師効力感による影響ー | 東京大学大学院 | 芦田祐佳 |
| PE28 | プロンプトの観点から「保育者の援助」を考える ー『保育の心理学』における試みー | 日本福祉大学 中部学院大学 | ○塚本恵信 橋村晴美 |
| PE29 | 協同的な学びを通して、全校児童の考える力を伸ばす ー埼玉県学力・学習状況調査の積極的活用ー | 所沢市立若松小学校 | 嶋崎栄一 |

| | | | |
|------|--|---------------------------------------|--|
| PE30 | 数学の文章題解決と中学生のワーキングメモリ —COMPASSを用いた分析— | 広島大学 広島大学 | ○福丸 奈津子 湯 澤 正 通 |
| PE31 | 幼児とのふれあい体験による中学生の対人感情の 変容に関する検討 | 就実短期大学 呉市立郷原小学校 広島大学附属三原中学校 | ○伊藤 優 小笠原 千明# 藤 井 志 保# |
| PE32 | オーセンティック概念に基づく算数授業デザインの 提案 | 東京学芸大学附属 小金井小学校 東京学芸大学 | ○小野 健太郎 梶 井 芳 明 |
| PE33 | 大勢の人の前で話すことへの意識調査 —大学の新生と上級生の比較を通して— | 環太平洋大学 | 吉 澤 英 里 |
| PE34 | 児童の援助要請スタイルと学級風土との関連 | 名古屋大学 名古屋大学大学院 | ○林中 亜希恵 谷 素 之 |
| PE35 | グループ学習における教師の支援の効果 (2) —グループ学習経験を通じた認識の変化への効果 の国語・算数間比較— | 東京大学大学院・ 日本学術振興会 東京大学大学院 | ○児玉 佳 一 車 田 梓 |
| PE36 | なぜ市民は大学主催のカフェイベントに参加する のか —参加動機に着目して— | 帝京大学 (株) 三菱総合研究所 NPO法人PIECES | ○森 玲 奈 中 野 啓 太 青 木 翔 子# |
| PE37 | WM容量の小さい学習者の読解における体制化 の支援可能性 —後置質問を用いた手続き的説明文の読解支援— | PFU テクニカルコミュニ ケーションズ株式会社 立命館大学 | ○小島 淳 一 山 本 博 樹 |
| PE38 | 大学生におけるアクティブラーニング授業実践の 効果検証 | 白鳳短期大学 | 成 田 亜 希 |
| PE39 | 授業でのICT活用に対する教員志望大学生の意識 —ICT機器の利用頻度と利用に関する効力感の関 係から— | 広島大学大学院 広島大学大学院 近畿大学 広島大学大学院 | ○山根 嵩 史 田 中 光 有 馬 比呂志 中 條 和 光 |
| PE40 | 仮説実験授業のたのしさを決めるもの (4) 教材論 —学び手の素朴理論との対話に始まる科学の実現 — | 仮説実験授業研究会 | 守 屋 明 佳 |
| PE41 | 「自分を主人公とした具体例」の生成による効果 の検討 —自己関連づけ効果の観点から— | 法政大学大学院 | 押 尾 恵 吾 |
| PE42 | 小学生を対象とした防災教育プログラムの開発 2 —予防的心理教育プログラムの開発と効果検証— | 共生社会研究センター 明星大学心理学部 | ○米山 祥 平 竹 内 康 二# |
| PE43 | マルチレベル分析によるアクティブ・ラーニング 型授業の効果測定 (4) —アサーションスキルおよびグループワーク活動 が成績に及ぼす影響— | 立正大学 駿河台大学 九州工業大学 | ○高比良 美詠子 杉 本 英 晴 佐 藤 友 美 |
| PE44 | マルチレベル分析によるアクティブ・ラーニング 型授業の効果測定 (5) —協同作業認識およびグループワーク活動が成績 に及ぼす影響— | 駿河台大学 九州工業大学 立正大学 | ○杉 本 英 晴 佐 藤 友 美 高比良 美詠子 |
| PE45 | マルチレベル分析によるアクティブ・ラーニング 型授業の効果測定 (6) —大学環境に対する適応感およびグループワーク 活動が成績に及ぼす影響— | 九州工業大学 立正大学 駿河台大学 | ○佐藤 友 美 高比良 美詠子 杉 本 英 晴 |

社会

| | | | |
|------|---|--|---|
| PE46 | 大学生におけるアルバイト就労と感情との関連 | 横浜国立大学 | 高 本 真 寛 |
| PE47 | 好奇心の高さが自己調整学習に及ぼす影響 | 大手前大学 東京大学 | ○寺 田 未 来 川 本 大 史 # |
| PE48 | 特性尊敬関連感情尺度（青年期後期用）短縮版の作成と信頼性・妥当性の検討 | お茶の水女子大学 | 武 藤 世 良 |
| PE49 | 他者の情動を効果的に調整可能な方略は何か？ ープロセスモデルに基づく検討ー | 京都大学 Stanford university Universite catholique de louvain | ○野 崎 優 樹 Gross J. James # Mikolajczak Moira # |
| PE50 | チームワーク能力が向上するプロセスの検討（2） ー構成要素間の関連に着目してー | 愛知学院大学 | 太 幡 直 也 |
| PE51 | 在日中国人留学生の異文化ストレスによる日本語学習意欲への影響 ー日本語学校在学の学生を対象としてー | 東京学芸大学大学院 埼玉大学大学院 | ○元 笑 予 馮 蒼 竹 # |
| PE52 | 感謝感情と負債感情が排斥された第三者への向社会的行動に及ぼす影響の検討 | 筑波大学大学院・ 日本学術振興会 筑波大学 | ○吉 野 優 香 相 川 充 |
| PE53 | 女子大学生の進路決定過程と対人環境の関係（4） ー就職活動ストレスと役割占有感、自己効力感が自己成長感に及ぼす影響ー | 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 | ○風 間 文 明 山 下 倫 実 |
| PE54 | 女子大学生の進路決定過程と対人環境の関係（5） ー情緒的/道具的サポートが就職活動及び就職活動ストレスに及ぼす影響ー | 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 | ○山 下 倫 実 風 間 文 明 |

人格

| | | | |
|------|--|-------------------------------|--------------------------------|
| PE55 | 前青年期における自己概念と自己評価感情の揺れとの関連 | 愛知教育大学大学院 愛知教育大学 愛知教育大学 | ○原 田 宗 忠 中 井 大 介 黒 川 雅 幸 |
| PE56 | 母親のパersonality, 養育と幼児の気質との関連 ー子どもの困難度に焦点を当ててー | お茶の水女子大学 | 内 海 緒 香 |
| PE57 | 高校生の睡眠行動と環境要因および個人内要因の関連 | 学校法人嶺南学園 敦賀気比高等学校 | 坂 本 理 香 |

臨床

| | | | |
|------|--|-------------|---------|
| PE58 | 大学生における身近な友人の抑うつ症状への情緒的巻き込まれの恐れ ー症状の深刻度評価、援助要請の必要性、援助自信との関連の検討ー | 東京大学 | 河 合 輝 久 |
| PE59 | 親切や感謝の記録が中学生の精神的健康に及ぼす影響 | 長崎大学 | 前 原 由喜夫 |
| PE60 | 女子短大生の不安と大学適応感との関連 ー不適応の予防に向けてー | 静岡県立大学短期大学部 | 小 林 佐知子 |

PE61 ロールレタリングの継続的施行が怒りの変容に及ぼす影響
—想定する他者の組み合わせによる効果の比較を通して—
東京電機大学 ○金 築 智 美
法政大学 金 築 優#

PE62 大学生のメンタルヘルスに関する理解と知識
京都市立芸術大学 ○山 村 麻 予
大阪大学 平 井 啓#

特別支援

PE63 特別支援学校におけるキャリア発達支援の研究
(2)
—社会性発達を促す観点から—
鹿児島県立武岡台養護学校 ○神 慶太郎
鹿児島大学 今 林 俊 一

PE64 医療的な配慮を必要とする子どもを担当する保育者の負担感
—ストーマを使用している子どもを担当する保育者の場合—
東京未来大学 ○西 村 実 穂
筑波大学 徳 田 克 己

PE65 弱視学生支援サービスに対する健常学生の意識に及ぼす個人要因の影響
愛知教育大学 ○相 羽 大 輔
筑波大学 奈 良 里 紗

PE66 発達障害児のニーズに適した学習のつまりきチェックリストの構成の検討
(独)国立特別支援教育総合研究所 玉 木 宗 久

学校心理学

PE67 不登校を激減させた方法 6
—タッチ登校によるクラス完全復帰率98%—
安曇野市立三郷小学校 工 藤 弘

PE68 中学校における各学年のターニングポイントを意識した多面的・組織的適応支援の実践
金沢大学 ○原 田 克 己
石川県金沢市立金石中学校 木 下 知 子#

PE69 調理実習の授業における自己効力感を活かしたアクティブ・ラーニング「主体的・対話的で深い学び」授業実践
—短期大学総合学部女子学生において—
大手前短期大学 西 岡 陽 子

PE70 教師が認知した学級風土の日中比較
関西大学 ○金 明 汶
関西大学 田 中 俊 也

PE71 感情への気づきを促す心理教育プログラムの試み
—小学生を対象として—
立正大学 ○遠 藤 寛 子
国立特別支援教育総合研究所 山 本 晃
名古屋市立なごや小学校 鬼 頭 昌 也

PE72 遊びおよび友人関係と共感性との関連
—遊び体験と友人関係の質に着目して—
甲南大学 ○木 下 雅 博
甲南大学 大 西 彩 子
甲南大学 森 茂 起

PE73 中学生のスクールカーストといじめの関連
—いじめ被害と被害後の行動—
北海道大学 ○水 野 君 平
北海道大学 加 藤 弘 通
常葉大学 太 田 正 義

PE74 小学生におけるいじめ傍観傾向を抑制する要因の検討 (4)
—性差に着目して—
広島文化学園大学大学院 ○久 米 瑛莉乃
広島文化学園大学 田 中 宏 二

PE75 子どもは校内の好きな場所にどのような価値を見出しているか？
—小学1年生対象の質問紙調査の試み—
愛知大学 ○杉 本 貴 代
東京大学 秋 田 喜代美
東京大学大学院 辻 谷 真知子
白梅学園大学 宮 田 まり子#

| | | | |
|------|---|--------------------------|------------------------------|
| PE76 | 小学校におけるソーシャルスキル教育を中心とした心理教育の縦断実践研究 (8) —小学校でSSEを受けた児童の中学校入学後における学校適応状況の検討— | 埼玉学園大学 埼玉学園大学 筑波大学 | ○藤 枝 静 暁 増 南 太 志 相 川 充 |
| PE77 | 小学校におけるソーシャルスキル教育を中心とした心理教育の縦断実践研究 (9) —潜在曲線モデルによる学校適応に影響する要因の時間的変化の検討— | 埼玉学園大学 埼玉学園大学 筑波大学 | ○増 南 太 志 藤 枝 静 暁 相 川 充 |

測定・評価・研究法

| | | | |
|------|--|---------------------|-----------------|
| PE78 | 等化手続きの違いが項目バンクのパラメタ推定値に及ぼす影響 —等化係数を用いた等化法を同時推定法に併用する効果の実践的検討— | 島根大学 | 光 永 悠 彦 |
| PE79 | NICU病棟における統合実習の学び —社会人基礎力の視点による評価を試みて— | 朝日大学 | 渡 部 真奈美 |
| PE80 | 工学部学生の英語学習意欲に関する研究 | 長岡技術科学大学大学院 浦和大学 | ○伴 浩 美 皆 川 順 |

ポスター発表F

10月8日（日） ポスター掲示時間 16:00～18:00
在席責任時間 奇数番号16:00～17:00 偶数番号17:00～18:00

発達

| | | | |
|------|---|---------------------------------------|---|
| PF01 | 一般青年が日常生活で感じるモラル・ジレンマⅡ ー非行少年との比較ー | 新潟青陵大学 | 本 間 優 子 |
| PF02 | 実際の変化として子どもの心的外傷後成長を測る ー再検査信頼性と基準関連妥当性の検討ー | 中央大学大学院 | 飯 村 周 平 |
| PF03 | 思春期の注意欠如・多動傾向と情緒の問題に関する縦断研究 ー学校ライフイベント、自尊感情との関連ー | 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 お茶の水女子大学大学院 | ○齊 藤 彩 菅 原 ますみ |
| PF04 | 子どもの行動を引き出す保育士の言葉かけ方略 ー保育場面の発話分析からー | 新潟中央短期大学 植草学園大学 | ○佐々木 宏 之 栗 原 ひとみ |
| PF05 | 養護教諭の目を通した学校における自傷児童生徒への対応 ー一心の成長による自傷からの脱却ー | 北海道大学 | 穴 水 ゆかり |
| PF06 | 中学生の食生活と家族関係および精神的健康との因果関係の検討 ー夕食場面における男女の差異に着目してー | お茶の水女子大学大学院 | 江 崎 由里香 |
| PF07 | 教職及び保育者志望の学生が捉える「遊びの中の学び」とは？ | 広島大学大学院 高知大学 | ○小 松 和 佳 野 中 陽一朗 |
| PF08 | 青年期前期における援助要請結果期待尺度作成の試み ー大学生を対象とした回顧的インタビュー調査ー | 東京大学大学院 | 天 井 響 子 |
| PF09 | 伝統工芸職人の実践の意味づけの発達に関する一考察 | 首都大学東京大学院 | 松 熊 亮 |
| PF10 | 関係性・自律性欲求へのサポート尺度の作成Ⅰ ー親・親友・恋人別の検討ー | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○肖 雨 知 外 山 美 樹 |
| PF11 | 褒められた経験が自尊感情およびやり抜く力に与える影響 | 安田女子大学 | 橋 本 博 文 |
| PF12 | 学校適応の促進をめざしたソーシャルスキルトレーニングの実践 ー情動過程を伴った社会的情報処理モデルに基づく全校規模のアプローチー | 岐阜県可児市立帷子小学校 岐阜大学 | ○大 澤 久 乃 吉 澤 寛 之 |
| PF13 | 小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達 (11) ー学校環境からの負荷に着目してー | 和光大学 中央大学 東北大学 常葉大学短期大学部 | ○高 坂 康 雅 都 筑 学 岡 田 有 司 金 子 泰 之 |
| PF14 | 小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達 (12) ー学校環境と学習意欲の関心に注目してー | 常葉大学短期大学部 和光大学 中央大学 東北大学 | ○金 子 泰 之 高 坂 康 雅 岡 田 有 司 |
| PF15 | 小中一貫校・非一貫校における子どもの適応・発達 (13) ー学校環境と学校適応の関心に注目してー | 東北大学 常葉大学短期大学部 和光大学 中央大学 | ○岡 田 有 司 金 子 泰 之 高 坂 康 雅 |

PF

| | | | |
|------|---|--------|---------|
| PF16 | 習い事が幼児の問題行動に与える影響② —習い事への動機づけと問題行動の関連— | 慶應義塾大学 | 油 川 さゆり |
|------|---|--------|---------|

教授・学習・認知

| | | | |
|------|--|---|--------------------------------|
| PF17 | 数学の授業における教科書等の活用に関する教師の信念 —中学校・高校の数学教師を対象としたインタビュー調査— | 東京大学大学院 | 福 田 麻 莉 |
| PF18 | 外国語学習課題価値と先延ばしの関連性 | 早稲田大学 早稲田大学 | ○森 恵 子 河 村 茂 雄 |
| PF19 | やる気低下状況において動機づけ調整方略が学習行動に与える影響 —高校生のやる気低下状況に着目した検討— | 名古屋大学大学院 名古屋大学大学院 | ○遠 藤 志 乃 中 谷 素 之 |
| PF20 | 自律的学修を高める授業実践の試み —自己理解を促進するアプローチから— | 鹿児島大学 長崎大学 | ○稲垣(藤井)勉 當 山 明 華 |
| PF21 | 科学技術の社会問題に対する大学生の意志決定と知識活用 —遺伝子医療技術を事例として— | 神戸大学 神戸大学 | ○坂 本 美 紀 山 口 悦 司# |
| PF22 | 歩きスマホ防止のための啓発授業の実践とその効果 —中学生を対象に— | 富山大学 筑波大学 筑波大学 | ○西 館 有 沙 徳 田 克 己 水 野 智 美 |
| PF23 | 十進数としての特徴に関する児童の認識 —小学5年「整数と小数」の授業実践を通して— | 吹田市立山手小学校 | 大 西 理 加 |
| PF24 | 教職課程の学生による学習支援が高校生の学習に対する姿勢に与える影響 | 愛知工業大学 愛知工業大学 | ○東 平 彩 亜 長谷川 省 一# |
| PF25 | 配慮の必要な生徒の主体的な役割取得による価値理解と自己表現 —道徳科の授業改善を意識した評価— | 神戸医療福祉大学 | 野 本 玲 子 |
| PF26 | 大学生の英語読解学習に対する自己調整意識 | 京都大学大学院 大同大学 | ○松 岡 真由子 浅 井 淳 |
| PF27 | 教職課程大学生による外国語学習の動機づけ理論の評価 —中等英語教育における具体的想定に関する分析— | 岡山理科大学 | 奥 西 有 理 |
| PF28 | 学習全般に対する学習観と英語学習に対する学習観の関連 —交差遅延効果モデルによる因果関係の検証— | 名古屋大学大学院 | 赤 松 大 輔 |
| PF29 | フィードバックが作文の改善過程に及ぼす効果 —制御焦点とのATIに着目して— | 慶應義塾大学大学院 | 福 富 隆 志 |
| PF30 | 大学エクステンション講座の受講者はどのような動機を持っているか | 早稲田大学アドラー心理学研究会 早稲田大学アドラー心理学研究会 早稲田大学 | ○伊 澤 幸 代 堂 坂 更夜香 向 後 千 春 |
| PF31 | 幼児期の絵本の事前提示が関連する遊びに与える影響 —5歳児の絵本とダンボール遊び— | 聖徳大学 聖徳大学 | ○辰 巳 友 唯 鈴 木 由 美 |

| | | | |
|------|--|---|--|
| PF32 | 教員養成校における「教育相談」の授業のあり方について —カウンセリングマインドを持った教員の養成— | 豊岡短期大学 豊岡短期大学 南海福祉専門学校 | ○原 田 敬 文 原 田 増 廣 室 谷 雅 美 |
| PF33 | 看護学生の情緒知能と他者とのかかわりに関する研究 —入学時・1年後・2年後の縦断調査— | 自治医科大学 福岡医療専門学校 武雄看護リハビリテーション学校 自治医科大学 自治医科大学 | ○石 井 慎一郎 瀬戸山 美 和 # 大川内 鉄 二 # 路 川 達阿起 # 佐 藤 貴 紀 # |
| PF34 | 同音条件の違いが日中同形四字熟語の認知処理過程に及ぼす影響 —語彙判断課題による検討— | 中央大学 中央大学 | ○李 兵 藤 宗 吉 |
| PF35 | 個別学習支援に携わる学生が重視する算数文章題解決時のメタ認知方略の検討 | 広島大学大学院・日本学術振興会特別研究員DC 広島大学大学院 久留米大学 | ○小 澤 郁 美 福 屋 いずみ 浦 上 萌 |
| PF36 | 学士課程学生によるライティング・ピア・チュータリングの効果 —縦断的調査に基づく検討— | 共愛学園前橋国際大学 共愛学園前橋国際大学 丸善雄松堂株式会社 関西大学 | ○佐 藤 賢 輔 後 藤 さゆり # 伊 奈 央 # 小 藤 至 道 # |
| PF37 | 幼少期からの興味関心の推移と理科の学習における関係 —小・中学生の回顧調査から— | 明日香保育園 聖徳大学 | ○勝 見 愛 湖 相 良 順 子 |
| PF38 | 児童の課題解決への取り組みを支える教師の支援 —算数の授業場面から— | 宇都宮市立豊郷中央小学校 宇都宮大学 | ○鈴 木 隆 夫 司 城 紀代美 |
| PF39 | 学習における動機づけの増減に関する素人理論V —尺度の作成と因子構造— | 法政大学大学院 日本工業大学 法政大学大学院 法政大学大学院 法政大学 | ○中 川 華 林 山 口 剛 加 藤 みずき 押 尾 恵 吾 藤 田 哲 也 |
| PF40 | 学習における動機づけの増減に関する素人理論VI —項目選定と因子妥当性— | 日本工業大学 法政大学大学院 法政大学大学院 法政大学大学院 法政大学 | ○山 口 剛 中 川 華 林 加 藤 みずき 押 尾 恵 吾 藤 田 哲 也 |
| PF41 | ゼミナールでの授業外活動に対する教員の認識 —計量テキスト分析による検討— | 首都大学東京 | 伏木田 稚 子 |
| PF42 | 言語能力と言語不安が外国語副作用に及ぼす影響 | 広島大学 | 楊 嘉 寧 |
| PF43 | 現職教員と教員志望学生の児童・生徒観および指導行動に関する研究 (7) —教員養成大学における文系—理系学生間の比較検討— | 奈良教育大学 関西福祉科学大学 阪南大学 | ○藤 田 正 林 龍 平 崎 濱 秀 行 |
| PF44 | 現職教員と教員志望学生の児童・生徒観および指導行動に関する研究 (8) —一般大学における文系—理系学生間の比較検討— | 関西福祉科学大学 阪南大学 奈良教育大学 | ○林 龍 平 崎 濱 秀 行 藤 田 正 |
| PF45 | 現職教員と教員志望学生の児童・生徒観および指導行動に関する研究 (9) —一般大学1年生における希望校種間の比較検討— | 阪南大学 奈良教育大学 関西福祉科学大学 | ○崎 濱 秀 行 藤 田 正 林 龍 平 |

社会

- PF46 就職活動中の大学3年生における大学受験の捉え方とキャリア選択自己効力の関係 (2)
—就職活動期間の縦断的研究— 学習院大学 秋山史子
- PF47 大学生の授業における動機づけの社会的伝達モデルの検討 (3)
—学習者の動機づけおよび期待の個人差による検討— 名古屋大学大学院 名古屋大学大学院 ○柳澤香那子
名古屋大学大学院 中谷素之
- PF48 性役割観は言葉かけで喚起される感情に影響を及ぼすか? 広島大学大学院 ○吉岡真梨子
広島大学 井上弥
- PF49 高校生の質問力育成を目的とした授業効果の検討
—質問力および質問態度に着目して— 愛知淑徳大学大学院 ○松本明日香
愛知淑徳大学 小川一美
愛知淑徳大学 斎藤和志
- PF50 他者軽視と他者評価との関連
—領域の重要性と親密度を踏まえて— 筑波大学大学院・日本学術振興会 ○長峯聖人
筑波大学 外山美樹
- PF51 武力紛争解決・予防を目指した教育プログラムが受講者の道徳不活性へ及ぼす影響 南山大学 ○池田満
東京外国語大学 福田彩#
東京外国語大学 宮城徹#
- PF52 ジェンダーに対する違和感尺度作成の試み
—自己・他者の観点から— 龍谷大学大学院 関口美優香
- PF53 ブラジリアン柔術を通じた日本・伯の交流 愛知みずほ大学 ○高橋健太
愛知みずほ大学大学院 高橋陽香
愛知みずほ大学 安念保昌

人格

- PF54 中学生の居場所と生活感情の関連
—対人関係における居場所感— 修文大学短期大学部 益川優子
- PF55 大学生の共感経験と達成動機との関連 早稲田大学 ○井芹まい
早稲田大学 河村茂雄
- PF56 Sense of Coherenceは閉ざされた関心によるものなのか
—Sense of Coherenceと認知欲求・認知的完結欲求・知的好奇心との関係— 大阪大学大学院 ○磯和壮太郎
大阪大学大学院 三宮真智子

臨床

- PF57 大学生におけるセルフコンパッションとキャリア形成意欲の関連 早稲田大学大学院 ○飯島有哉
山崎製パン株式会社 中村実央#
早稲田大学 桂川泰典
- PF58 転換性障害が明らかになった小学生への学習支援の効果
—小児てんかん児の効力感の向上を図る— 東京都特別支援教室 金子重美
巡回相談心理士
- PF59 青年期の攻撃行動における心理教育の刺激呈示の工夫の試み
—マインドフルネス呼吸法を習得するために— 早稲田大学大学院 ○齋藤彩乃
早稲田大学人間科学学術院 嶋田洋徳

| | | | |
|------|--|-------------------------|------------------------------------|
| PF60 | アイデンティティ形成をねらいとした心理教育プログラム開発の試み ーメンタライジング・アプローチの視点からー | 首都大学東京 | 竹 元 雅 也 |
| PF61 | 受刑者に対する暴力防止指導の効果 | 瀬戸少年院 福井刑務所 福井刑務所 | ○反 中 亜 弓 田 中 孝 典 # 太 田 麻祐子 # |

特別支援

| | | | |
|------|--|--|---|
| PF62 | 視覚障害に対する高校生の認識 ー障害理解学習経験が及ぼす影響ー | 北海道教育大学 | 細 谷 一 博 |
| PF63 | 大学生の学習面の困難に関する研究 | 大分大学 | 衛 藤 裕 司 |
| PF64 | 就学移行期における障害のある子どもに関する記録物の作成・活用状況と課題 (1) ー量的データの分析からー | 比治山大学 名古屋市立大学 名古屋大学 宮城教育大学 福岡女学院大学 名寄市立大学 沖縄女子短期大学 香川大学 広島文化学園大学 広島文化学園大学 | ○濱 田 祥 子 上 田 敏 丈 若 林 紀 乃 越 中 康 治 岡 花 祈一郎 # 中 西 さやか # 廣 瀬 真喜子 松 井 剛 太 # 八 島 美菜子 山 崎 晃 |
| PF65 | 就学移行期における障害のある子どもに関する記録物の作成・活用状況と課題 (2) ーテキストマイニングによる自由記述の分析からー | 宮城教育大学 名古屋市立大学 名古屋大学 比治山大学 福岡女学院大学 名寄市立大学 沖縄女子短期大学 香川大学 広島文化学園大学 広島文化学園大学 | ○越 中 康 治 上 田 敏 丈 若 林 紀 乃 濱 田 祥 子 岡 花 祈一郎 # 中 西 さやか # 廣 瀬 真喜子 松 井 剛 太 # 八 島 美菜子 山 崎 晃 |

学校心理学

| | | | |
|------|---|---|--------------------------------|
| PF66 | イングランドの中学校におけるTheatre in Educationを用いたいじめ防止プログラムに関する一考察 | 鎌倉女子大学 | 伊 藤 嘉奈子 |
| PF67 | 地域の子ども支援者が発見する子どものSOSとその支援 ー学校等との連携の実態ー | 昭和薬科大学 一般社団法人 子ども安全ま ちづくりパートナーズ 福岡教育大学 | ○吉 永 真 理 重 根 美 香 小 泉 令 三 |
| PF68 | 中学生の相談行動の促進要因・阻害要因の検討 ーより効果的な自殺予防教育の実施に向けてー | 名古屋大学 名古屋大学 | ○窪 田 由 紀 杉 岡 正 典 # |
| PF69 | 中国の中学生の感謝感情の検討 ー中国版感謝尺度の作成と検討を通してー | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○王 徹 崧 庄 司 一 子 |
| PF70 | いじめ被害経験と加害経験の有無が自己関係づけに及ぼす影響 ー青年期における回顧的研究ー | こいでクリニック 甲南大学 | ○小 山 聡 子 福 井 義 一 |
| PF71 | 対人関係ゲームを活かしたキャリア教育のあり方 | 大学改革支援・学位授与機構 聖徳大学 | ○稲 田 達 也 鈴 木 由 美 |

| | | | |
|------|--|---|---|
| PF72 | いじめ撲滅劇参加による卒業生への影響 ー卒業生インタビューに見られる転機という概念 に着目してー | 大阪府寝屋川市立第六中学校 兵庫教育大学大学院 | ○富田幸子 中 間 玲 子 |
| PF73 | 部活動における生徒の指導者への信頼感及び指導 者の統制感（コントロールスタイル）についての一 考察 ー時期要因と目標タイプ要因からの検討ー | 上越教育大学大学院 上越教育大学 | ○田中琢也 高 橋 知 己 |
| PF74 | 小学校5年生の児童を対象としたソーシャルスキ ルトレーニングの効果の検討（1） | 金沢工業大学大学院 金沢工業大学 金沢工業大学大学院 金沢工業大学大学院 | ○滋野井 圓 石 川 健 介 川 畑 良 裕 # 西 田 有 希 |
| PF75 | 清掃活動におけるコーチングが子どもの主体性を 高める可能性 | 赤穂郡上郡町立山野里小学校 兵庫教育大学 | ○中野 淳 秋 光 恵 子 |
| PF76 | 青年期女子の友人関係と学校適応との関連 ー中学1年生と高校1年生のデータ分析ー | 東京家政大学大学院 | 横 田 靖 子 |
| PF77 | 高校生に対する予防的心理支援としてのレジリエ ンス教育の実践と効果（3） ー集団と個人の特性効果に着目してー | 郁文館夢学園 お茶の水女子大学 東京家政大学 | ○鈴 木 水 季 岐 部 智 恵 子 平 野 真 理 |
| PF78 | 高校生におけるレジリエンスの経験的獲得プロセ スの検討 ー変わろうという意識を支える心理教育授業の役 割ー | 東京家政大学 郁文館夢学園 お茶の水女子大学 | ○平 野 真 理 鈴 木 水 季 岐 部 智 恵 子 |

測定・評価・研究法

| | | | |
|------|--|---|--|
| PF79 | 日本語語彙についての多肢選択課題と既知判断課 題の成績の関係 ー高校生から60歳代までを対象とした大規模調査 による検討ー | くらしき作陽大学 (株) ベネッセ コーポレー ション (株) ベネッセ コーポレー ション 教育アナリスト | ○猪 原 敬 介 古 屋 美 樹 # 松 尾 千 佳 # 沓 澤 糸 # |
| PF80 | 自由記述データを用いた第二外国語教育の要点に 関する探索的研究 ー捕獲率を用いた知見の飽和度の評価ー | 立教大学 立教大学 | ○大 橋 洸太郎 高 嶋 幸 太 # |
| PF81 | 統計リテラシー日本語版尺度の妥当性と信頼性の 検討 ーニューメラシーや批判的思考態度との関係ー | 京都大学 京都大学大学院 京都大学大学院 京都大学 京都大学 京都大学 | ○伊 川 美 保 綾 部 宏 明 松 岡 真由子 平 岡 大 樹 # 西 山 慧 # 高 野 了 太 # 楠 見 孝 |

ポスター発表G

10月9日（月・祝） ポスター掲示時間 10:00～12:00
在席責任時間 奇数番号10:00～11:00 偶数番号11:00～12:00

発達

| | | | |
|------|---|---|--|
| PG01 | 学科の専門性と「就業力」についての縦断調査研究 —大学生を対象として— | 福岡県立大学 福岡県立大学 | ○池 志 保 中 村 晋 介 # |
| PG02 | 幼児における他者の要求変化の背後にある「別の他者を欺こうとする意図」への気づきに関する研究 | 山梨県立大学 港区立しばうら保育園分園 | ○多 田 幸 子 尾 池 晴 香 # |
| PG03 | 見守るしつけと子どもの感情制御 —縦断研究からの検討— | 東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学 | ○風 間 みどり 平 林 秀 美 唐 澤 真 弓 |
| PG04 | 心理教育“サクセスフル・セルフ”を活用した小学校低学年の保護者への子育て支援に関する検討 | 兵庫教育大学大学院 岡山大学 | ○岡 崎 由美子 安 藤 美華代 |
| PG05 | 親の養育態度および友人関係が自己肯定感へ与える影響 —大学生への質問紙調査を通して— | 甲南大学大学院 甲南大学 | ○篠 田 麻 佳 大 西 彩 子 |
| PG06 | 向社会的行為者に対する評価の発達変化 | 名古屋大学 鹿児島大学 | ○二 村 郁 美 島 義 弘 |
| PG07 | 保育場面における幼児の援助要請行動 | 香川大学 | 池 田 七 海 |
| PG08 | 日韓の大学生の職業アイデンティティ比較研究 —小学校教員を目指す学生を対象とした質的研究— | 大阪教育大学 大阪教育大学 | ○朴 聖 希 高 橋 登 |
| PG09 | 大学生親子ペアデータによる親離れ・子離れと関連要因の検討（1） —親離れと子離れが親子それぞれのキャリア発達に及ぼす影響— | 立教大学 国立成育医療研究センター 文教大学 青山学院大学 | ○高 田 治 樹 水 本 深 喜 正 木 澄 江 # 池 上 真 平 # |
| PG10 | 大学生親子ペアデータによる親離れ・子離れと関連要因の検討（2） —親と子の「親離れ」「子離れ」認知による自立的・肯定的親子関係認知の差— | 国立成育医療研究センター 立教大学 文教大学 青山学院大学 | ○水 本 深 喜 高 田 治 樹 正 木 澄 江 # 池 上 真 平 # |
| PG11 | 打楽器による幼児の感情表現における音量の変化 | 鹿児島大学大学院 鹿児島大学 鹿児島大学 | ○神 田 まほろ 島 義 弘 大 坪 治 彦 |
| PG12 | ひきこもりを抱える家族におけるきょうだいの体験過程 | 東京都教育委員会 | 和 田 美 香 |
| PG13 | 8～10歳の「重さの保存」に関する研究 —判断の理由づけに着目して— | 立命館大学 | 大 西 真樹男 |
| PG14 | 中学生の社会的行動についての研究（109） —移行期の時間的展望の変化の様相— | 福島大学 名古屋大学 愛知学院大学 千葉県立保健医療大学 名古屋文理大学短期大学部 | ○五十嵐 敦 氏 家 達 夫 二 宮 克 美 井 上 裕 光 山 本 ち か |

PG

| | | | |
|------|---|---|--|
| PG15 | 中学生の社会的行動についての研究 (110) —自殺念慮の変化と、家庭および友だちの要因の 関連— | 名古屋文理大学短期大学部 名古屋大学 愛知学院大学 福島大学 千葉県立保健医療大学 | ○山 本 ち か 氏 家 達 夫 二 宮 克 美 五 十 嵐 敦 井 上 裕 光 |
| PG16 | 発達障害のある生徒への捉え方に影響を及ぼした 要因に関する検討 | 神戸大学大学院 神戸大学大学院 | ○谷 口 あ や 山 根 隆 宏 |
| PG17 | 幼児期における仲間関係の固定化に関する事例的 検討 —卒園間際の年長児に注目して— | 北海道大学 北海道大学 | ○及 川 智 博 川 田 博 学 |

教授・学習・認知

| | | | |
|------|---|---|---|
| PG18 | 教職課程履修学生の生徒指導イメージに関する研 究 | 岡山大学 | 三 島 知 剛 |
| PG19 | 教師は生徒の学習方略利用の実態を把握できてい るのか？ —数理モデルを用いた教師の予測の正確性の分析 — | 東京大学 大妻女子大学 東京大学 東京大学 獨協医科大学 群馬大学大学院 | ○植 阪 友 理 川 中 正 宣 # 山 口 一 仲 谷 佳 大 恵 # 上 西 秀 和 # 深 谷 達 史 |
| PG20 | 達成目標促進と授業実践型相互教授の効果 (4) —グループ学習における思考促進への効果— | 大田区立東調布第一小学校 名古屋大学 名古屋大学大学院 | ○町 岳 橘 春 菜 中 谷 素 之 |
| PG21 | 教員養成課程の大学生の音楽科に対する教科観 | 愛知教育大学 | 小 嶋 佳 子 |
| PG22 | 学習指導要領と国際バカロレア教育の教育理念の 融合のさせ方に関わる探索的調査研究 (1) —「探究科」の学習で育てる学習者像とそれに育成 する資質・能力の検討— | 東京学芸大学 飯能市立加治小学校 | ○梶 井 芳 明 後 藤 由 季 奈 # |
| PG23 | 学校の学習を日常の実践に繋ぐ学習環境デザイン —対話活動が問題文の吟味に及ぼす影響— | 桐蔭学園 | 菅 井 篤 |
| PG24 | 協働省察の導入と児童の逸脱行動の減少との共起 現象 | 愛媛大学大学院 愛媛大学 | ○市 本 早 香 富 田 英 司 |
| PG25 | NPO法人発達障害療育センター学習教室での学 習支援 —知的障害がある中学生、高校生に対する学習支 援— | 京都大学大学院 | 金 子 正 弘 |
| PG26 | レポート作成における読み手を意識した文章作成 方略使用尺度の開発 | 広島大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院 近畿大学 | ○田 中 光 中 條 和 光 山 根 嵩 史 有 馬 比 呂 志 |
| PG27 | ふりかえりシートの導入によるクラス会議の話し 合いの質改善の試み | 広島大学大学院 愛媛大学 | ○村 瀬 由 加 里 富 田 英 司 |
| PG28 | 「将来働く目的や理由」の項目収集と分類 —仕事価値観尺度作成に向けて— | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○菅 原 宏 明 櫻 井 茂 男 |
| PG29 | 児童の自主性を生かした安全教育の効果 (2) —ハザードへの気づきに与える影響— | 大阪大学大学院 大阪大学大学院 大阪大学大学院 東海学院大学 大阪大学大学院 | ○岡 真 裕 美 森 泉 子 慎 吾 # 太 中 井 の ぞ み # 白 井 伸 之 介 # |

| | | | |
|------|---|--|---|
| PG30 | 学習者は適切な図表を自発的に産出して数学的問題解決できるか ー学習方略への認知負荷理論の応用ー | 京都大学大学院 京都大学 | ○綾 部 宏 明 マナロ エマニエル |
| PG31 | 成長マインドセットを育む教育プログラムの長期的効果 | 関西福祉科学大学 大阪教育大学 | ○竹 橋 洋 毅 豊 沢 純 子 |
| PG32 | 学習教材の選択場面における動機づけ調整の検討 | 京都大学 京都大学 | ○長谷部 育 恵 楠 見 孝 |
| PG33 | 知能観とJOLが学習時間に及ぼす影響 ー課題の難易度による調整効果ー | 同志社大学大学院 日本学術振興会・同志社大学 同志社大学大学院 同志社大学 | ○江 聚 名 池 田 賢 司 柿 沼 亨 祐 田 中 あゆみ |
| PG34 | 友人間のほめと達成目標・知能観との関連 | 同志社大学大学院 同志社大学 | ○柿 沼 亨 祐 田 中 あゆみ |
| PG35 | 段階的教訓帰納とルール理解を重視した学習指導 ー計算間違いに対する認知カウンセリングの事例からー | 東京大学大学院 | 若 林 正 晃 |
| PG36 | 心的イメージ能力の個人差は中学校理科への志向性に関連するか？ ー鮮明性と空間的統御性の次元に着目してー | 北海道大学・日本学術振興会 特別研究員 北海道大学 | ○原 田 勇 希 鈴 木 誠 |
| PG37 | 課題解決に必要な事項を習得させるタイミングの異なる授業展開が生徒の概念形成に及ぼす効果について ー中学校理科 コイルの学習を通してー | 倉敷市立新田中学校 岡山大学 | ○山 本 卓 也 荒 尾 真 一 |
| PG38 | 教員が学び合う「学習コミュニティ」の構築 ー小学校における協働の過程についての考察ー | 川西市立川西北小学校 兵庫教育大学 | ○稲 田 拓 也 山 中 一 英 |
| PG39 | 協同的な学習意識を育むスキルトレーニングの開発 (1) ー傾聴トレーニングによるスキル得点の変化ー | 奈良教育大学 奈良教育大学 | ○解 良 優 基 中 山 留美子 |
| PG40 | 協同的な学習意識を育むスキルトレーニングの開発 (2) ースキルの向上と協同認識・学習観の変化の関連ー | 奈良教育大学 奈良教育大学 | ○中 山 留美子 解 良 優 基 |
| PG41 | 学びの習熟化とテストとの関わり ーテストで点を取ることは、点を取るだけのことなのか？ー | 代々木ゼミナール | 宇 野 正 明 |
| PG42 | 小学校教師における学級経営のリフレクションの検討 ー若手教師に対する半年間の縦断的調査を通してー | 明石市立魚住小学校 兵庫教育大学 | ○中 村 恵 子 秋 光 恵 子 |
| PG43 | 高等教育における学びのユニバーサルデザイン (UDL) の実践の試み ー知識・技能の修得を目的とした授業における導入ー | 福岡工業大学短期大学部 福岡工業大学短期大学部 福岡工業大学短期大学部 | ○藤 井 厚 紀 石 橋 慶 一# 上 村 英 男# |
| PG44 | 大学授業における発表のルーブリック評価に対する学生の受け止め方II ー達成目標・協同作業認識がルーブリック確認回数に及ぼす影響ー | 法政大学大学院 法政大学 | ○加 藤 みずき 藤 田 哲 也 |

| | | | | | |
|------|---|---|-----------------------|--|-----------|
| PG45 | 大学授業における発表のルーブリック評価に対する学生の受け止め方Ⅲ ー達成目標・協同作業認識がルーブリック評価法に対する評価に及ぼす影響ー | 法政大学 法政大学大学院 | ○藤加 | 田藤 | 哲也 みずき |
| PG46 | 保育施設における園庭の実践と価値観の検討 | 東京大学大学院 東京大学 愛知大学 園庭研究所 白梅学園大学 東京大学大学院 | ○辻秋 杉本 石田 宮本 | 谷田 真知子 喜代美 貴代 佳織# まり子# 雄太# | |

社会

| | | | | | | |
|------|--|--|-----------------------------|----------------------------|---------------------|---------------|
| PG47 | 大学生の友人に対する心理的距離と友人関係における態度の関連 | 金沢工業大学大学院 金沢工業大学 | ○西石 | 田川 | 有健 | 希介 |
| PG48 | 社会化エージェントの多層的影響に関する研究(22) ーMover-stayer潜在移行分析によるエージェント資源と向社会的性の関連の検討ー | 岐阜大学 岐阜聖徳学園大学 名城大学 久留米大学 名古屋大学大学院・ 日本学術振興会 岐阜聖徳学園大学 | ○吉澤 吉田 原田 浅野 玉井 | 寛之 琢哉 知佳 良輔 颯一 | | |
| PG49 | 社会化エージェントの多層的影響に関する研究(23) ー子どもの反社会的性を抑制する親・友人・教師・地域住民エージェントの相互補完的機能ー | 岐阜聖徳学園大学 岐阜大学 久留米大学 名古屋大学大学院・ 日本学術振興会 岐阜大学大学院 岐阜聖徳学園大学 | ○吉澤 吉田 浅野 玉井 | 田寛 澤良 野颯 井一 | 琢之 寛輔 良一 | 哉之 輔一 |
| PG50 | 社会化エージェントの多層的影響に関する研究(24) ー養育と友人関係機能が自己他者モニタリングの発達軌跡に与える影響ー | 久留米大学 岐阜大学 岐阜聖徳学園大学 名城大学 名古屋大学大学院・ 日本学術振興会 岐阜聖徳学園大学 | ○浅野 吉澤 吉田 原田 玉井 | 野良 澤寛 田琢 田知 井颯 | 良輔 之哉 佳佳 一 | 輔之 哉佳 一 |
| PG51 | 児童会活動の一環として行った学校規模のソーシャルスキル教育と適応感 ー学校規模でのQUの活用についてー | 早稲田大学 | 森 | | 俊博 | |
| PG52 | 若者のインターネット依存傾向 ー親子関係にみるインターネット利用の現状ー | 安田女子大学 (社) ネット依存から 子どもを守る会 静岡産業大学 | ○藤斐 高城 | 田依 久子 英洙 佳那 | | |
| PG53 | 同調的対人態度と対人関係におけるバーンアウトの関係に対する批判的思考の影響 | 神戸大学大学院 | 牛尾 | 憲治 | | |
| PG54 | 現代青年の友人関係における気遣う理由が自尊心に与える影響 | 金沢工業大学大学院 金沢工業大学 | ○山崎 石川 | 崎寿 健介 | | |

人格

| | | | | | |
|------|--|-----------------|-----|----|----|
| PG55 | 大学運動部活動における部員の自律的動機づけが部活動への適応感に及ぼす影響 ー主将のリーダーシップを調整変数としてー | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○湯外 | 山美 | 立樹 |
|------|--|-----------------|-----|----|----|

| | | | |
|------|---|-------------------------|-------------------|
| PG56 | ローゼンバーグ自尊感情尺度の2側面と自己愛人格傾向 ー縦断データの分析ー | 広島大学・日本学術振興会 広島大学 | ○福留広 森永康 大子 |
| PG57 | 自閉症スペクトラム傾向の高い青年の理想自己の 在り方 | 広島文化学園大学大学院 広島文化学園大学 | ○松野実 山崎晃 |

臨床

| | | | |
|------|--|---|---------------------------------------|
| PG58 | 牛乳嫌いの幼児に対する改善の取り組み1 ー家庭における保護者の対応ー | 筑波大学 東京未来大学 富山大学 筑波大学大学院 筑波大学 | ○水野智美 西村実穂 西館有沙 水野裕子 徳田克己 |
| PG59 | 大学新入生の自閉症スペクトラム傾向が友人関係 満足感に及ぼす影響 ー個人・環境要因の保護機能に注目してー | 筑波大学 筑波大学 筑波大学 | ○水野雅之 小林矩子 金子楓 |
| PG60 | アレキシサイミア空間からみた大学生のキャリア 意識・行動 | 愛知みずほ大学 常葉大学 株式会社フィールコーポレー ション | ○後藤和史 吉田哲也 西川ほたか |
| PG61 | 青年期のSNS依存におけるソーシャルメディア 使用ストレスと見捨てられ不安の関連 | 弘前大学大学院 弘前大学大学院 弘前大学 | ○河村咲希 篠原ひとみ 松田侑子 |
| PG62 | 大学生の適応行動の捉え方 ー心理専門家との違いの比較ー | 北星学園大学大学院 | 青陽千果 |

特別支援

| | | | |
|------|--|-----------|------|
| PG63 | 自閉症生徒の描画の特性（模写と写生） | 愛知教育大学大学院 | 永井弘人 |
| PG64 | 通級指導教室に通う小学生のコーピング尺度の検 討 | 関西大学大学院 | 吉原勝 |
| PG65 | ADHD不注意傾向幼児への保育者の対応困難感 | 筑波大学大学院 | 水野裕子 |
| PG66 | 視機能のアセスメントを視覚障害領域以外で活用 するための有効な工夫について ー視覚障害教育における視機能のアセスメントの 結果を広く、特別支援教育の領域に活用するため にー | 岡山東支援学校 | 刀瀬豊 |

学校心理学

| | | | |
|------|--|------------------------|----------------|
| PG67 | 「精神的充足・社会的適応力」評価尺度による心 理的柔軟性の育成 ー評価尺度の反復実施による検討ー | 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 | ○綿井雅康 加藤陽子 |
| PG68 | 小中一貫校の学校づくりにおける教師の学習 ー開校準備に携わる教師の語りに着目してー | 東京大学大学院 | 藤江康彦 |
| PG69 | 学級集団と児童理解のためのアセスメント方法の 試案 | 伊勢崎市立坂東小学校 上越教育大学 | ○品田ゆき子 高橋知己 |

| | | | |
|------|---|-----------------|------------|
| PG70 | 女子短大生に対するグループワークプログラム実践の試み (5) | (株) みどりトータル・ヘルス | ○松 原 耕 平 |
| | | 研究所 | |
| | | (株) みどりトータル・ヘルス | 猪 澤 歩 |
| | | 研究所 | |
| | | 京都光華女子大学短期大学部 | 森 際 孝 司 |
| | | 嵯峨女子大学 | 高 岡 し の |
| | | 近畿大学 | 本 岡 寛 子 |
| | | 近畿大学 | 大 村 香 奈 子 |
| | | (株) みどりトータル・ヘルス | 藤 田 昌 也 # |
| | | 研究所 | |
| | | 立命館大学 | 三田村 仰 # |
| | | (株) みどりトータル・ヘルス | 林 敬 子 |
| | | 研究所 | |
| PG71 | 自尊感情・本来感の向上を目指した教師・保護者・友人のはたらきかけへの介入実践ー心理的Well-beingへの効果を含めた検討ー | 岐阜市立長森中学校 | ○山 田 恭 子 |
| | | 岐阜大学 | 吉 澤 寛 之 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| PG72 | 高校における心理学の学びの効果 | 放送大学 | 小 島 淳 子 |
| PG73 | 中学生のインターネット依存傾向に関する研究ー実態調査と「はまった体験」の聴き取りからー | 高知県教育委員会 | ○坪 島 佑 季 |
| | | 鳴門教育大学 | 小 倉 正 義 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| PG74 | 長期休業前後の児童の登校回避感情に学校適応感が与える影響 | 鹿児島大学大学院 | ○嶋 田 未 菜 美 |
| | | 鹿児島大学 | 島 義 弘 |
| | | 鹿児島大学 | 大 坪 治 彦 |
| | | | |
| | | | |
| PG75 | 中学生の道徳性と主体的に行う生徒指導上の問題行動との関連 | 愛知県刈谷市立日高小学校 | 中 野 真 悟 |
| PG76 | 高校生のインターネット上の友人が自己肯定感に及ぼす効果ーインターネットを通して友人をつくることへの評価と被受容感に着目してー | 北海道大学 | 佐 藤 奈 月 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| PG77 | SGH指定高校の活動に対する満足度の要因 | 長野県長野高等学校 | ○白 鳥 美 香 |
| | | 長野県屋代高等学校 | 大 石 超 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| PG78 | SGH指定高校における海外研修の効果 | 長野県屋代高等学校 | ○大 石 超 |
| | | 長野県長野高等学校 | 白 鳥 美 香 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

測定・評価・研究法

| | | | |
|------|----------------------------|-------------------------|-----------|
| PG79 | bi-factorモデルの応用可能性再考 | 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ | 坂 本 佑 太 朗 |
| PG80 | 聴覚障害者における和楽器の聴取に関する検討 | 筑波大学大学院 | ○湯 浅 哲 也 |
| | | 筑波大学 | 加 藤 靖 佳 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| PG81 | ビジネス顕微鏡による行動データの測定と学生の意識分析 | 千歳科学技術大学 | ○大河内 佳 浩 |
| | | 千歳科学技術大学 | 今 井 順 一 # |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

ポスター発表H

10月9日（月・祝） ポスター掲示時間 13:00～15:00
在席責任時間 奇数番号13:00～14:00 偶数番号14:00～15:00

発達

| | | | |
|------|---|--|---|
| PH01 | 大学生のアイデンティティの形成と文化的自己観の関係 —教員養成大学の学生と総合大学の学生の比較から— | 京都教育大学大学院 | 岩 佐 康 弘 |
| PH02 | 高校生の大学受験にかかる専攻決定プロセスの質的研究 —M-GTAを用いて— | 尚絅学院大学 尚絅学院大学 | ○川 端 壮 康 佐 藤 真奈美 # |
| PH03 | 他者との関係に応じた幼児・児童の感情の表出制御 | 甲南大学大学院 | 吉 川 詩 織 |
| PH04 | 幼児期における関係性攻撃 —心の理論及び情動環境との関連の検討— | 椋山女学園大学 東京大学・日本学術振興会 | ○溝 川 藍 浜 名 真 以 |
| PH05 | 青年期の自己意識の発達の变化（3） —理想自己の様相を検討する— | 兵庫教育大学大学院 | 中 間 玲 子 |
| PH06 | 幼児初期における「じぶん」の認識について —鏡像反応の縦断的分析から（その2）— | 大阪健康福祉短期大学 | 高 木 玉 江 |
| PH07 | 東アジアと欧州の教科書にみる親子間葛藤 —日本・中国・ドイツ・イタリアの親子間葛藤に焦点をあてて— | 同志社女子大学 | 塘 利枝子 |
| PH08 | 親友の存在と適応との関係 —親友がいる・いない・いるかどうかかわからない大学生の比較— | 筑波大学 京都大学 | ○佐 藤 有 耕 種 村 文 孝 # |
| PH09 | 情報のなわばりとモダリティ表現が確信度判断へ与える影響 I | 尚絅学院大学 聖和学園短期大学 | ○小 泉 嘉 子 飯 島 典 子 |
| PH10 | 他者評定による幼児の完全主義の検討 —縦断データを用いた親評定と保育者評定の比較— | 関西福祉科学大学 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター | ○西 元 直 美 山 本 正 顕 |
| PH11 | 幼児期における行動抑制の発達の变化（8） —幼児期の抑制行動得点と小学校でのQ-U得点との関連— | 武庫川女子大学 武庫川女子大学 武庫川女子大学 | ○難 波 久美子 河 合 優 年 佐々木 恵 # |
| PH12 | 社会情動的スキルの育成に対する保育者の意識 | 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 | ○大 宮 明 子 石 田 有 理 |
| PH13 | 中学生の母親に対する苛立ちの強さと回想的な児童期の母子関係との関連 | 東洋学園大学 | 福 田 佳 織 |
| PH14 | 教職キャリアの発達課題仮説の提案 I —小・中・高校教師経験者からの提案— | 就実大学 香川大学 兵庫教育大学 愛知県西尾市立佐久島中学校 国際基督教大学 就実大学 | ○高 木 亮 田 純 藤 忠 雄 長 守 紘 谷 安 夫 清水 眞佐子 門 原 |

PH

測定・評価・研究法

- PH15 教師のキャリアを描像する分析手法の現在と展望
—教職キャリアの発達課題仮説の提案II— 名古屋大学大学院 就実大学 ○長谷田 守 紘 穂 #

教授・学習・認知

- PH16 アクティブ・ラーニングにおけるコミュニケーション活動がジェネリックスキルや学習意欲に及ぼす効果 神戸市外国語大学 田村 美 恵
- PH17 看護学生の死生観
—自由記述の分析より— 大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 大阪信愛女学院短期大学 ○石井 田 あゆみ 藤 和加子 徳 温 子
- PH18 理科の『落書き』を使って描きながら考える力の育成 (I)
—中学校理科 地球と宇宙の学習において— 岡山県津山市立津山西中学校 岡山大学 ○谷本 薫 彦 荒 尾 真 一
- PH19 物語の展開に関する期待を促進するイメージの分析
—テキストマイニングの手法を用いて— 恵泉女学園大学 伊藤 尚 枝
- PH20 大学若手教員の教育観に関する一考察
—FDに関するインタビューの結果から— 徳島大学 三重大学 ○新原 将 義 久保田 祐 歌 #
- PH21 保育学生がもつ保育現場 (保育者) イメージによる希望就職先の検討 白百合女子大学 佐藤 那 美
- PH22 協同学習における成績および意欲の変化について 千葉科学大学 熊谷 圭二郎
- PH23 英語授業の目標認知と予習方略の関連
—信念・動機・認知に着目した影響プロセスの検討— 日本大学 東京大学 ○篠ヶ谷 圭 太 木 澤 利英子
- PH24 小学生に対する対話促進ツールを用いた協働学習の支援
—高学年クラスにおける実践についての検討— 清泉女学院大学 マナビクリエイト 東京都北区立袋小学校 ○生井 裕 子 中 島 久 樹 # 山 下 徹 #
- PH25 小学校の授業における効果的な板書の検討 (I)
—メタ認知の発達と理解度評定の関連— 明星大学 布施 光 代
- PH26 教える立場にいる人の「ピリーフ」比較
—コーチングの影響をめぐって— 三重県立桑名西高等学校 石田 正 寿
- PH27 ネガティブ感情はいつバネになるのか
—達成目標と自己効力感がネガティブ感情に与える影響に着目して— 名古屋大学大学院 川島 万由子
- PH28 学習教材における挿絵の学習意欲効果とリラックス効果について 長崎純心大学大学院 長崎純心大学 ○増本 紗也香 岡 嶋 一 郎
- PH29 ゆるし傾向性と認知的感情制御方略との関連の検討 早稲田大学大学院 山本 琢 俊
- PH30 SNSにおける悲観的発信に対する閲覧者の認知 大阪大学大学院 大阪大学大学院 ○野口 直 樹 三 宮 真智子
- PH31 個人特性要因が対人記憶に及ぼす影響 上越教育大学大学院 上越教育大学 ○岩本 知 絵 高 橋 知 己

| | | | |
|------|---|---------------------------|---------------------------------|
| PH32 | 時系列にみる教育実習生の省察の変容 | 上越教育大学大学院 上越教育大学 | ○岩 澤 美 咲 高 橋 知 己 |
| PH33 | 反証事例の配列順序の違いが「浮力」に関する誤概念修正に及ぼす効果 | 上越教育大学大学院 上越教育大学 | ○田 邊 雄 也 高 橋 知 己 |
| PH34 | 保育学生の子どもの対人葛藤場面への対応 —子ども情報を追加すると対応はどう変容するか— | 京都ノートルダム女子大学 | 畠 山 寛 |
| PH35 | 看護学臨地実習における教員・実習指導者が学生の 実習適応感に与える影響 —学生が認知した教員・実習指導者の役割に着目 して— | 関西大学大学院 兵庫医療大学 関西大学 | ○コウ ケイホウ 竹 田 千佐子# 脇 田 貴 文 |
| PH36 | 授業中の私語抑制に関する認知心理学的研究 | 神戸女学院大学 | 中 田 英利子 |
| PH37 | 小学生の学習習慣・学習意識と親の教育観との関 係に関する研究 | 早稲田大学大学院 早稲田大学 | ○荒 牧 良 祐 浅 田 匡 |
| PH38 | 短期大学生の学習課題先延ばし行動とセルフコン trolとの関連 | 中京学院大学 | 遠 藤 美 行 |
| PH39 | 中学校の理数系教科書における問いの機能に関す る検討 (3) —数学的理解を促すための問いの並びに着目して — | 日本学術振興会特別研究員 共立女子大学 | ○小田切 步 石 橋 優 美 |
| PH40 | 中学校の理数系教科書における問いの機能に関す る検討 (4) —科学的理解を促すための問いの並びに着目して — | 共立女子大学 日本学術振興会特別研究員 | ○石 橋 優 美 小田切 步 |
| PH41 | 教室という弁証法 (1) —学級での教師の価値づけに着目して— | 横浜国立大学大学院 横浜国立大学 | ○関 原 良 平 有 元 典 文 |
| PH42 | 教室という弁証法 (2) —教師によって変化する生徒の主体性— | 横浜国立大学大学院 横浜国立大学 | ○藤 森 裕 紀 有 元 典 文 |
| PH43 | 教室という弁証法 (3) —教師と学習者の協働と捉える質問行動— | 横浜国立大学大学院 横浜国立大学 | ○社 本 步 有 元 典 文 |

社会

| | | | |
|------|--|-----------------|----------------------|
| PH44 | マインドワンダリングが創造的な問題解決に及ぼ す影響 —精神的健康と感情状態に着目して— | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○山 岡 明 奈 湯 川 進太郎# |
| PH45 | 座席位置と相互独立-相互協調的自己観の関係 | 奥羽大学 奈良教育大学 | ○多根井 重 晴 豊 田 弘 司 |
| PH46 | 主観的時間的距離感が精神的健康及び時間的展望 に与える影響について | 甲南大学大学院 | 安 藤 舞 |
| PH47 | 児童の学級コミットメントが教師の突きつける指 導行動の有効性に及ぼす影響 | 上越教育大学 | 森 智 史 |
| PH48 | 父親の育児・家事参加に対する母親の受け止め方 についての質的研究 | 筑波大学 筑波大学 | ○金 子 楓 濱 口 佳 和 |

| | | | |
|------|---|---------------------------|--------------------------|
| PH49 | 身近な他者への相談が意思決定後の後悔に及ぼす影響 | 名古屋大学大学院 三重大学 名古屋大学 | ○伊藤 拓 瀬戸 美奈子 金 篤 子 |
| PH50 | 文脈的アプローチに基づいた感謝表出スキルの特徴 ー半構造化面接による予備的検討ー | 筑波大学 筑波大学 | ○酒井 智 弘 相 川 充 |
| PH51 | 向社会的行動とセルフコンパッションがレジリエンスに及ぼす影響について ー構造方程式モデリングによる検討ー | 法政大学大学院 | 岩 城 美 良 |

人格

| | | | |
|------|---|-------------------------------|-------------------------------|
| PH52 | 現代青年の「悩めなさ」についての研究 ー尺度作成の試みー | 春日井市民病院 愛知教育大学 | ○鳥本 大 貴 上 田 琢 哉 |
| PH53 | 性差及び出生順が援助要請の阻害要因に与える影響 ー利益コストに着目してー | 上越教育大学大学院 上越教育大学 | ○堀江 奈 央 高 橋 知 己 |
| PH54 | 自己の変異性に関する信念と適応 ー理想自己と現実自己の差異との関連からー | 東京家政大学大学院 東京家政大学 慶應義塾大学 | ○笠原 千 秋 平 野 真 理 鹿 毛 雅 治 |

臨床

| | | | |
|------|--|--|--|
| PH55 | 児童養護施設心理職を対象とする補完的教育プログラムの実践 (2) ー施設心理職としての自己効力感と職務ストレスの変化ー | 佐賀大学 児童養護施設大村報徳学園 | ○若本 純 子 福 永 真理奈 # |
| PH56 | 自分を表現できない高校生が学校に適応していくまでの一過程 ー学校側とSCとの協働を中心にー | 医療法人さつき会 中川クリニック | 金 子 信 一 |
| PH57 | 2016年B県調査による高等学校教師のメンタルヘルス (1) | 上越教育大学 秋田大学 足利工業大学 上越教育大学 上越教育大学 | ○奥村 太 一 北 島 正 人 森 慶 輔 宮 下 敏 恵 増 井 晃 |
| PH58 | 2016年B県調査による高等学校教師のメンタルヘルス (2) | 秋田大学 上越教育大学 足利工業大学 上越教育大学 上越教育大学 | ○北村 正 人 奥 島 太 一 森 慶 輔 宮 下 敏 恵 増 井 晃 |
| PH59 | 2016年B県調査による高等学校教師のメンタルヘルス (3) ーB県C市小中学校調査、A県高等学校調査との比較ー | 足利工業大学 上越教育大学 秋田大学 上越教育大学 上越教育大学 | ○森 慶 輔 奥 村 太 一 北 島 正 人 宮 下 敏 恵 増 井 晃 |

特別支援

| | | | |
|------|---|--------|---------|
| PH60 | 聴覚障害児童に対する日記指導における指導内容の特徴 ー低学年在籍児童に対する指導の分析ー | 東北福祉大学 | 茂 木 成 友 |
|------|---|--------|---------|

| | | | |
|------|---|-----------------------|---------------------|
| PH61 | 高等学校と特別支援学校高等部の位置的統合による教育効果 ー静岡県の高校生へのアンケート調査からー | 静岡県立清水南高等学校・ 同中等部 | 杉 木 充 |
| PH62 | 計算の流暢性指導における行動に着目したアセスメント・指導の事例的検討 | 筑波大学大学院 筑波大学 | ○真名瀬 陽 平 野 呂 文 行 |
| PH63 | 小学生における障害理解の程度に関する研究 ー障害児者に対する態度や認識を中心としてー | 北海道教育大学大学院 北海道教育大学 | ○田名部 沙 織 細 谷 一 博 |

学校心理学

| | | | |
|------|--|---|---|
| PH64 | 中学生・高校生の教師との関係と学校適応感との関連 | 東京大学教育学部 附属中等教育学校 | 石 橋 太加志 |
| PH65 | 「いじめ」による仲間からの排斥が将来展望に及ぼす影響 ー高校生を対象とした調査からー | 中部大学 | 三 島 浩 路 |
| PH66 | 定時制高校における学校への適応の検討について ー全日制高校との比較からー | 北海道大学 常葉大学 北海道大学 | ○渡 邊 仁 太 田 正 義 加 藤 弘 通 |
| PH67 | 保護者の学校への苦情に関する調査研究 ー「クレーム」と「愚痴」という視点からの検討ー | 東京学芸大学大学院 東京学芸大学 東京農工大学 東京学芸大学 | ○日 下 虎太朗 橋 本 創 一 三 浦 巧 也 杉 岡 千 宏 |
| PH68 | 教師の指導行動が小学生の援助要請に対する意識に及ぼす影響 | 兵庫教育大学大学院 兵庫教育大学 | ○浅 原 修 一 秋 光 恵 子 |
| PH69 | 中学生の部活動所属の有無や参加態度と生徒のソーシャルスキルの活用との関係 一部活動への意欲、コミットメントの度合に注目してー | 早稲田大学大学院 早稲田大学 | ○河 村 明 和 河 村 茂 雄 |
| PH70 | 中国におけるいじめ・体罰・虐待の関連性 一幼・小・中・高の教師へのインタビューの質的分析ー | 名古屋大学大学院 大阪教育大学 | ○陳 佳 怡 謝 偉 俊 # 戸 田 有 一 |
| PH71 | 教育実習における心理的ストレス反応に関する研究 ー居場所感と教育実習ストレスの及ぼす影響ー | 鹿児島大学大学院 鹿児島大学 | ○迫 田 一 城 今 林 俊 一 |
| PH72 | 教師における継承的指導実践を促進するコンサルテーション・プログラム項目の検討 ー教頭の具体的機能に着目したコンサルテーション・プログラムー | 大阪府柏原市立玉手中学校 大阪教育大学 | ○井 原 啓 裕 牧 郁 子 |
| PH73 | メンタライゼーション能力の高さが日常的フォーカシング態度および自己調整学習に及ぼす影響 | 大阪大学大学院 大阪大学大学院 | ○増 田 優 子 三 宮 真智子 |
| PH74 | 小中学生における登校への動機づけ尺度の開発 ー(1) 項目選定および信頼性・構成概念妥当性・併存的妥当性の検討ー | 名古屋大学 信州大学 | ○五十嵐 哲 也 茅 野 理 恵 |
| PH75 | 小中学生における登校への動機づけ尺度の開発 ー(2) 交差妥当性および基本統計量の検討ー | 信州大学 名古屋大学 | ○茅 野 理 恵 五十嵐 哲 也 |

測定・評価・研究法

| | | | | | | |
|------|--------------------------------------|-------------------|---------|--------|--------|--------|
| PH76 | 学力の発達を追跡するための垂直尺度化について | 東北大学 東北大学 | ○澁 柴 | 谷 山 | 拓 巳 | 直 |
| PH77 | 高校生の理科学習に対する志向性を測定するアンケートの開発 | 岐阜大学 岐阜大学 | ○佐 吉 | 川 澤 | 遼 寛 | 磨 之 |
| PH78 | 自閉スペクトラム症傾向と粗暴行為との関連 —非行少年を対象として— | 名古屋大学大学院 名古屋大学 | ○山 河 | 脇 野 | 望 荘 | 美 子 |

発表者索引

注) 準企基：準備委員会企画基調講演，準企小：準備委員会企画小講演，準企シ：準備委員会企画シンポジウム，研企シ：研究委員会企画シンポジウム，研企チ：研究委員会企画チュートリアルセミナー，ハ防企：ハラスメント防止委員会企画講演，J：自主企画シンポジウム，P：ポスター発表，を指す。なお，ポスター発表の太字は責任発表者を表す。#印は会員以外の登壇者，連名発表者を示す。

— あ —

相 川 充
PD46, PE52, PE76, PE77, PH50

相 澤 直 樹 PD58, PD62

相 澤 雅 文
PC06, PC07, PC08, PC09, **PC10**

會 津 律 治 **PA16**

相 羽 大 輔 **PE65**

青 木 翔 子# PE36

青 木 直 子 JB05, **PD17**

青 山 郁 子 JF06, JG04

青 山 征 彦 JH03

青 陽 千 果 **PG62**

赤 木 和 重 JG05

赤 澤 淳 子 **PC20**, PD80

縣 拓 充 **PD23**

赤 松 大 輔 PB77, **PF28**

秋 田 喜代美 JC02, PE75, PG46

秋 場 大 輔 JB04

秋 光 恵 子
PF75, PG42, PH68

秋 山 史 子 **PF46**

浅 井 淳 **PC41**, PF26

浅 田 匡 PH37

浅 野 良 輔
JD02, PG48, PG49, **PG50**

浅 原 修 一 **PH68**

芦 田 祐 佳 **PE27**

足 立 邦 子 **PA05**

足 立 匡 基# JD05

安 達 真由美# PE08

穴 水 ゆかり **PF05**

安 念 保 昌
PB14, **PB15**, PF53

油 川 さゆり **PF16**

阿 部 晋 吾 PA53

天 井 響 子 **PF08**

天 谷 祐 子 **PC54**

綾 部 宏 明 PF81, **PG30**

新 井 庭 子# JF01

新 井 紀 子# JF01

新 井 肇 JG01

荒 尾 真 一
PE19, PG37, PH18

荒 木 紀 幸 JG02

荒 木 穂 積 JH04

荒 牧 良 祐 **PH37**

有 門 秀 記 JA05

有 馬 比呂志 PE39, PG26

有 元 典 文 PE13, PE14,
PE15, PH41, PH42, PH43

粟 津 俊 二 **PD31**

安 藤 明 伸# PB22

安 藤 寿 康 JF05, **PA20**

安 藤 史 高 **PB72**

安 藤 舞 **PH46**

安 藤 美華代 PG04

— い —

飯 島 典 子 PC06, **PC07**,
PC08, PC09, PC10, PH09

飯 島 有 哉 **PF57**

飯 村 周 平 **PF02**

家 島 明 彦 JF06

五十嵐 敦
JE03, PG14, PG15

五十嵐 哲 也 **PH74**, PH75

伊 川 美 保 **PF81**

生 井 裕 子 **PH24**

池 志 保 **PG01**

池 上 慎 平# PG10

池 上 真 平# PG09

池 上 知 子 研企シ1

池 田 賢 司 PG33

池 田 琴 恵 **PC75**

池 田 智 子 **PB56**

池 田 慎之介 **PA42**, PA43

池 田 七 海 **PG07**

池 田 満 PC75, **PF51**

池 田 幸 恭 **PD09**

猪 澤 歩 PG70

伊 澤 幸 代 **PF30**

石 井 あゆみ PC21, **PH17**

石 井 慎一郎 **PF33**

石 井 僚 PD29, **PE11**

石 上 浩 美 JC03, **PE17**

石 川 国 広 **PB61**

石 川 健 介
PD61, PF74, PG47, PG54

石 川 信 一 PD29, PE11

石 川 隆 行 JG02, **PD02**

石 川 真 **PB51**

石 川 美智子 JE04, PB71

石 川 有 香# PC41

石 毛 順 子 **PC40**

石 田 佳 織# PG46

石 田 拓 矢 **PA18**

石 田 信 彦# PE23

石 田 正 寿 **PH26**

石 田 靖 彦 **PB73**

石 田 有 理 PH12

石 橋 慶 一# PG43

石 橋 太加志 **PH64**

石 橋 裕 子 PB66, **PB67**

石 橋 優 美
JE01, JG03, PH39, **PH40**

石 橋 玲 子 **PB23**

石 本 雄 真 JG04, **PB59**

伊 尻 正 一 **PB68**

井 芹 ま い **PF55**

磯 和 壮太朗 **PF56**

伊 田 勝 憲 JE05, **PB38**

市 川 哲 JA05

市 川 伸 一 JA04, JD01

市 川 真帆子# PB58

市 川 洋 子 PB25

市 村 美 帆# PB34

市 本 早 香 **PG24**

一 柳 智 紀 PD27
 井 手 裕 子 PC15
 伊 藤 亜矢子 JA03
 伊 藤 嘉奈子 PF66
 伊 藤 康 児 PE03
 伊 藤 貴 昭 JD01
 伊 藤 崇 PC22
 伊 藤 崇 達 準企シ2,JB04
 伊 藤 拓 PH49
 伊 藤 忠 弘 PB49
 伊 藤 俊 一 PA38
 伊 藤 奈 央# PF36
 伊 藤 尚 枝 PH19
 伊 藤 大 幸 JD05
 伊 藤 美奈子
 JG01,PC57,PC58,PC59
 伊 藤 康 嗣 JD03
 伊 藤 優 PE31
 伊 藤 裕 子 研企シ3
 伊 藤 ゆりの# PA04
 稲垣(藤井)勉 PF20
 稲 田 拓 也 PG38
 稲 田 達 也 PF71
 犬 塚 美 輪 JB01,JF01
 井 上 裕 光
 JE03,PG14,PG15
 井 上 弥 PF48
 猪 原 敬 介 PC17,PF79
 井 原 啓 裕 PH72
 荊 木 まき子 PC74
 今 井 順 一# PG81
 今 枝 史 雄# JC05
 今 枝 美 月# PA80
 今 林 俊 一
 PB66,PB67,PE63,PH71
 今 村 慎 吾 PA69
 岩 佐 康 弘 PH01
 岩 崎 俊 俊# PA48
 岩 澤 美 咲 PH32
 岩 城 美 良 PH51
 岩 田 美 保 PC13
 岩 本 知 絵 PH31

— う —

宇 井 美代子 PB34
 宇 惠 弘 PB57
 上 岡 紀 美# PB05
 植 木 祐 介# PC42,PC43
 植 阪 友 理
 研企シ2,JA04,JC01,PG19

上 田 紋 佳 PC17
 上 田 琢 哉 PH52
 上 田 敏 丈
 PC62,PF64,PF65
 上 野 淳 子 PB53,PB54
 植 原 俊 晴 PE25
 植 松 公 威 PB17
 魚 崎 祐 子 JE02,PB41
 宇佐美 慧 準企チ
 氏 家 達 夫 準企小,準企シ3,
 JE03,PG14,PG15
 牛 尾 憲 治 PG53
 牛 久 香 織 PD21
 臼 井 伸之介# PG29
 宇 田 光 JA05
 内 田 香奈子
 JF02,PA78,PA79

内 田 千 春 PB60
 内 田 照 久 PC81
 内 山 伊知郎 JG02
 内 山 有 美
 JF02,JG02,PD14,PD15
 内 海 緒 香 PE56
 宇 野 正 明 PG41
 梅 崎 高 行 PA46,PA49
 梅 本 貴 豊
 JA01,JB05,PD36
 浦 上 昌 則 PB19
 浦 上 萌 PF35
 浦 野 裕 司 JD04

— え —

江 崎 由里香 PF06
 江 角 周 子 PA61
 枝 廣 和 憲 PA58,PC67
 越 中 康 治 PF64,PF65
 衛 藤 裕 司 PF63
 蛭 名 正 司 PA44,PA45
 遠 藤 育 男# PC35
 遠 藤 利 彦 JC01
 遠 藤 寛 子 PE71
 遠 藤 美 行 PH38
 遠 藤 志 乃 PF19

— お —

及 川 智 博 PG17
 及 川 昌 典 JB01
 尾 池 晴 香# PG02
 王 巖 崧 PF69

大 石 超 PG77,PG78
 大 内 善 広 PC22,PD07
 大 内 里 紗 PE13
 大川内 鉄 二# PF33
 大 岸 通 孝 PA81
 大久保 智 生
 準企シ4,JA03,JG05,PD47
 大久保 義 美 PA73
 大久保 諒 準企シ3
 大河内 佳 浩 PG81
 大 崎 理 乃# JC02
 大 澤 久 乃 PF12
 大 島 みずき PA04
 太 田 絵梨子 PA42,PA43
 太 田 仁 PA53
 太 田 正 義

PC60,PE73,PH66
 太 田 麻祐子# PF61
 大 嶽 さと子 PA07,PD65
 大 谷 和 大
 JB05,PD29,PE11
 大 谷 哲 弘 PA62,PC72
 大 津 悦 夫 JE05
 大 津 嘉代子 PC42,PC43
 大 対 香奈子 PG70
 大 塚 貴 之 PB62
 大 塚 雄 作 ハ防企,JC01
 大 坪 治 彦 PG11,PG74
 大 西 彩 子

PC53,PE72,PG05
 大 西 範 英# PB33
 大 西 真樹男 PG13
 大 西 美香子 PE03
 大 西 理 加 PF23
 大 庭 茂 美 PA30
 大 橋 洸太郎 PF80
 大 宮 明 子 PH12
 大 山 智 子 PD55
 岡 真裕美 PG29
 岡 崎 由美子 PG04
 岡 沢 秀 彦# PC64
 小笠原 千 明# PE31
 岡 嶋 一 郎 PH28
 岡 田 努 PA56
 岡 田 有 司

JA03,PF13,PF14,PF15
 岡 田 涼 JB05,JG05
 岡 花 祈一郎# PF64,PF65
 岡 本 弘 子 PC49
 岡 本 泰 弘 PB78
 小 川 一 美 PF49

小川圭子 PC44,PC45
 小川修史# JB02
 小川亮 PA31
 小川内哲生 PB03
 沖原総太 JA05,PC68
 荻原はるみ PC62
 奥田亮# PA37
 奥田裕紀 PC03
 奥西有理 PF27
 奥野誠一 PC61
 奥村太一

PH57,PH58,PH59

小椋佐奈衣 PE08
 小椋たみ子 PB02
 小倉正義 準企シ1,PG73
 尾崎幸謙# JF01
 尾崎仁美 PB28,PB35
 長田真人 PD62
 小澤郁美 PF35
 小沢日美子 PE01
 小澤靖枝 PB56
 小澤康幸# PC49
 押尾恵吾
 JA04,PE41,PF39,PF40

小嶋玲子 PA72
 小田切歩
 JG03,PH39,PH40
 落合洋子# PB01
 小野淳 JB02
 小野健太郎 PE32
 小野昌彦 PA61
 小野美和 PC38
 小野田亮介 PD41
 小山義徳 JH01
 織田涼 PA36

— か —

柿沼亨祐 PG33,PG34
 柿原直美 PD28
 鹿毛雅治
 準企シ2,JB01,PH54
 懸田孝一 PC29
 笠井清登# 準企シ4
 笠原千秋 PH54
 笠原正洋 JA02
 風間文明 PE53,PE54
 風間みどり PG03
 梶井芳明
 PA19,PE32,PG22
 梶原和子# PD51

梶原直樹 PD51
 鹿嶋達哉 PB10
 霞麻紗子# PD01
 片瀬拓弥 PD70
 勝浦真仁 PC62
 勝見愛湖 PF37
 桂志保# PD63
 桂川泰典 JD06,PF57
 桂田恵美子 PC20,PD80
 加藤陽子 JD06,PG67
 加藤慧 PB81
 加藤尚吾# PC49
 加藤大樹 PD68
 加藤弘通

PC60,PE73,PH66

加藤みずき
 PF39,PF40,PG44,PG45
 加藤靖佳 PG80
 加藤由樹 PC49
 加藤悠二# 研企シ3
 加藤幸久 PE03
 門原眞佐子 PH14
 金井篤子 PH49
 金山健一 JF06
 金子恵美子

JG01,PC57,PC58,PC59

金子楓 PG59,PH48
 金子功一 PD44,PD45
 金子重美 PF58
 金子信一 PH56
 金子智栄子 PD44,PD45
 金子智昭
 PD44,PD45,PD74
 金子晴恵# JD04
 金子一史 準企シ1
 金子雅臣# ハ防企
 金子正弘 PG25
 金子泰之

PF13,PF14,PF15

金築智美 PE61
 金築優# PE61
 金網知征 JF06
 金網祐香 PE07
 鎌田次郎 PB27
 鎌田陽世 PC44,PC45
 鎌田雅史 PC77
 神沢美波# PD01
 上西秀和# PG19
 上村英男# PG43
 神谷哲司 JH05,PC11
 亀井美弥子 PA15

亀田秀子 PD49
 亀山洋光 PD52
 亀山麻衣子# PD52
 賀屋育子

JF02,PA78,PA79

茅島路子 PB34
 唐澤真弓 PG03
 輕部雄輝 PE16
 河合輝久 PE58
 河合優年 PH11
 川上正浩 PA37
 河崎美保 PC35
 川嶋健太郎 PA09,PB12
 川島哲 PD71
 川島万由子 PH27
 川副延生# PB58
 川田学 PG17
 川田裕次郎 PD60
 川野敬子 PB27
 川野辺令恵 JE04
 川端壮康 PH02
 川畑良裕# PF74
 川俣智路 JC04,JH03
 河村明和 PH69
 河村昭博 PB69
 河村咲希 PG61
 河村茂雄 JD03,PB16,
 PB69,PD64,PF18,PF55,PH69
 川本大史# PE47
 川本哲也# JF05
 神崎真実 JH03
 神田まほろ PG11
 菅野純 JD06

— き —

木川智美 PC05
 木澤利英子 PH23
 岸俊行 PC73
 岸野麻衣 JD01
 北島正人
 PH57,PH58,PH59
 北原靖子 PA09,PB12
 吉川徹# 研企シ1
 鬼頭昌也 PE71
 木野和代 PB60
 木下孝司 JH04
 木下知子# PE68
 木下弘基# PC60
 木下雅博 PE72
 木下まゆみ PD25

岐 部 智恵子 PF77,PF78
 木 村 聡 美# PE20
 木 村 直 子 PA75
 木 村 美奈子 JE02
 金 明 汶 PE70

— く —

日 下 虎太郎 PH67
 楠 見 孝 PA24,PF81,PG32
 樟 本 千 里 PB05
 沓 澤 糸# PF79
 工 藤 弘 PE67
 工 藤 与志文 JE01,PB44,PB45
 久 保 勝 利# PA23
 久保田 祐 歌# PH20
 窪 田 由 紀 準企シ1,PD78,PD79,PF68
 熊 谷 圭二郎 JD03,PH22
 久 米 瑛莉乃 PE74
 倉 元 直 樹 PA82
 栗 原 慎 二 PD75
 栗 原 ひとみ PA13,PF04
 栗 山 和 広 JG03,PE18
 栗 山 直 子 PB31
 車 田 梓 PE35
 黒 石 憲 洋 PC47
 黒 川 雅 幸 PC51,PE55
 黒 住 嶺 PD46
 郡 司 菜津美 PD20

— け —

解 良 優 基 PE26,PG39,PG40
 元 笑 予 PE51

— こ —

胡 琴 菊 PD22
 小 池 はるか PC48
 小 泉 嘉 子 PH09
 小 泉 隆 平 PB77
 小 泉 令 三 JF03,PA68,PF67
 コウ ケイホウ PH35
 高 向 山 PA46,PA49
 江 聚 名 PG33
 向 後 千 春 PC36,PF30

高 坂 康 雅 PF13,PF14,PF15
 香曾我部 琢 JH05,PE02
 河 内 晴 美 PA72
 河 野 荘 子 準企シ4,PH78
 古 賀 裕 美 PC57,PC58,PC59

古 川 堅太郎# PD63
 小 坂 浩 隆# PC64
 腰 川 一 恵 PA67
 小 島 淳 一 PE37
 小 島 淳 子 PG72
 小 嶋 佳 子 PG21
 小 菅 清 香 PE09
 小 関 俊 祐 JD06
 小 平 英 志 PB72
 小 高 恵 PC01
 兄 玉 佳 一 PE35
 兄 玉 裕 巳 PB75
 兄 玉 真樹子 PD54
 後 藤 和 史 PG60
 後 藤 さゆり# PF36
 後 藤 靖 宏 PA17
 後 藤 由季奈# PG22
 後 藤 玲 奈# PB29
 小 西 章 典# PC41
 小 西 聖 子# ハ防企
 小 沼 豊 PB46
 小 林 恵 子# PD72
 小 林 佐知子 PE60
 小 林 小夜子 PA70
 小 林 矩 子# PG59
 小 林 至 道# PF36
 小 林 寛 子 PC28
 小 林 真 PA66
 小 林 美佐子 PD76
 小 林 由美子 JG01
 小 林 由 子 PB36
 小 松 和 佳 PF07
 小 湊 真 衣# PA49
 古 村 健太郎 PD50
 小 村 俊 平# JC02
 米 田 英 嗣 PC64
 小谷田 照 代# PC17
 小 山 聡 子 PB76,PF70
 紺 田 広 明# PC01
 近 藤 和 也 PD67
 今 野 紀 子 PC32,PD83

— さ —

齋 田 裕 香# PB52
 齊 藤 彩 PF03
 齋 藤 彩 乃 PF59
 斎 藤 和 志 PF49
 齊 藤 誠 一 準企シ4
 齊 藤 貴 浩 PB31
 斎 藤 俊 則# PC47
 齋 藤 日向子# PD01
 斎 藤 富由起 JB02
 齊 藤 勝 JD03
 齋 藤 謁 PA59
 齋 藤 祐 子# JA02
 齋 藤 嘉 則 PB33
 酒 井 厚 PB08
 坂 井 敬 子 PC12,PC52
 酒 井 智 弘 PH50
 酒 井 涉 PC79
 榑 慶太郎 PE63
 榑 美知子 PD29,PE11
 坂 田 浩 之# PA37
 坂 原 泰 子 PD61
 坂 本 篤 史 JC02
 坂 本 美 紀 JG03,PF21
 坂 本 佑太朗 PG79
 坂 本 理 香 PE57
 相 良 順 子 PA40,PB32,PF37
 佐 川 遼 磨 PH77
 阪 脇 孝 子 PC42,PC43
 崎 濱 秀 行 PF43,PF44,PF45
 佐久田 祐 子# PA37
 櫻 井 茂 男 PG28
 櫻 井 登世子 PA55
 迫 田 一 城 PH71
 佐々木 和 義 PA64
 佐々木 宏 之 PA13,PF04
 佐々木 恵 子# PH11
 佐 藤 梓 PB36
 佐 藤 翔 翔# PC13
 佐 藤 賢 輔 PF36
 佐 藤 純 PE16
 佐 藤 誠 子 PD32
 佐 藤 貴 紀# PF33
 佐 藤 達 哉 JH05
 佐 藤 那 美 PH21
 佐 藤 友 美 PE43,PE44,PE45
 佐 藤 奈 月 PG76

佐藤真奈美# PH02
 佐藤有耕 PH08
 真田稜人 PD75
 澤田匡人 PD02
 三宮真智子
 PD38,PF56,PH30,PH73

— し —

椎名乾平 PB82
 James, Gross J.# PE49
 塩谷京子# PC17
 重根美香 PF67
 滋野井圓 PF74
 司城紀代美 PF38
 品田ゆき子 PG69
 篠ヶ谷圭太 JB04,PH23
 篠田麻佳 PG05
 篠原ひとみ# PG61
 柴里実 JA04
 芝崎美和 PA02,PA03
 芝崎良典 PA02,PA03
 柴田一匡 準企シ1
 柴田利男 PB55
 柴田展人# PD60
 柴山直 JC01,PH76
 渋井和子# PD42,PD43
 澁谷拓巳 PH76
 島弘
 PE06,PG06,PG11,PG74
 嶋崎栄一 PE29
 島田育生# PD63
 島田英昭 PB39
 嶋田洋徳 PF59
 嶋田未菜美 PG74
 島貫静 PC24
 清水健司 PC56
 清水奈名子# PD02
 清水寿代 PC56
 清水安夫 PH14
 志村拓弥 PE15
 下岡奈央# PB73
 下村綾菜# PA70
 霜村麦# PC61
 謝偉俊# PH70
 社本歩 PH43
 首藤敏元 PB05,PD55
 肖雨知 PF10
 庄司正実# PA18
 庄司一子 PF69
 東海林麗香 JG05,PD72

荘島宏二郎 準企チ
 白井俊介# PD63
 白木久美子 JE04
 白鳥美香 PG77,PG78
 白水始 JC02
 城間祥子 PB40
 新谷和代 PB13
 進藤聡彦 JG03
 神野潔# JB03
 新原将義 PH20

— す —

末松加奈 PB18
 菅井篤 PG23
 菅原真悟# JF01
 菅原宏明 PG28
 菅原ますみ
 JD02,PB08,PF03
 杉浦淳吉 研企シ1
 杉江征 PE16
 杉岡千宏 PH67
 杉岡正典# PF68
 杉木充 PH61
 杉澤武俊 JH02
 杉本明子 PA65
 杉本貴代 PE75,PG46
 杉本奈月 PA21
 杉本英晴
 JA01,PB19,PE43,PE44,PE45
 杉山佳菜子 PD11
 鈴木亜由美 PD03
 鈴木悦子 PA40,PB32
 鈴木国威# JF05
 鈴木豪 JE01
 鈴木純子 PE04
 鈴木俊太郎# PB39
 鈴木隆夫 PF38
 鈴木高志 PD29,PE11
 鈴木智子 PC16
 鈴木誠 PG36
 鈴木賢男 PC37
 鈴木水季 PF77,PF78
 鈴木美樹江 PD68
 鈴木由美
 PB62,PF31,PF71
 鈴木靖 PD10
 角南なおみ PD73

— せ —

瀬尾美紀子 JB04,JG03
 関智子 PB61
 関陽子 PC80
 関口貴裕 PC34
 関口美優香 PF52
 関口雄一 PA14
 関原良平 PH41
 関山徹 PA69
 瀬戸淳子 PB04
 瀬戸美奈子 PH49
 瀬戸山美和# PF33

— そ —

相馬誠一# JG01
 染谷芳明# PA20

— た —

太子のぞみ# PG29
 大坊郁夫# 準企シ2
 平真木夫 PB22
 高史明# 研企シ1
 高岡しの PG70
 高垣マユミ PC50
 高城佳那# PG52
 高木玉江 PH06
 高木浩人 PB48
 高木亮 PH14
 高澤健司 PC55
 高嶋幸太# PF80
 高田純 PH14
 高田治樹 PG09,PG10
 高田理衣 PB14,PB15
 高綱睦美 PB19
 高野慶輔# 準企チ
 高野了太# PF81
 高橋健太 PF53
 高橋淳一郎 PC70
 高橋千枝
 PC06,PC07,PC08,PC09,PC10
 高橋知己 PF73,PG69,
 PH31,PH32,PH33,PH53
 高橋南海子 PE05
 高橋登 PB07,PG08
 高橋陽香 PF53
 高橋麻衣子 PC33
 高橋美保 研企シ2
 高橋有希子 PE20

高 平 小百合 JE02
 高比良 美詠子 PE43, PE44, PE45
 高 本 真 寛 PE46
 高 山 智 PA60
 滝 沢 龍# JF05
 田 口 久美子 JE05
 田 口 雅 徳 PD04
 竹 内 康 二# PE42
 竹 内 利 光 PD67
 竹 内 謙 彰 JE02
 竹 尾 和 子 JB03
 竹 下 亜 美# PD01
 竹 下 浩 PC72
 竹 田 千佐子# PH35
 竹 橋 洋 毅 PD53, PG31
 竹 元 雅 也 PF60
 多 鹿 秀 継 PA32, PD34
 田 実 潔# JB02
 田 島 充 士 PC19
 田 島 真沙美 PC61
 多 田 幸 子 PG02
 橘 春 菜 JE01, PG20
 橘 廣 PB06
 辰 巳 友 唯 PF31
 楯 誠 PA12
 田 中 晶 子# JA02
 田 中 あゆみ 準企シ2, PD29, PE11, PG33, PG34
 田 中 瑛津子 JH01
 田 中 健史朗# PD36
 田 中 宏 二 PE74
 田 中 江 扶# PB39
 田 中 敏 PA57
 田 中 周 子# JA02
 田 中 孝 典# PF61
 田 中 琢 也 PF73
 田 中 俊 也 PE70
 田 中 光 PE39, PG26
 田 中 優 PC82
 田 中 善 大 PC68
 田名部 沙 織 PH63
 田 邊 雄 也 PH33
 谷 伊 織 PA07, PC54, PD65
 谷 芳 恵 PD66
 谷 口 あ や PG16
 谷 向 みつえ PB27, PC20, PD80
 谷 村 宏 子# PA75
 谷 本 薫 彦 PH18

多根井 重 晴 PH45
 種 村 文 孝# PH08
 田 幡 憲 一# PB22
 太 幡 直 也 PE50
 玉 井 颯 一 PG48, PG49, PG50
 玉 木 宗 久 PE66
 田 村 隆 宏 PA75
 田 村 美 恵 PH16
 反 中 亜 弓 PF61
 — ち —
 茅 野 理 恵 PH74, PH75
 中 條 和 光 PE39, PG26
 陳 佳 怡 PH70
 — つ —
 塚 田 初 美# PB65
 塚 本 恵 信 PE28
 辻 義 人 PC26
 辻 谷 真知子 PE75, PG46
 筒 井 雄 二# 準企シ3
 都 筑 学 PF13, PF14, PF15
 椿 田 貴 史 PB58
 椿 本 弥 生 PB42, PB43
 津波古 澄 子# JB03
 坪 島 佑 季 PG73
 — て —
 出 口 拓 彦 PC46
 寺 尾 敦 JH02
 寺 尾 尚 大 PA80
 寺 田 未 来 JC03, PE47
 寺 本 妙 子 PE12
 — と —
 湯 立 PD46, PG55
 堂 坂 更夜香 PF30
 登 藤 直 弥 準企チ, JF01
 東 平 彩 亜 PF24
 當 山 明 華 PF20
 遠 矢 幸 子 PA47
 遠 山 孝 司 PA76
 時 岡 晴 美# JG05
 時 任 隼 平# JC02
 徳 岡 大 PC22, PE26

徳 田 克 己 JC05, PD48, PE64, PF22, PG58
 徳 珍 温 子 PC21, PH17
 戸 田 有 一 JF06, JH05, PH70
 刀 瀬 豊 PG66
 利根川 明 子 JA03
 利根川 智 子 PB05
 登 張 真 稲 PD55
 土 肥 紳 一 PC32, PD83
 富 田 幸 子 PF72
 富 田 英 司 PG24, PG27
 富 永 敦 子 PB42, PB43
 富 山 尚 子 PB21
 塘 利枝子 PH07
 外 山 美 樹 準企シ2, JB05, PB75, PD46, PD77, PF10, PF50, PG55
 豊 沢 純 子 PD53, PG31
 豊 田 弘 司 PA33, PH45
 鳥 居 深 雪 PD63
 鳥 本 大 貴 PH52
 Drottz-Sjöberg, Britt-Marie# 準企小, 準企シ3
 — な —
 名 尾 典 子 PD55
 仲 真紀子 JA02
 中 井 大 介 JF03, PE55
 中 井 宏 PG29
 永 井 明 子 JF02
 永 井 曉 行 PE10
 永 井 智 PD59
 永 井 弘 人 PG63
 永 井 靖 人 PD08
 中 川 和 亮# JC03
 中 川 華 林 PF39, PF40
 中 川 正 宣# PG19
 永 作 稔 PB20
 長 澤 誠 PD19
 中 島 奈保子 PC78, PD14, PD15
 中 島 久 樹# PH24
 中 島 淑 子 PE18
 中 島 梓# JC03
 中 島 由 佳 PC76
 中 田 明 香 PA63
 中 田 英利子 PH36
 中 田 順 平# PA81
 永 田 雅 子 PA07, PD65

永谷孝代# JH04
 中西さやか# PF64,PF65
 中西良文 JA01
 中野啓太 PE36
 中野淳 PF75
 中野真悟 PG75
 中野美香 PD26
 中間玲子 PF72,PH05
 長峯聖人 PD46,PF50
 中村恵子 PG42
 中村晋介# PG01
 中村真# PD02
 中村雅子 PA54
 中村実央# PF57
 中村光伴 PB24
 中本敬子 PC22
 仲谷佳恵# PG19
 中谷素之 準企基,準企シ2,
 JB04,JE01,PE34,
 PF19,PF47,PG20
 長谷守紘 JE04,PH14,PH15
 中山晃 PB65
 中山誠一 PE22
 中山留美子 PG39,PG40
 名越斉子 JC04
 奈須正裕 JB01
 奈田哲也 PE24
 名取洋典 PC25
 濤岡優# PC60
 奈良里紗 PE65
 成田亜希 PE38
 難波久美子 PH11

— に —

新山真奈美 PD33
 西幸代# 研企シ2
 西岡陽子 PE69
 西垣悦代 PA29
 西垣順子 PB30
 西片裕 PE23
 西川ほたか# PG60
 西口利文 JA05
 西田敬志 PD60
 西田有希 PF74,PG47
 西館有沙 JC05,PD48,PF22,PG58
 西谷寿 PC31
 西野泰代 JF04,PC69
 西原明法# PB31

西原弘明# JE05
 西村実穂 PD48,PE64,PG58
 西元直美 PH10
 西山慧# PF81
 西山久子 JG01,JH03
 二宮克美 JE03,PG14,PG15

— ね —

根ヶ山光一# JB03

— の —

野口直樹 PH30
 野口裕之 JC01,JF01,PC79
 野崎優樹 PE49
 野澤義隆 PD07
 野田理世 PD53
 野田満 PB01
 野中陽一朗 PD30,PF07
 野邑健二# PC63
 野村朋 JH04,PB63
 野本玲子 PF25
 野呂文行 PH62

— は —

バーンズ亀山静子 JC04
 裴英洙# PG52
 芳賀明子 PA67,PD42,PD43
 萩原康仁 PC22,PD07,PD81

朴聖希 PG08
 橋村晴美 PE28
 橋本巖 PA21
 橋本創一 PH67
 橋本貴充 準企チ,PC81
 橋本憲尚 PA22
 橋本博文 PF11
 蓮見元子 PA09,PB12
 長谷川省一# PF24
 長谷部育恵 PG32
 畠山寛 PH34
 畠山美穂 PC14
 秦野悦子 PB04
 服部環 PA80
 馬場正太郎 PC18
 馬場久志 JE05

羽瀨由子 JA02
 濱口佳和 PA08,PC61,PE07,PH48
 濱田祥子 PC66,PF64,PF65
 浜田恵# JD05
 浜名真以 PA06,PH04
 浜辺直子# PB02
 林亜希恵 PE34
 林敬子 PG70
 林創 JH02
 林幹男 PD78,PD79
 林美都子 PD82
 林雄介# PB34
 林幸範 PB66,PB67
 林龍平 PF43,PF44,PF45

速水敏彦 PA23
 原口和博# JD06
 原田恵理子 JF04,PB70
 原田克己 PE68
 原田奏江# PD01
 原田敬文 PF32
 原田知佳 JD02,PG48,PG50

原田雅也# PD78
 原田増廣 PF32
 原田宗忠 PE55
 原田勇希 PG36
 伴浩美 PA25,PE80
 半澤礼之 JA03

— ひ —

東優子# 研企シ3
 日鴻淳子 PD16
 久坂哲也 PD24
 尾藤ヨシ子 PD69
 馮蒼竹# PE51
 兵藤宗吉 PA41,PF34
 玄正煥# PA49
 平井啓# PE62
 平井純子 PB02
 平石賢二 準企シ4,PC04
 平岡恭一 PD39
 平岡大樹# PF81
 平川久美子 PC06,PC07,PC08,PC09,PC10
 平川昌宏 PD05
 平澤傑# PD24
 平嶋宗# PB34

平 田 俊 治# JG05
 平 田 乃 美 PB51
 平 野 真 理
 PF77,PF78,PH54
 平 林 秀 美 PG03
 平 山 る み PC27
 広 沢 正 孝# PD60
 廣 澤 満 之 PC65
 廣 瀬 真喜子 PF64,PF65
 樋 渡 孝 徳
 準企シ1,PD78,PD79

— ふ —

深 沢 和 彦 PD64
 深 谷 達 史 JA04,JD01,PG19
 深 谷 優 子 PB25
 福 井 義 一 PB76,PF70
 福 井 龍 太# JA05
 福 嶋 ゆ い# JC03
 福 住 紀 明 PD29,PE11
 福 田 彩# PF51
 福 田 佳 織 PH13
 福 田 麻 莉
 JA04,PA42,PA43,PF17
 福 田 由 紀 PA35
 福 富 隆 志 PF29
 福 留 広 大 PG56
 福 永 真理奈# PH55
 福 丸 奈津子 PE30
 福 元 理 英# PC63
 福 屋 いずみ PF35
 藤 桂 JF06
 藤 井 厚 紀 PG43
 藤 井 志 保# PE31
 藤 井 真 紀 PB79,PB80
 藤 井 靖 JD06
 藤 井 義 久 PA74
 藤 江 康 彦 PG68
 藤 枝 静 暁

PD49,PE76,PE77

伏木田 稚 子 PF41
 藤 澤 啓 子 JF05
 藤 澤 伸 介 JB01,PD18
 藤 澤 信 義# 研企シ2
 藤 田 敦 PA39
 藤 田 文 PB09
 藤 田 依久子 PG52
 藤 田 清 澄# JH05
 藤 田 正
 PF43,PF44,PF45

藤 田 哲 也
 PF39,PF40,PG44,PG45
 藤 田 昌 也# PG70
 藤 田 和加子 PC21,PH17
 藤 村 あきほ PA29
 藤 村 宣 之 JE01
 藤 森 裕 紀 PH42
 藤 原 健 志 PD12,PD13
 藤 原 忠 雄 JE04,PH14
 藤 原 照 浩 PE19
 布 施 光 代
 JE02,PB72,PH25

二 村 郁 美 PG06
 古 屋 美 樹# PF79
 分 寺 杏 介# JF01

— へ —

別 府 悦 子 JH04
 Bembennuty, Hefer# 準企基,JB04

— ほ —

侯 玥 江# PC60
 保 坂 裕 子 PB74
 星 田 由 哉 PB79,PB80
 細 谷 一 博
 JC05,PF62,PH63
 堀 田 千 絵 PA32,PD34
 堀 優 太 PE14
 堀 江 奈 央 PH53
 堀 江 有 里# 研企シ3
 堀 野 良 介# PC35
 本 郷 一 夫
 PC06,PC07,PC08,PC09,PC10
 本 塩 彩 衣# PA57
 本 多 潤 子 PA01
 本 多 智 佳# JF05
 本 間 優 子 JG02,PF01

— ま —

前 田 浩 伸# PB26
 前 原 由喜夫 PE59
 牧 郁 子 PC71,PH72
 正 木 澄 江# PG09,PG10
 増 井 晃
 PH57,PH58,PH59
 益 川 弘 如 JC02
 益 川 優 子 PF54
 増 田 公 男 PA10

増 田 珠 巳# PB02
 舛 田 弘 子 PB44,PB45
 増 田 優 子 PH73
 益 谷 真 PA71
 増 南 太 志 PE76,PE77
 増 本 紗也香 PH28
 町 岳
 JB05,JD01,PG20
 松 井 剛 太# PF64,PF65
 松 尾 剛 JB01
 松 尾 紗 希# PA80
 松 尾 千 佳# PF79
 松 岡 真由子

PC41,PF26,PF81

松 岡 弥 玲 PD56
 松 川 奉 央 PB20
 松 熊 亮 PF09
 松 下 慶 太# PD31
 松 嶋 秀 明 JH03
 松 島 る み PB28,PB35
 松 田 侑 子 PC66,PG61
 松 戸 結 佳# JC04
 松 並 知 子

研企シ3,PB53,PB54

松 野 真 PA52
 松 野 実 PG57
 松 原 耕 平 PG70
 松 村 朋 美# PC29
 松 本 明日香 PF49
 松 本 聡 子# PB08
 松 本 淳 子 PB50
 松 本 麻友子 PC78
 松 本 みゆき JE04,PB71
 松 本 有 貴 JG04,PB59
 松 山 康 成

JA05,PA58,PC67,PC68

真名瀬 陽 平 PH62
 マナロ エマニエル JH01,PG30
 丸 山 真名美 PC23

— み —

三 浦 巧 也 PH67
 三 浦 睦 美# JD04
 三 浦 優 生# PB65
 三 國 隆 子 PE21
 三 島 浩 路 JA03,PH65
 三 島 知 剛 JA03,PG18
 水 野 君 平 PC60,PE73
 水 野 智 美
 JC05,PD48,PF22,PG58

水野治久 研企シ2, JF03
 水野裕子 PG58, **PG65**
 水野雅之 **PG59**
 水本深喜 PG09, **PG10**
 溝川藍 PA06, **PH04**
 三田村仰# PG70
 路川達阿起# PF33
 道田泰司 **PB37**
 光田基郎 **PA27**
 光永悠彦 **PE78**
 皆川順 **PA25**, PE80
 皆川直凡 **PA26**
 南学 **PC02**
 箕輪潤子 **PD06**
 宮内健 **PC36**
 宮川治 PC32, PD83
 宮城徹# PF51
 三宅幹子 **PA77**
 宮崎昭# JG04
 宮崎清孝 **PA28**
 宮下敏恵
 PH57, PH58, PH59
 宮田佳緒里 PA44, **PA45**
 宮田まり子# PE75, PG46
 宮野祥雄 **PA11**
 宮本友弘
PA40, PA82, PB32
 宮本雄太# PG46
 三和秀平 PD46, **PD77**

— む —

向居暁 **PD57**
 向井敦子 **PD01**
 向井隆久 **PC30**
 向出章子
 PC57, PC58, PC59
 向笠章子 PD78, PD79
 武蔵由佳 JD03
 武藤世良 **PE48**
 村井潤一郎 JH02
 村上隆# JD05
 村上達也
PD12, PD13, PD29, PE11
 村上凡子 **PB64**
 村上祐介 JF02
 村瀬俊樹 **PA48**
 村瀬公胤 JC02
 村瀬由加里 **PG27**
 村山航 PD29, PE11
 村山恭朗 JD05

室橋弘人 JH02, PB08
 室谷雅美 PF32

— も —

Moira, Mikolajczak# PE49
 茂木成友 **PH60**
 本岡寛子 PG70
 元吉忠寛 PD53
 森恵子 **PF18**
 森慶輔
 PH57, PH58, **PH59**
 森茂起 PE72
 森俊博 **PG51**
 森智史 **PH47**
 森秀樹# PB31
 森玲奈 **PE36**
 森泉慎吾# PG29
 森際孝司 PG70
 森下文
 PC57, **PC58**, PC59
 森嶋尚子 PD42, **PD43**
 森田英嗣 PC74
 森田美弥子 PC79
 森永秀典 JD03, **PB16**
 森永康子 PG56
 守谷賢二 JB02
 守屋明佳 **PE40**
 守山紗弥加# JA01

— や —

矢崎裕美子 PB19
 八島美菜子 PF64, PF65
 安永悟 JA01
 矢田尚也# PD36
 柳忠宏 PA64
 柳澤香那子 **PF47**
 矢野正 **PC39**
 山岡明奈 **PH44**
 山際勇一郎 PA46, **PA49**
 山口悦司# PF21
 山口一大 PG19
 山口悟史# PA79
 山口剛 PF39, **PF40**
 山口洋介 **PD38**
 山口禎恵# JB02
 山崎勝之
 JF02, PA78, PA79
 山崎晃
 PF64, PF65, PG57

山崎亜寿美 **PG54**
 山崎加奈 **PA19**
 山地弘起 **PA34**
 山下純子 PB56
 山下徹# PH24
 山下倫実 PE53, **PE54**
 山下陽平 PD78, **PD79**
 山田恭子 **PG71**
 山田剛史 JH02
 山田幸代 PD78, PD79
 やまだようこ# JB03
 山田洋平 **PA68**
 山田嘉徳 **PD35**
 山中一英 PG38
 山根嵩史 **PE39**, PG26
 山根隆宏
 JD05, PB59, PD58, PG16
 山村麻予 PA05, **PE62**
 山村豊 PB79, PB80
 山本晃 PE71
 山本晃輔 **PD40**
 山本奨 **PA62**, PC72
 山本琢俣 **PH29**
 山本卓也 **PG37**
 山本ちか
 JE03, PG14, **PG15**
 山本睦 **PC12**, PC53
 山本利枝 JG04
 山本博樹
 JD01, JF03, **PA36**, PE37
 山本正顕 PH10
 山森光陽 **PC22**
 山脇望美 **PH78**

— ゆ —

湯浅哲也 **PG80**
 湯川進太郎# PH44
 湯川隆子 研企シ3
 弓削洋子 **PB52**
 湯澤正通 研企シ2, PE30

— よ —

楊嘉寧 **PF42**
 横嶋敬行
 JF02, **PA78**, PA79
 横田靖子 **PF76**
 吉井英博# PC39
 吉岡昌紀 **PA50**
 吉岡真梨子 **PF48**

吉岡亮衛 PB83
 吉川詩織 PH03
 吉國秀人 PB26
 吉崎聡子 PD39
 吉澤英里 PE33
 吉澤寛之 準企シ4,JD02,
 PF12,PG48,PG49,
 PG50,PG71,PH77
 吉田琢哉
 JD02,PG48,PG49,PG50
 吉田哲也 PG60
 吉田俊和
 JD02,PG48,PG49,PG50
 吉田甫 JD01,JG03,PE18
 吉田広毅# PB65
 吉田満穂# PH15
 吉中淳 PB29
 吉永真理 PF67
 吉野巖 PC24
 吉野優香 PE52
 吉橋由香 PA07,PD65
 吉原勝 PG64
 吉村啓子 PB11
 吉村齊 PB47
 吉村麻奈美 PC50
 吉村嘉文# PG49
 吉森丹衣子 JB02
 淀川裕美 PD37
 米山祥平 PE42
 米山正文# PD02

— り —

李岩 PF34
 李沐陽 JH01
 Lyamzina, Yuliya# 準企シ3
 龍祐吉 PB03

— わ —

若尾良徳# PA46
 若林紀乃
 PC63,PF64,PF65
 若林正晃 PG35
 若松養亮 PA51
 若本純子 JF04,PH55
 脇坂文貴# PB65
 脇田貴文 PH35
 和田美香 PG12
 綿井雅康 JD06,PG67
 渡邊賢二 PC04

渡邊仁 PH66
 渡部真奈美 PE79
 渡邊元嗣# JA02
 渡辺弥生
 準企シ1,JF04,PB70

日本教育心理学会第59回総会準備委員会

委員長 氏家達夫

| | | | | | |
|----|-------|-------|-------|------|------|
| 委員 | 五十嵐 祐 | 五十嵐哲也 | 石井秀宗 | 金井篤子 | 金子一史 |
| | 清河幸子 | 窪田由紀 | 河野莊子 | 永田雅子 | 中谷素之 |
| | 平石賢二 | 松本真理子 | 森田美弥子 | | |

日本教育心理学会第59回総会プログラム

| | |
|-----|-----------------|
| 発行日 | 2017年9月7日 |
| 発行者 | 一般社団法人 日本教育心理学会 |
| 印刷 | よしみ工産株式会社 |

日本教育心理学会第59回総会

広告掲載・出展社ご芳名

| | |
|---------------|-----------------|
| アイ・ビー・エス・ジャパン | 明石書店 |
| 学苑社 | 風間書房 |
| 学研教育アイ・シー・ティー | 金子書房 |
| 北大路書房 | クロス・マーケティング |
| サクセス・ベル | サン・エデュケーショナル |
| 三京房 | 実務教育出版 |
| 新曜社 | 世界の医療団 |
| テキスト | 統計質保証協会統計検定センター |
| トビー・テクノロジー | トーヨーフィジカル |
| トロル | ナカニシヤ出版 |
| 西村書店 | 日本能率協会総合研究所 |
| 日本文化科学社 | ニホン・ミック |
| 博報児童教育振興会 | 福村出版 |
| 放送大学教育振興会 | 北樹出版 |
| 丸善出版 | ミネルヴァ書房 |
| 有斐閣 | よしみ工産 |
| 楽天リサーチ | 黎明書房 |

(五十音順 敬称略)

本総会を開催するにあたり、上記各社より多大なご支援をいただきました。
心より感謝申し上げます。

2017年9月

一般社団法人 日本教育心理学会
理事長 小野瀬 雅 人
第59回総会準備委員会
委員長 氏 家 達 夫